

750-195



1200501594101

195

東文化學院教授  
支新民會中央指導部委員

藤澤親雄 著

# 大陸經綸の指導原理

附、世界の動向と皇國日本

第一出版



223



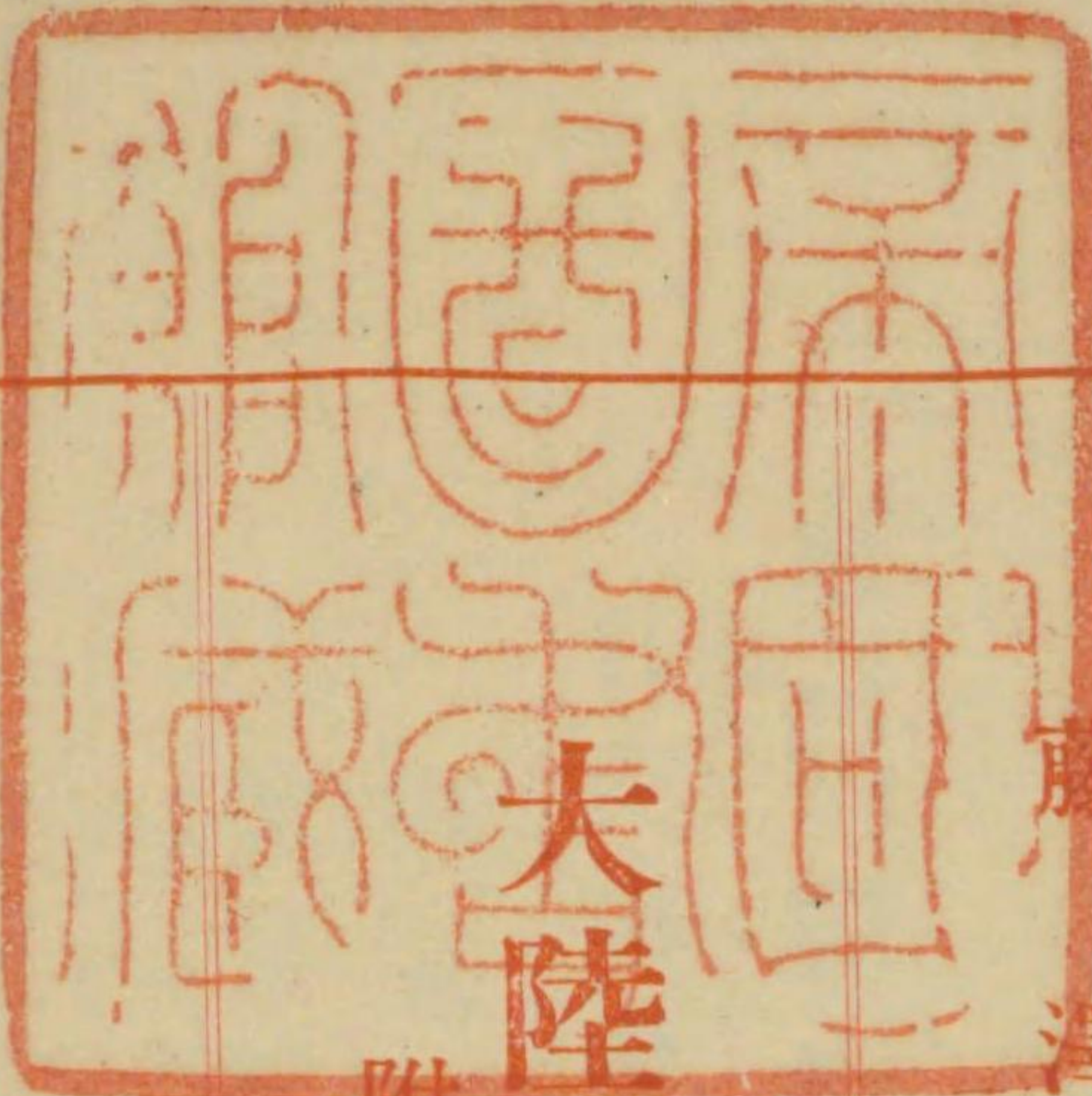
大東文化學院教授・北支新民會中央指導部委員

藤澤親雄 著

大陸經綸の指導原理

附 世界の動向と皇國日本

第一出版社





750  
195

目次

まへがき……………一

東亞經綸の指導原理……………一

日支事變の思想的究明……………三

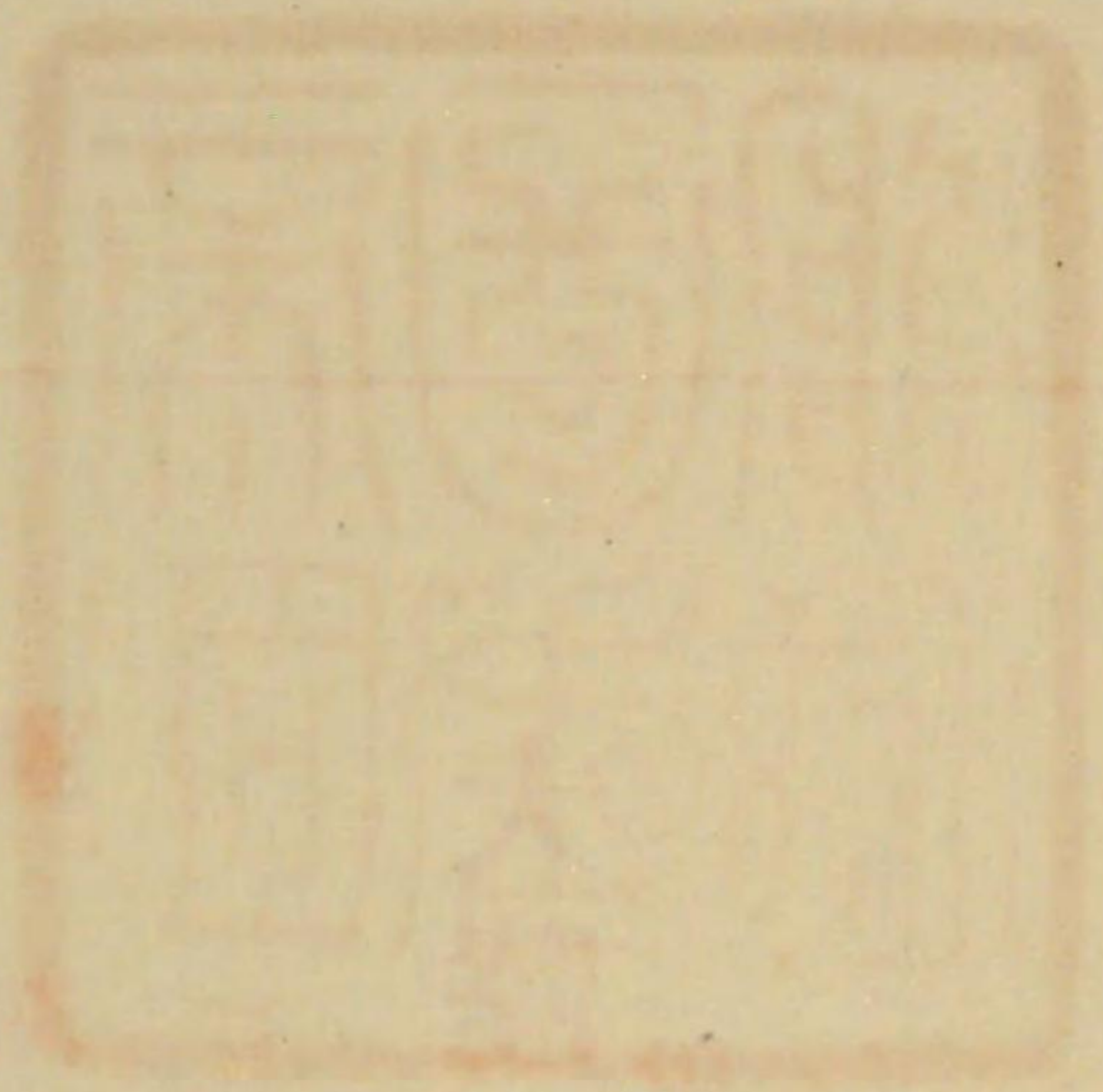
英米佛の自由主義……………三

搾取の客體としての支那……………六

マルキシズムの動向……………八

日本國內の思想的轉換……………二

東亞聯邦の基礎的論理……………三





東亞は運命的共同體(上).....	二五
東亞は運命的共同體(下).....	二六
武力行使の思想的眞義(上).....	二七
武力行使の思想的眞義(下).....	二九
盟主日本の必然的使命(上).....	三二
盟主日本の必然的使命(下).....	三三
北支に於ける思想的動向.....	三五
東亞は全體としての一有機體.....	三五
教科書改訂問題.....	三七
北京は優雅なる東洋的繪卷物.....	三九
國立私立の諸大學に就て.....	三〇

輔仁大學の毒瓦斯研究所.....	三三
抗日排日の思想的溫床.....	三四
大美樓に於ける座談會.....	三五
官僚的な我が對支文化事業.....	三七
錢 稻 孫 の 蟋 蟀 談.....	三六
思想國策に留意せられよ.....	三九
北支文化工作の要諦は.....	四〇
我が民族の道義使命遂行の段階.....	四二
北支經綸の指導原理.....	四三
運命共同體としての東洋.....	四四
勝海舟の江戸城引渡し.....	四六



一元的全體としての東亞の再興……………	四七
支那民衆解放戦への參與……………	四九
<b>日本精神と新民主主義……………</b>	<b>五三</b>
支那事變の意義……………	五三
新民主主義の誕生……………	五五
日本精神と新民主主義……………	五九
儒教の新生命とその新民主主義……………	六〇
日本の責任と皇軍の新政權への協力……………	六九
<b>新民主主義の哲學的基礎……………</b>	<b>七三</b>
<b>東洋民族運命共同體再建の急務……………</b>	<b>七九</b>

北支より歸りて……………	一九
<b>新民主主義と日支關係の更新……………</b>	<b>二七</b>
<b>北支文化工作の諸問題……………</b>	<b>二五</b>
日支心の一致が必要……………	二五
新民主主義綱領の解説……………	二六〇
東亞盟邦結成のイデオロギー……………	二六七
<b>世界の動向と皇國日本……………</b>	<b>二九四</b>
世界の動きと日本……………	二九六
三大國際政治思想……………	二九六
支那事變と英國の動き……………	三〇七



蘇聯の赤化と防共協定……………二二〇

非常時局と皇道國際政治……………二二三

歐洲最近の政治動向……………二四六

序……………二四八

英 國……………二四九

獨逸及伊太利……………二七一

結 び……………二八二

資源再分配問題を繞る國際政局……………二八三

列強の世界觀と日本民族の使命……………二九三

新興ナチス獨逸と傾く英國の印象……………三三四

まへがき

漢口陥落を重大轉機として、いやが應でも我が國は長期東亞建設の爲めの飛躍的一大國策を樹立して、これが實現に飽くまでも邁進しなければならぬ。天つ神が伊邪那岐伊邪那美二柱の神に啓示し給ふた修理固成の大和民族の大理想は着々として東亞の大陸に顯現されつゝある。今や功利主義的、自由主義的なる個人意志を超絶する道義的な神ながらの民族意志が全面的に發動してゐる。今更ながら我々は神意の玄妙深刻なる働きに驚かされる。

日本は東亞の解放に對して全責任を負はなければならなくなつた。この度の事變は實に世界史的なる重大意義を包藏する。

第十九世紀に繚亂の華を咲かせた所謂近代文明は西歐以外の世界を犠牲として建設せられたるものであつて、その内部に幾多の矛盾と非良心的なるものを含んでゐたのである。



今日、この内部的欠陥と弱點とが白日の下に曝されんとしてゐる。

宇宙と世界とは生成發展して息むところがない。大戰後に出來上つた世界の政治經濟機構は新興諸民族の伸暢と膨脹への桎梏となり、到る處に於いて國際的不安と鬭争とを醸成してゐる。

世界の現状を維持することによつて、當然崩壊すべき第十九世紀の經濟功利主義的文明を既倒に廻さんとして懊惱する英國に代りて、道義的理想主義を提げて蹶起した日本の姿が世界に大きくクローブアップされて來た。我が日本は人類良心そのものの體現者となり、各民族をして眞にその處を得せしむるが如き新しき世界秩序創造の戰士として勇敢に戦はんと欲する。眞の敵は蔣介石政權の背後に隠れて我が世界使命の遂行を妨害しつゝあるソ聯と、英國を主とする二三の西歐列強である。ソ聯と我國とが本質上相容れざる事はこゝにくだく述べる必要はない。我々は盟邦獨伊と固く結束して防共世界戦線を益々強化して行けばよい。しかしこの際特に國民がはつきりと認識しなければならぬのは日英の宿命的な對立關係である。日本は世界人類の眞の幸福繁榮の爲には自己犠牲さへも敢て辭せざるに反し、英國は自己の利益を確保する爲には世界人類を犠牲にしても差支へないと思つてゐる。こゝに事變の大義名分が存在する。實際英國が政治的に東亞大陸から手を引くに非ずんば日支の眞の提携協力は不可能であり、亦従つて眞の世界平和の確立も出來ない。

此等の點に關し我國民は明確なる認識と覺悟とを持つと同時に又強烈なる信念を持たねばならぬ。更に此の信念は必然的に具體的なる創造的實踐へと發展すべきものである。軍事行動と經濟開發とは之を一元的に貫く眞摯高邁なる指導原理が徹底する時に於てのみ眞の効果を收め得る。

事變に關して喚發せられたる御詔勅に仰せられてある日支の提携協力を實現し東亞の恒久的平和を確保するが爲には先づその精神的地盤が創造されなければならない。此度の事變は西歐自由主義をイデオロギーとする國際法によつて意識的無意識的にゆがめられて來た日支の變調的國際關係を「道」に即する道義的國際關係に建直することを目的とする思想戦であり、義戦である。

故に支那と同時に日本も又深刻なる反省を行はねばならない立場にある。支那が自由主義の變形たる三民主義と之を温床として發生せるコミンテルンの共產主義とを克服して本來の東洋精神の傳統に立ち還らねばならぬと同じく日本も亦不純なる全てのイデオロギーを果敢に清算して皇國本來の日本精神に力強く生きなければならぬ。かくてこそはじめて日支の間に心と心との融合が實現せられ得る。官僚的法治主義を楯にとつて獨善的に一方の主張を他方に強壓するが如き從來の對支文化事業のやり方は是非とも改められねばならぬ。日本と支那との活力に満ちた新興有識層が共同の戦友意識に力強く結ばれ、心から協力して東亞運命共同體を再建せんと決意する場合に於いてのみ



問題解決の曙光が輝きはじめる。

従つて日支の協力を根幹とする東亞の文化工作と思想工作とに携はるべきものは高貴なる道義的理想に燃ゆると共に創造的實踐に耐ゆる氣鋭少壯の人物でなければならぬ。創造的迫力と魂の純潔さを失つてたゞ長いものにまかれてゆくやうな老成の人々の形式的な折衝交渉の時代は既に過ぎてしまつた。

東方新文化の建設を自己の生命とし、使命とし、之が實現の爲にはあらゆる難關をも突破せんとする情熱と信念とをもつ日支兩國の新しき人物が人生意氣に相感じて、固く手を結び合ふ以外に問題の徹底的解決法はあり得ない。

眞摯なる戦友意識の下に日支が共同に東洋人の高き立場に立つて眞心から提携協力して東亞の再建に全力を打ち込んでゆくか、それとも日本が英國と利己的な利害の立場から妥協して支那を搾取分割の共通對象物として取扱つてゆくか、この何れかの態度を取る事によつて此度の事變の意義は全然異つてくる。勿論我々は第一の態度を飽迄も貫徹して第二の態度の打倒に猛進すべきである。

著者は此の理想を懷いて昨年の秋以來度々北支に赴いて直接現地の日支兩國人と個人的に絶えず接觸して、微力乍らも文化工作と思想工作に寄與する處があつた。本書に收めてある論稿の主な要

る部分はこの直接體驗に基いて執筆したものである。或は重複してゐる所もあるが、その儘にして置いた方が實感をよりよく傳へることが出来ると思つたから敢へて改竄しなかつたのである。この點は讀者の御諒察を乞ひたい。

素より此等の論稿は倉皇多忙の際に成つたものであるから充分推敲する餘暇もなく、従つて意に滿たない點が少くない。然し何らかの意味に於いて東亞經綸の國策的大方針に貢獻し得るならば望外の幸である。

昭和十三年八月四日

著 者 誌 す



大陸經綸の指導原理



## 東亞經綸の指導原理

### 日支事變の思想的究明

今次の支那事變は日本が有史以來直面せる最も重大なる國家的試練であるが、結論的にいふならば、それは思想戰であり、文化戰であり、世界觀の根本的な鬭争である。

#### 一、英米佛の自由主義

惟ふに現在世界に於ては本質的に相異なる二つの國際政治哲學と、之に基礎づけられた國際政治機構が存在してゐることを、はつきりと認識しなければならぬ。その第一のものは近代西洋に源を發する個人主義哲學が國際生活に顯現したるものであつて、西力東漸に伴ひ一時支那も日本もそ



の思想的支配の下に置かれるに至つた。殊に世界大戰後、米國の提唱に依り、英佛が指導する國際聯盟が成立し日支が共に参加するに及んで、この種の國際政治イデオロギーは東洋に深く浸潤するに至り、日支間の國際關係もこの同じイデオロギーに依つて支配せらるるに至つた。個人主義的國際政治イデオロギーに従へば、各國若しくは各國民は相互に獨立平等なる資格を有し、相侵さず、皆絶對的國家主權を行使し得るものと考へられてゐる。而してこれらの國家はその利己的目的を追求し、自國のみの政治並びに經濟力を擴大強化するに汲々として他國の利害休戚に對しては無關心なる事を原則とするものであるけれ共、かくの如きを以てしては國家相互の關係即ち國際關係を安定せしめ得ない。茲に於てか、各國は已むを得ず相互に妥協して勢力の均衡を確立し、表面的なる平和關係を維持せざるを得ない。従つてたとひそれらの各國間に國際的平和が維持せらるるとしても各國は飽くまで孤立の單位であり、相互に潜在的敵意を包藏してゐる。而して彼等の利害が到底一致し得ざる場合には、平和を破壊し、本來の絶對的主權を取り戻すべく勝手氣ままな行動に出でんとするものである。かくの如き利益社會的な國際關係に於ては道義的關心地を蕩ひ、經濟的利害の平面的妥協に依つてのみ事が決せられる。一言にして言へば、全體としての國際共同體が存在し、各國は之が有機的なる構成要素として第二義的なる單位を構成するに非ずして、先づ第一に絶

對孤立單位としての國家が存在し、然る後これらの國家が相互に妥協し得る範圍に於てのみ、相一致して一種の利益的國際社會を構成してゐるのである。従つて各國家は原則として相互に干涉し得ず、表面はあくまでも平等的立場を尊重すると主張するものである。然るに國內に於ける絶對個人尊重の所謂自由主義が次第に經濟的強者が經濟的弱者を思ふ存分搾取する資本主義に墮落したる如く同じイデオロギーに依つて基礎づけられたる國際社會も亦同じ道程を辿るに至つた。詳言すれば表面上形式的に平等獨立と考へられて來た諸國家は實質的には經濟的に強國群と弱國群の二つのカテゴリーに分れてしまつた。具體的に東洋の國際關係について述べるならば、英、米、佛などの西歐諸強大國が日本を除く東洋諸民族、就中、支那、暹羅を平和の美名に隠れて經濟的に思ふ存分搾取した。表面上、國際親善を唱ふる所謂インターナショナルイズムはかくの如き性質を有するものである。ワシントン會議に於て締結せられた四ヶ國條約、或は九ヶ國條約、乃至ケロッグ不戰條約の如きも結局かくの如き國際資本主義的現狀維持をあくまで擁護せんとする意圖に出でたるものと斷ぜざるを得ない。



## 二、搾取の客體としての支那

支那は金の卵を産む鶏にもたとへられよう。歐米資本主義的列強は支那の領土保全、内政不干渉の美名の下に、此の鶏を保護し、之が産み出す金の卵を出来るだけ多く懐に納めることを考へたのである。従つてこれらの列強にとつて支那は文化的に尊敬すべき國としては映せず、唯經濟的な客體として取扱はれるのである。勿論、英、米、佛等の宣教師或は教育家が個人の資格に於て支那人の爲に各種の文化事業を營んでゐるけれ共、國家的なる意圖はあくまでも經濟的搾取にあることを見逃してはならない。換言すれば、これら列強にとつて支那は最も有力な市場であり、且つ豊富な資源保有國である。即ち經濟的搾取の對象に過ぎないのである。従つて彼等は支那人が阿片によつて支那人の肉體を害しようが、或は支那の中央政府が可憐な大衆を苛斂誅求して悲惨な状態に陥れようが、そんなことは顧着しない。更に又列強は支那の軍閥に軍需品を賣附けて巨額の利をむさぼり、その結果、支那の民衆がどれほど兵火の犠牲にならうが構はない、ただ支那と表面的な親善關係を保つて行かうといふのが資本主義諸列強の平和論である。

英國は自國の資本主義が行詰り、生産過剰となるに及んで、その餘剩貨物を支那に於て賣捌かん

と欲して、種々策動を續けてゐるのである。リース・ロスが渡來して、所謂幣制改革を行ひ、支那の通貨をバウンドにタイアップし、支那を完全に英國の財政的傀儡と爲したのも之が爲めである。故に英國は浙江財閥と固く結び、後者が支持する國民政府（舊南京政府）を絶対に支持して來たのである。今日英國と國民政府は一身同體で之を分離することは不可能である。英國は一方國民政府を通じて間接に支那大衆を搾取して巨額の利をむさぼると同時に、他方に於ては之に資本と技術と武器とを與へて、之を強化し、之に反對する諸勢力、殊に日本を抑壓しようとするのである。従つて英國の望む所は國民政府をあくまで利用して、その利己的なる資本主義的政策を遂行することである。このことは支那に於ける英國租界を見れば直ちに了解される。ここでは英國は支那人を搾取して高層なる家屋、工場を建設し、又堂々たる競馬場、ゴルフ場を設け、豪華な經濟的生活を營んでゐる。而かも老獪なる外交を發揮して、面子主義の支那人の自尊心を傷けず、只實質的に彼等を搾取し、其の本來の偽善的紳士道の大膽に行つてゐるのである。この現状をあくまで維持せんとするのが英國の平和論であるのを氣付かねばならぬ。即ち英國人は國際的資本家であり、支那人は國際的プロレタリアである。



### 三、マルキシズムの動向

以上の形式的平等と實質的不平等との矛盾が終に從來の利益社會的國際主義に對する辛辣なる再批判を惹起せしむるに至つたことは寧ろ當然といはねばならぬ。ここに於てか、蘇聯の世界赤化主義が國際政治の舞臺に登場したのである。彼等は被壓迫民族の解放を叫んで資本主義諸國に對し決然と挑戦するに至つた。恰度國內に於て個人平等の自由主義が資本主義を招來し、更に資本主義によつて社會が有産無産の大陣營に分裂したる結果、階級闘争を主張する社會主義、進んではマルクス主義を生み出したるが如く、自由主義的國際社會も同じプロセスを経て、蘇聯ヴォルシエヴィズムを自己の内部に胚胎せしむるに至つたのである。

コミンテルンのイデオロギイに従へば、表面上、相互に平等獨立であるべき各國家の關係は實質的には資本主義的なる國家群と無産主義的なる國家群の間に存在する搾取被搾取の關係である。而してかくのごとき不公正にして社會正義に反する國際秩序を徹底的に破壊し、各國に於て形式的なる政治平等のかはりに實質的なる經濟的平等を實現せしめようといふのが共產主義の國際的顯現たるヴォルシエヴィズムの意圖するところである。即ちヴォルシエヴィズムの世界赤化革命なるもの

は現在の資本主義國家機構を破壊して、無産者獨裁政治を行はしめ、之を蘇聯モスコイ中央政府の直接配下に置き、世界全體を一元的に尨大なる蘇聯たらしめ、然る後、所謂階級なき世界を再建するといふ考へなのである。即ち彼等の説く所によれば民族（ネーション）は資本主義時代に於ける特産物であり、従つて所謂近代民族國家なるものは、その實、資本主義階級が無産階級を壓迫搾取する爲めの權力機關に過ぎない。これがエンゲルスの主張する所であり、今日では蘇聯最高幹部が抱懷する思想である。スターリンの著書に於てもその事は各所に表はれてゐる。

この國家觀は英國の如き高度資本主義國家には當嵌るが、東洋の諸國、殊に我が道義國家には絶對には當嵌らぬ謬説である。然るにも拘らず、蘇聯の赤化機關たるコミンテルンは總べての世界國家が無産階級壓迫の權力機關なる如く妄想し、民族國家と民族文化の徹底的破壊に狂奔しつつある殊に西洋に於ては獨逸、東洋に於ては日本に對し、赤化の全勢力が傾倒されつつあることは人類文化史上の悲劇と言はねばならぬ。

自由主義に於ては平等の個人が相互に對立し、マルクス主義に於ては經濟的利害の立場から到底融合し得ざる二つの社會階級が對立する。而も自由主義は歴史的に見てマルクス主義を産み出したる思想的母體であり、經濟萬能の世界觀を共通に有するものである。自由主義とマルクス主義とは



表面上相反するが如きも、實質的には同じ世界觀の異なる二つの顯れである。さればこそ一九三五年の第七回世界コミンテルン會議に於て、共產黨が社會民主主義者並びに自由主義者と提携して所謂國際人民戰線を結成し、彼等の所謂ファッシュ諸國、即ち自由主義並びにマルクス主義と本質的に異なる民族主義世界觀の國家であるポトランド、ドイツ、イタリー、ポルトガル、スペインのフランコ政權、及び日本に對し一大攻勢を執るに至つたことは容易に肯かれる。

何れにせよ、一九一七年の十一月に社會主義政權を確立し得たる蘇聯は次第に世界赤化の銳鋒を現はし、歐洲並びに日本に向つて強く働きかけて來た。我國に對しては、皇室を以つて恰も資本主義の本據の如く妄想して、日本共產黨をして反國體的なる策動を行はしめたのである。

更に東洋殊に支那に於て、先づ資本主義強國の代表者として英國を槍玉に擧げ、香港及び上海に於ける排英的行動を採らしめたのである。支那に於て蘇聯の意圖する所は一方英佛米の如き資本主義列強を驅逐すると共に、英の傀儡たる國民政府を打倒して、中國共產黨をして社會革命を行はせ獨裁政權を樹立し、之をモスコウの直接配下に置かんとするのである。この根本政策は第七回コミンテルンの決議にも拘らず一定不動である。

中國共產黨が表面上、國民黨と提携しても、それは一つの戰術に過ぎぬ。終局は支那のソヴィエツト化を目指すことに變りはない。

#### 四、日本國內の思想的轉換

さてこゝで考へねばならぬことは、日本の思想的態度と立場とである。日本は本來、道義立國の國家であり、東洋精神文化を指導原理として崇高なる民族使命を遂行すべきものなるに拘らず、明治の後半に至り、西歐の自由主義文化の強き支配を受け、更に大正に入りては、マルクス主義文化の洗禮を受け、知識指導者層は次第に日本本來の傳統より離るるに至つた。殊に世界大戰の前後に於て日本は支那に對して帝國主義的政策を以つて臨み、英米に追隨して西洋的自由主義の國際イデオロギーを信奉するが如き悲しむべき状態を招來したのである。かの幣原外交の如きも表面は平和の美名の下にかくれ、たゞ支那を經濟的に搾取せむと企圖したものの如く考へざるを得ない。

この間我國の教育も著しく自由主義化し、主なる新聞雜誌に著るる論説の如き、概ね自由主義イデオロギーのものか、マルクス主義イデオロギーのものに限られた觀があつた。日本精神若しくは東洋精神文化を堂々と主張するインテリに至つては曉天の星の如く少かつた。されば留日支那學生



は勿論、支那に於ける新人は日本の不健全なる言論に深く影響せられたのである。詳言すれば、彼等は日本が文化的に又思想的に考へて、自由主義の本據たる英米とマルクス主義の本據たる蘇聯の屬國に過ぎないと思つたことも強ち無理とはいへない。茲に支那毎日の深き根源が存在する。かくの如くして日本並びに支那は蕩々として西歐的唯物主義の濁流に包まれ、東洋本來の傳統的精神を失はんとしてゐたが、天佑なるかな、この時、滿洲事變が勃發したのである。それは三千年來、日本國民に傳はつた健全なる民族的世界觀が、表面的に移植せられた個人主義世界觀と、階級主義世界觀とを全面的に克服清算せんが爲に起つたものである。その結果、日本は自由主義の國際聯盟より脱退し、更に王道を指導原理とする滿洲國を建設せしめたのである。日本國內に於ても大なる思想的變動が起り、傳統的なる日本精神が強烈に擡頭して、明治以來、殆んど無批判に輸入せられて來た自由主義とマルクス主義とを峻烈に批判し、東洋の健全なる精神文化に立ち戻らんとするに至つたのである。即ち日本精神運動の目指す所はリベリズムとマルクス主義とによつて分裂し對立する種々の社會層を強く結束せしめて、日本國家をすめらみくにの本來の姿に復せしめることである。ここに於てか意識的にせよ、或は無意識的にせよ、日本精神の傳統をそのままに繼承し來れる軍部と、自由主義的なる英米の國際イデオロギーに叩頭し來れる外務當局との間に矛盾撞着を生ぜ

しめた。こゝに所謂二重外交を清算することが急務となつたのである。この度の支那事變は實に大和民族本來の世界觀、即ち皇道が國の内外に於て自由主義世界觀と階級主義世界觀とを克服して、全人類に光被せんとする文化的聖戰である。我々はそこに本事變の大義名分を發見する。御詔勅に於て大義を宇内に顯揚すと述べられてゐるのはこのことに外ならぬ。

ここに於て、東亞文教國策確立の問題は重大なる意義を有つこととなる。端的にいふならば、之が正しく確立せらるるか否かによつて我國運の消長が決定せられるといつても決して過言ではない。かくて日本國家指導原理の再認識と再確立が焦眉の急として要請せられるのである。之がためには自由主義的イデオロギーとマルクス主義的イデオロギーとを思ひ切つて揚棄すると共に、日本精神を抽象觀念の域に止めしめず、之を内外國策の上に力強く顯現せしめねばならぬ。

## 東亞聯邦の基礎的論理



然らば現在に於ける國際情勢に即して東洋精神は如何に再認識せらるべきものであらうか？

又それは如何なる點に於て自由主義的國際政治イデオロギーやコミンテルン國際政治イデオロギーと本質的に異なるものであらうか？ この根本的な問題を理解するに非ずんば、到底眞の國策を樹立することは出来ない、又この點を明らかにすることによつて全支那に亘つて展開されつつある我が皇軍の忠勇無比なる行動がその十二分の効果を收むることとなるのである。

既述せるが如く、リベリズムの國際的顯現に外ならざる英米的インタナショナルイズムに於ては第一に個々別々の國家が存在し、第二次的にこれらの國家が社會契約的に相集まつて國際利益社會を構成するのである。かくの如き國際社會は株式會社の如きものであつて、利害によつて離合集散するものである。この國際的ゲゼルシャフトに於ては道義の代りに利害が國際關係を決定する。これに反し、我々が再認識し且つ再確立せんと欲する國際政治の新しきイデオロギーは全然本質的に異なるものである。前者がゲゼルシャフト的なるものに反し、後者はゲマインシャフト的なるものである。即ちそれは第一義的に見て道義によつて結ばれたものである。過去に於ける東亞の社會は實に一元的な共同體的構成をなしてゐたのである。かつて遣唐使阿部仲麿の如きは當時に於ける支那政府の顯官に任ぜられ、東洋一般文教のために盡瘁したのである。

そもそも共同社會的イデオロギーに於ては、先づ第一に先天的なる運命共同體の全體性が直観せられる。然るのち個人がその有機的な生命分子として認めらるるのである。この全體的イデオロギーが國際的に適用せられることによつて、東亞そのものの本質構成が明かにせられる。言葉を換へていへば、東亞は不可分の大家族的共同體であつて、地理的、風土的、經濟的、政治的に運命的なる紐帶によつて固く結ばれてゐる。ドイツ語の所謂、シツクザルス、ゲマインシャフトである。これを具體的に説明するならば、日本、支那、滿洲國、シヤム等の東亞諸國は獨立平等の孤立單位としての所謂主權國家に非ずして、實に東亞と稱する全體的一大家族共同體の有機的構成部分であると考へられなければならない。従つてこれらの國々は、個人主義的立場から自己の利益と權利とを主張する前に、先づ東亞全體の健全なる發達と、その物心兩方面に於ける向上の誠意をもつて貢獻すべき道義的責任を有するものである。既に述べたるが如く、利益社會の典型は、各自が自己の利益を最も有効に獲得する手段として、後天的に設立したる株式會社である。これに反して、共同社會の典型は總ての家族が全體の道義目的遂行に歸し隨順しゆく先天的存在でありファミリー即ち家である。これと同じく東亞と稱する運命的一大家族を有機的に構成する日本、支那、滿洲國、シヤムは皆その所を得て、差別ながらに其の一大共同目的遂行のため一致協力せねばならぬの



である。

### 東亞は運命的共同體 (下)

茲に注意すべきは、利益社會のメンバーが、いづれも平等の資格を以つて對立するのに反し、共同社會のメンバーは上下立體的なる道義的秩序を形成してゐることである。従つて日支滿シヤム等の國家は平等の資格を以つて平面的國際關係を維持してゐるものではない。即ちこれら諸國の關係は家長的指導者と家族的被指導者との間に存する立體的差別的國際關係であらねばならぬ。

不幸にして現在までの東亞國際關係は、自由主義的國際政治イデオロギーに律せられて來たが、吾々は今回の支那事變を一大契機として之が建て直しを行ひ、新たに立體的なる道義國際關係を意識的に創造して行かねばならぬ。はつきり具體的にいへば、吾が日本は東亞運命共同體内部に於ける家長的指導國家であり、支、滿、シヤム等は家族的被指導國家の立場にある。茲に東亞再建の根本問題が横はる。而してこの立體的なる國際秩序が認められる場合、家長的國家即ち日本は、自己の私利私慾を棄てて己を虚しくし、ひたすら被指導的立場にある支、滿、シヤム等の素質天分を十分に發揮せしめ、その精神的並に物質的福祉實現に盡すべきものであつて、これがためには先づ第一に

深き仁愛の精神に依つて行動しなければならない。而して深き仁愛は當然聰明なる叡智と強力なる意志に伴はれるものである。即ち家長國たる日本は文武を兼備せる内聖外王の王道國家であつて、自己の權力を以つて、征服擄取せんとする霸道的國家であつてはならない。王者が治むべき「天下」とは實に東亞共同體そのものを指示する古の言葉である。ナチス獨逸の政治哲學を借りて説明するなれば、日本の支、滿、シヤムに對する關係は權力獨裁主義の關係にあらずして、實に權威指導主義の關係である。而して被指導的立場にある國家即ち支那、滿洲、シヤムなどは何等の壓迫感を有することなく、日本の道義的家長の立場を諒解し、これに信賴隨順し、協力一致して全體たる東亞運命共同體の健全なる發展完成に努力すべきものなのである。いづれにせよ、日本とこれら諸國家との關係は第一義的には創造愛的なる道義關係であつて、利益打算的なる功利的關係であつてはならない。

### 武力行使の思想的眞義 (上)

家長的立場にある日本は深き創造愛に促されて、時としては武力を行使することが許されるのである。しかし原則としては、仁愛を以つて被指導的立場にある諸民族を教化指導して行かねばなら



ないけれども、若しこの道義的目的に對し、正面から反對し來れる者に對しては、涙をのんで膺懲せざるを得ない場合を想定しなければならない。併しながら武の行使はあくまで道義的なる性質を有し、邪道に陥る者を正道にもどし、彼等をして全體的共同體に對する自覺を呼び起さしむるものでなければならぬ。即ち武といふ文字が「戈を止む」といふ意味であるが如く、武は共に平和なる大家族的共同體の根本的秩序を再建せしむる場合に於てのみ行使せらるべきものであつて、帝國主義的若しくは軍國主義的なる征服意志の發動であつてはならない。

明治天皇は「しきしまの大和心をみがかずばつるぎおぶともかひなからまし」と詠じ給ふた。我が國民は古來、戦ひを道義的見地に立つて考察して來た。即ち古語に於てはこれを「まつろはぬものまつろはしむ」といつた。詳言すれば、吾等の正しき理想に隨順せざるものに壓力を加へて反省せしめ、終に我等の理想に歸一せしむるの意である。隨つて大和民族本來の戦ひは單なる征服でもなく、又掠奪でもなく、實に理想の力づよき顯れであつたのである。隨つてかくの如き武の行使は、自由主義國際イデオロギー及びマルクス主義國際イデオロギーの誤認する如き、他國自由の侵略と領土的征服と經濟的搾取とを目的とする軍事的干渉とは全然本質を異にするものである。

今回家長的立場にある日本が、支那に於て軍事的行動をなしつつあるのは、決して米國大統領ルーズベルトの主張する如き國際的道義の侵犯でもなく、又正當なる人類の權利を否認するものでもない。否反對に眞に支那民衆の幸福の實現を意圖して行はれてゐるものである。東洋精神文化に於けるこの根本原理と、リベリズム及びマルキシズムの觀念する戦争との根本的相違を明かにするに非ずんば、到底日本の眞の平和的意圖は世界に諒解せられない。茲に於て東亞經綸の指導原理の確立は焦眉の急となるのである。

### 武力行使の思想的眞義 (下)

具體的にいへば、日本は維新の大革新を行はせられたる明治天皇の御稜威の下に、東洋の平和と其の保全とに力を傾倒し、東洋殊に支那大陸が帝國主義西歐諸國によつて分割せられることを妨げて來たのである、日露戦争はかくの如くにして敢行せられ、多大の人命と國帑とを犠牲にした。又滿洲國が成立したのも矢張り同じイデオロギーの働きであつた。滿洲國は決して日本の屬領ではなく、特殊なる王道國家であつて、實に東亞運命共同體の根本的世界觀が具現化したものである。五族共和の王道を以つてその指導原理となしたのはこの故である。滿洲國は日滿議定書の締結によつて、



内面的には日本と一心同體であるが、概念的にはあくまでも日本と別個の國家であつて、その文化的個性を保持するものである。王道指導原理は一方英米自由主義の具體的顯現である經濟的擷取を他方に於ては蘇聯マルクス主義の具體的あらはれである赤化思想を克服せんとするものである。然るに南京政府は、日本の眞意を理解せず、自由主義國際イデオロギーにのみ立脚して、日本を侵略國家と斷定し、之に對しあくまで反抗の態度を取るに到つた。詳言すれば當初の間に主として英米と提携して排日教育を徹底せしむると共に、日本攻撃のための豫備行動として、支那の政治的統一を企圖するに到つた。蘇聯コミンテルンに對しては、當初の間、國民黨は之を敵視し、屢々中國共產軍を討伐したのであるが、第七回コミンテルン決議以來、次第に情勢が變化し、國民政府と中國共產黨とは次第に接近し、昨年八月には蘇支不可侵條約を締結したのである。何れにせよ、東亞共同體の有力なる一メンバーとして日本と運命的に相提携し、共同體そのものの大調和發展に努力すべきところ、却つて經濟的には英國ユダヤ財閥の手先となつて、支那の民衆を擷取し、利己政策を行ひ、又思想的には蘇聯の共產主義に共鳴してインテリ層の性格を破産せしむるに到つたのである。而も英米及び蘇聯の策動の命ずるままに、益々抗日意識を強化し來つたのである。これに對し日本は東亞運命共同體の家長國家といふ崇き立場から、隱忍自重、誠意を以つて支那に警告し、日

支の提携とコミンテルンに對する防共的協調を慫慂し來れるにも拘らず、支那は更に耳を傾けず、その極まるどころ、遂に蘆溝橋の不法射擊事件として爆發するに到つたのである。茲に於てか日本は止むを得ず、支那に對し膺懲の陣を進め、彼をして日本が支那の敵にあらず、最も誠意ある運命的友邦なることを自覺せしめんと欲してゐるのである。

### 盟主日本の必然的使命 (上)

今日の我が國は醇乎たる日本精神の大義に立ち、自由主義國家の國外的發展たる弱肉強食の帝國主義に墮してはならない。實に日本が劍をとつて立ちあがつたのは、親が邪路に陥つた子供を正道に導きもどすために制裁を加へる如き、純情深愛の道義的情操に動かされて行動せねばならぬ、日本は領土的野心を遂げんとするものではない。勿論日本は北支の天産資源を大いに開發せんと欲するものであるけれども、第一義的には軍閥の苛斂誅求に惱み來れる民衆を經濟的に解放し、彼等の生活を向上せしむることに全力を集中しなければならぬ。さすれば日本は第二義的にこれらの經濟的利益に均霑し得るのである。故に北支を以つて直ちに利權の目的物と考へてはならない。若し支那民衆が經濟的に向上し、衣食足つて禮節を知る曉に至つては、更に東洋精神を以つてする教育



を與へ、彼等の精神的向上を計らなければならない。これ實に政教一致の王道が要請するところである。

抑々東亞共同體の指導原理たる王道は大調和的綜合精神であつて、個人相互の對立を基本とする英米の自由主義並に階級鬭争を前提とする蘇聯のマルキシズムよりも本質的に更に深きものであり又時代的に見て、更にモダンなるものである。約言すれば東洋的なる全體主義は個人の自由なる發展を保證すると同時に、全體たる共同體そのものの秩序を無理なく確立し得るものである。この點に於てそれは個人の自由のみが主張せられて全體の有機的統制が失はれてしまふ自由主義や、全體の強制的機械的統一のみが確保せられて、個體の創意が否定せられる階級主義よりも更に思想としては完全なるものであり、近き將來に於て全人類に妥當すべきものである。故に我等が新たに主張せんとする東洋精神文化は、自由主義及びマルクス主義發生以前に於ける古色蒼然たる封建的保守主義を意味するものではない。かく如きものをそのままに支那インテリ層の指導原理として押しつけることは正に時代錯誤である。

### 盟主日本の必然的使命 (下)

次に明かにすべきは、道義的全體主義と社會主義若しくはマルクス主義との根本的相違である。この兩者は共に自由主義的資本主義社會の被害を是正せんと欲するものであるけれども、その考へ方が全く異なるのである。

即ち前者は萬物を光被してその個性天分を差別ながらに生成發展せしむる太陽に比ぶべき大調和の創造愛を指導原理とするものである。詳言すれば、東亞共同體の家長たる日本はこの公平無私なる創造愛を體現し、絶對太極の立場に於て一方不當に自己の利害を主張するものを抑壓すると同時に、他方不當に壓迫せらるるものを援助して之を向上せしめ、結局世界の民族をして何れも其の所得しめ、一大調和の共同體を創造しなければならない。かくて自由主義による弱肉強食、無統制の状態が終熄し自ら國際正義が實現されるのである。

然るに後者の場合は對立觀から出發する。即ち道義的情操を尊重せず、直ちに對抗的なる正義觀念を主張するのである。一般に社會正義及び國際正義なる概念は社會主義的イデオロギーの産物である。米國のハウス大佐其の他の西歐政治家は、「有つもの」と「有たざるもの」との相剋を解決するに非ずんば、世界の平和は確立せられないと説いてゐる。具體的にいへば、英、米、佛等の、「有てる」國が現狀維持を主張し、獨、伊、日の「有たざる」國が現狀を打開せんと相對立してゐる。



ると説くのである。併しながら、かくの如き社會主義的なる國際的水平運動に對しては無條件には賛同し得ない。既に述べたる如く、コミンテルンの赤化運動は世界に於ける既存資本主義國家機構を暴力革命によつて打倒し、其の廢墟の上にプロレタリア獨裁を行はしめ之を蘇聯中央政府の下に統括せんと欲するのである。今や支那はかくの如き赤化の危険にさらされてゐる。若し中國共產黨が自由主義を指導原理とせる國民黨を驅逐して中央政府を自己の手に掌握する場合に於ては、民族國家としての支那は消滅し、蘇聯の一州に過ぎないものとなつてしまふであらう。かくなれば支那三千年の光輝ある精神文化は全く破壊せられ、支那民衆は絶望の淵に投げ込まれてしまふであらう。自由主義と共產主義とは其の經濟萬能なる世界觀に於て多大の共通點を有するものである。又兩者共に對立觀にとらはれて人類の深き精神生活の安定を保證し得ない。この點に於て我々の主張する道義的指導原理と本質的に異なるものである。

## 北支に於ける思想的動向

### 附北京各大學の現状

#### 東亞は全體としての一有機體

私は去る十月二日の朝に羽田（註、東京市内飛行場）を出まして、飛行機で、その日の午後二時、大連に参つたのであります。初めの豫定は大連から續いて天津まで飛行する豫定でございましたが、大水が出た爲に已むを得ず大連から汽車に乗りまして、奉天と山海關を經由して、四日の早朝に天津の東站停車場に着いたのであります。若し飛行機で参りますと、天津と大連の間は僅か一時間で参れるのであります。汽車で参りますと云ふと、兎も角も列車の中で二泊するのであります。實に其の差は極めて大きいのでありまして、今更乍ら航空術の異常なる發達に驚かされた次第であります。



飛行機で日本から亞細亞大陸に参りますと云ふと、非常に多くの感想が湧いて参るのであります。若し支那大陸が赤化された場合には、忽ちにして其の危険な思想が日本に傳播すると共に、同時に此の東亞と云ふものは一つの有機的な全體性を構成して居る。言換へるならば、日本とか滿洲國とか支那とか或は遠く申せば暹羅と云ふやうな國々は、個々ばらくの孤立單位としての國家ではなくして、實は經濟的にも地理的にも、風土的にも文化的にも、一つの大きな東亞と云ふ運命的共同體の有機的構成部分であると云ふ感を、非常に深くしたのであります。

四日の朝天津に着いて見ますと云ふと、停車場の直ぐ前にある電話局が、我軍の空爆に依つて滅茶苦茶に破壊されて居ります。其の邊りは當時の凄惨な戦争を思はせるやうな様々の遺物が残つて居ります。穴の明いた大きな壁であるとか、或は鐵條綱の破片が到る處に散亂して居る。其處を通りまして有名な萬國橋を渡りまして、佛蘭西租界に入るのでありますが、それから暫らくして日本租界に入ります。佛租界は現在の所全く平安でありまして、何等危虞する所がございません。目下我軍の方が銳意戦後の諸經營に盡瘁されて居ります。私は主として文化方面の仕事を視察見學致したのであります。全般に現地の状況を見ることが出来なかつたのであります。少くとも文化工作に付て、軍當局は非常に熱心であります。又非常に眞面目であります。頗る嚴肅な規律の中に

文化工作を黙々として行はれて居ります。

### 教科書改訂問題

差當り問題になつて居るのは教科書改訂であります。御承知の如く此の事變後、國民政府の力が北支から一掃せられた結果として、各地に自治會であるとか、自治委員會であるとか、治安維持會と云ふやうな會が簇生致しまして、是が戦後の後始末をして居ります。例へば治安の維持であるとか、或は食料の配給であるとか、或は教育の施設を行ふと云ふやうな、色々な仕事をして居りますが、是は何れも支那人の會であります。此の支那人の會が今日に於ては事實上皇軍の指揮の下に色々な仕事をして居るのであります。然らば教科書はどうなつて居るかと申しますと、御承知の如く従來は徹底的な排日教育が行はれて居つたのであります。下は小學校から上は大學に至るまで統一的に最も猛烈な排日教育が行はれて居つた。そこで今日に於ては差當り其の排日教科書を改訂して、さうして之を學校に用ひる。天津ではどうして居るかと云ひますと、自治委員會の方で其の有害なる部分、即ち排日のことを書いた部分を墨で消しまして、汚い教科書を其の儘に使つて居ります。北京の方では之に反して排日教科書を其儘のものを學校に於て使ひまして、唯々教室で支那



の先生が生徒に詳しい説明をするのであります。此處に書いてある此の排日と云ふことは、是れは是れの理由で甚だ怪しからんことである、間違つて居る。能く其の點を心得て是から心掛を改めなければいかん、と云ふ調子に教へるのださうであります。天津に於ては之を消し、北京に於ては其の儘に使つて居ると云ふ。其の理由は、北京は何しろ支那の文化的中心でありまして、文化の程度が非常に高い。随つて之を消すと云ふことになりますと、却つて逆効果を生ずる虞がありますので寧ろ其の儘にしてあるさうであります。そこで實際の情況を聞いて見ますと云ふと、餘り詳しいことは申上げられませんが、中々是も困難でありまして、やはり視學官と云ふやうな人々が教場を廻つて、先生が果して豫期したやうな説明をして居るかどうかと云ふことを監督しなければならぬ立場にあるさうであります。是は事變後間もないことでもありますし、何しろ排日教育と云ふものが國民政府の政治的の方針であつた以上、直ぐに是が改まるとは思はれないのであります。兎に角教科書に付ては暫定的にさう云ふやうなことが行はれて居りますが、今後に於きましては、もつと本格的な事業を行ふ、即ち教科書改訂委員會と云ふものを組織致しまして、是に各方面の文教權威者を網羅して、新しい教科書を作ると云ふことが考へられて居るやうであります。

### 北京は優雅なる東洋的繪巻物

それから私は六日の朝の汽車で天津を立ちまして、北京に参つたのであります。平常だと二時間で行かれるのでありますが、事變後色々な關係から、汽車が九時間乃至十時間も掛るのであります。各驛に長く停車するのであります。郎坊とか、或は豊臺と云ふやうな驛に参りますと云ふと、當時の戦争の痕跡がそのままに残つて居ります。即ち停車場には土囊が堆高く積上げられて、其處には銃彈の痕が今でも生々しく残つて居ります。さうして我軍の將兵が其處を警戒して居ります。

北京に着きまして城内に入りますと云ふと、表面上昔とちつとも變つて居りません。私は約五年前前に北京に留學して居つたのでありますが、表面上其の當時の北京と餘り變りがなく思はれました。それで其の時に私は沁々考へたのであります。若し共産軍と云ふものが北京を占領したと想像して見るならば、必らずや彼等は總てのものを破壊し、總てのものを掠奪し、跡形もなく破壊してしまつたと思ふのであります。幸にして皇軍が北京と云ふものを擁護した爲に、昔ながらの燦然たる文化が其の儘に残つて居ります。文化的なものには指一本觸れて居ない。實に秩序整然とし



て、昔の儘の北京が私の眼前に現出して來たのであります。北京と云ふ處は、お出でになつた方々は御承知のやうに實に美しい、靜かな街であります。あの北海公園の白塔に登りまして邊りを見廻しますと云ふと、北京全市が一望の下に收められます。後の方には金色の瑠璃の瓦に輝く紫禁城、二十有六年前迄の皇居の紫禁城が中心となつて、美しい古代の建物が竝んで居ります。其の間を埋めて居るのがアカシヤであるとか或は柳と云つたやうな、色々な美しい緑の樹木でありまして、實に北京には樹木が多いのであります。或る人が言つたやうに、北京はお伽嘶に出て來る森の街である。全く其の通りでありまして、其の森に圍まれた所に小さな湖水が澤山ありまして、實に東洋的な繪巻物を繰上げたやうな、何とも言へない優雅な景色なのであります。

### 國立私立の諸大學に就て

さう云ふやうに兎に角表面上には殆ど變つて居りませんが、仔細に檢しますると、色々な點に於てやはり大きな變化が起つて居るのであります。即ち先程寺島君も言はれましたやうに、今まで北京にありました色々な大學と云ふものは、原則として閉鎖されてしまつたのであります。御承知の如く北京には國立大學と私立大學がありまして、國立大學は直接に南京政府の息の掛つたものであ

るのであります。それにはどう云ふ大學があるかと云ふと、北平大學、北京大學、北平師範大學、清華大學、北平藝術專科學校、斯う云ふ五つの國立大學が存在して居つたのであります。殊に清華大學の如きは、米國の團匪賠償金を以て作りました學校で、規模と云ひ、其の設備と云ひ實に堂々たるものであります。是は北京の城外にあるのでありまして、私は行くことが出来ませんでした（五年程前にはよく行つたのでありますが）實に立派な模範的な大學であります。斯う云ふものが現在ではすつかり閉鎖されて居ります。是等の學校に於て教鞭を取つて居つた教授及び學生は、事變と共に皆南方に逃げて参りまして、今では殆ど残つて居りません。それから私立大學は大分澤山あります。

其の主なるものを並べて見ますと、私立民國學院、それから輔仁大學、中法大學、朝陽學院、私立鐵路專科學校、中國學院、華北學院、燕京大學、交通大學北平管理學院、斯う云ふやうな九つの大學専門學校があります。是は色々な系統に屬して居るのであります。其の中で最も有力なるものは何れも外國人の經營に係るものであります。例へば輔仁大學の如きは先程もお話がありましたやうに、羅馬法王廳が金を出して居る學校でありまして、教授の大部分は獨逸人でありまして。獨逸人が主になつて、これに支那人の教授を加へて教育して居ります。燕京大學は、是はやはり城外にあ



る學校でありますが、非常に大規模な學校でありまして、是は米國系の學校であります。アインシユタインが支那に居つた時は此の燕京大學で講義をして居つたさうであります。又中法大學は佛蘭西系の學校でありまして、不幸にして日本系の私立大學は一つもないのであります。北支に於ける所の日本の文化事業と云ふものは、忌憚なく申しますと云ふと貧弱でありまして、天津に中日學院と云ふ、中學程度の學校が先づあるだけであつて、兎に角大學程度のものではないのであります。是は非常に遺憾なことでありまして、實は初めは北京に或る大學を建てると云ふやうな話があつたさうであります。日本人が支那の學者と喧嘩を致しまして、非常に憤慨した結果、北京に大學を建て代りに當時東京に東方文化學院東京研究所を作り、京都には同じやうに京都研究所を作ると云ふことになつたのだつたさうであります。若しさう云ふ喧嘩をしないで、あの當時から北京に日本の大學を建て、居つたならば、もう少し日本の文化的な方策が徹底して居つたことと思ふのであります。

### 輔仁大學の毒瓦斯研究所

只今申しましたやうに、是等の學校は何れも閉鎖して居りまして、唯々僅に輔仁大學と燕京大學

だけが開校されて居りました。北京の城内は先程申しましたやうに極めて平安で危険がないのであります。城外に参りますとやはり相當に不安なのであります。燕京大學は城外にありますので、輔仁大學だけを參觀したのであります。此の學校は設備も大變いゝのであります。それから獨逸の教授が私達を出迎へて呉れまして、極めて鄭重に案内して呉れた。唯々其の時に私は非常に驚いたことがあるのであります。輔仁大學と云ふものは法文學的な系統、法文科の學問よりも寧ろ理化學を其の特色として居るのであります。所が或る教室に参りますと云ふと、毒瓦斯研究所と云ふのがあります。其の時私は直感的に感じたのであります。是はひよつとしたならば、獨逸の教授達が支那人に毒瓦斯の製法を教へて、將來日本と戦ふ場合に之を大いに利用せしめるのぢやないのかと云ふ感がしたので、私は獨逸人に其の話をした。すると非常に驚きまして、決してさう云ふのぢやない、唯々化學を研究する場合に参考として教へて居るのだと言つて居ましたが、其の先生が非常に赤い顔をした。私はさう云ふ風に邪推する理由があるのです。千九百三十三年に行はれたナチスの國民革命以前に來た獨逸人と云ふものは、大體に於て排日の人々であります。殊にゼークト將軍と云ふのが多くの軍事教官を率ゐて支那に参つて、南京に於て色々支那人を教へた。例へば上海のトーチカは獨逸の教官が作つたのであります。だから非常に丈夫に出來て居る。所がナチス革



命以後に來た獨逸人は正反對でありまして、非常な親日であります。随つて獨逸は二種類の獨逸人が錯綜して居る。所が輔仁大學あたりにもやはりナチス革命以前の系統の獨逸人と、以後の獨逸人と、ごちやごちやに教鞭を取つて居るのであります。然し輔仁大學の場合は、兎に角日本が獨逸と防共協定を結んで居る以上、昔のことはいざ知らず、今日に於ては極めて親日的である。寧ろ敬日的な態度を執つて居ります。燕京大學或は清華大學あたりは、事實上英米人、殊に米人の手に委ねられて居りますから、随つて學生教授は皆非常に排日的であります。

### 抗日排日の思想的温床

概括して言へば、北京の諸大學と云ふものは何れも抗日排日の思想の根源、或は温床であると云はれて居つたのであります。其の系統が二つあるのであります。即ち是等の大學に屬する教授及び學生が、二つの團體を作つて居つた。其の一つは舊救國學生聯盟と申しまして、是は共產黨系の學生の團體であります。もう一つは新救國學生聯盟と申しまして、是は南京の國民政府の三民主義の系統であります。此の二つの學生團體と云ふものは何れも排日と云ふ點に於ては一致して居るのであります。片方は共產主義を指導原理とするし、片方は三民主義を指導原理とする結果に於きま

してお互に非常に喧嘩をして來た。殊に此の事變以前に於きましては、摺み合ひの喧嘩をしたさうであります。それに乘じて親日派の者、今まで屏息して居つた親日派の者が段々頭を擡げて参りまして、少しづつ親日的な空氣を醸成して居つたさうであります。是は殆ど問題とするに足らなかつたさうであります。

それから只今申しました私立大學の中で華北學院と云ふのがございますが、是は最近華北大學と名を變へまして日本の方で經營するやうな具合になつて居るやうであります。私が北京に滞在して居つた當時に於きまして學生の募集をして居りました。此處には日本の教授が相當入り込みまして支那の學生を新しい指導原理で以て導かうと云ふ計畫をして居つたやうであります。

### 大美樓に於ける座談會

それから先程も話に出ましたが、十月の十日に大美樓と云ふ所で各大學一流の學者と座談會をしたのであります。其の時に出席した支那側の學者達は、北京大學の教授をして居りました周作人と云ふ人と、同じく北京大學の教授の錢稻孫、それから燕京大學の教授の柯政和、華北大學の教授の袁建民その他六人の人々でありました。周作人と云ふのは御承知でありませうが、日本文學の専門





家でありまして。支那に於ては勿論、日本に於ても相當知られた人であります。非常に立派な小説を書く人でありまして。人物も非常に温厚な深沈な人であります。それから錢稻孫もやはり日本通の學者でありまして、確かお父さんは日本の公使をして居つた人であります。柯政和と云ふ人はやはり日本の留學生でありまして、是は上野の音楽學校を卒業した人で、目下北京の自治委員會の役員をして居る人であります。其の他の人は寧ろ若い支那の新人でありまして、相當議論もやり又日本に對しても思ひ切つた批評をするやうな人であります。斯う云ふやうな人と忌憚なく意見を交換しようとしたのでありますが、初めの中は一座が白けて誰も話をする人がない、それは兎に角此の度の事件と云ふものは、支那人に取つては非常な深刻な事件なのであります。是等の人々は無論親日的ではありませんが、兎に角支那人でありますから、心持としては何となく日本に對して疑心暗鬼の考へを持つて居る。そこで私は思切つてこつちから話掛けまして、自分達の心持を腹臆なく話したのであります。其の事に付きましては、後でもう一度申し上げますが、兎に角自分達の心持を忌憚なく話した所、彼等もこちらの眞意を諒解したと見えまして、段々重たい口を開きまして彼等の意見を發表して呉れたのであります。

### 官僚的な我が對支文化事業

其の意見の主なるものを掻いつまんで申し上げますと云ふと、先づ最初に對支文化事業の話が出ました。是は寺島君の話と多少重複しますが、重要なことでありますからもう一度申し上げます。御承知の如く我が外務省の對支文化事業部は、北京に於て圖書館を經營して居りますが、それが不幸にして頗る官僚的に經營されて居るさうであります。只今のお話にありましたやうに、或る支那の學者は是は一つの施療病院見たやうなものであつて、萬卷の書物を死藏して居ると言つて居る。恰度夏にストーヴを興へるやうなものであつて、實に吾々としては迷惑である。英米人などは支那に文化事業をする場合に、出来るだけ圖書館などは開放してしまふ。英米人は二三人であつて、外の館員或は其の他の事務員は全部支那人を使用して居るが、日本の場合は所長から小使に至るまで日本人である。支那人はボーイ位である。それではとても日支親善は出来ないから、もう少しさう云ふ官僚的な氣分を捨て、もつと吾々と同じ立場に立つて附合つて呉れたらどうか、と云ふことを言つて居つ。さう云ふ話をして居ると其の中の若い教授が、一體今日のやうな情勢に於て、政治から切



即ち本當の日支が提携し得るやうな政治的な指導原理を確立するにあらずんば、文化に付て話をすると云ふことは夢見たやうなことであつて、是は宜しくないと云ふやうな、極めて率直な意見が出たのであります。

### 錢稻孫の「蟋蟀」談

さうすると周作人であつたか——確か錢稻孫教授であつたと記憶しますが、然し今日の會合は學者の會合だから、出来るだけ文化の話に止めて置きたい。と言つて其の邊を緩和致しまして斯う云ふ話をしたのであります。

支那では竹籠に入れた蟋蟀を二匹持つて來まして、それを争はして楽しむ習慣があります。恰度鬪犬であるとか、鬪鶏を喧嘩させるやうな考へ方と同じであります。其の場合に蟋蟀が一生懸命で争ひまして、お互に足を折り翅を破つて、遂に兩方共死んでしまふのであります。其の事に言及しまして、錢稻孫先生が言はれるのに、恰度日本と支那は蟋蟀が争つて居るやうなものである。それで之を見て居る奴がある。其の見て居る奴をやつつけなければ、日支は到底提携出來ないのだ、と云ふ話をした。

それから更に錢稻孫先生が言はれるのに、自分は嘗て親父に連れられて日本に暫らく滞在して居つたことがある。其の時自分はまだ小さくて物心が付いて居なかつたが、兎に角日本人の親切さにはすつかりほだされて、當時流行つて居つた軍歌を盛んに歌つたことがある、自分の親父は其の當時公使をして居つたが、無論日本語は出來なかつたが漢文を通じて日本の漢學者と意思を疎通した。日本に於てはまだ當時漢學の雰圍氣があつたので、おやぢは歸つてから漢文で日本の歴史を書いた位であつた。それは二三十年も前のことであつて、今日それを思ふと感慨に堪えない。

### 思想國策に留意せられよ

今日では支那も過去の傳統から離れてしまつたし、又日本も不幸にして東洋本來の傳統から離れて西洋の自由主義とか、或はマルクス主義に走つてしまつたではないか。今日口を開けば支那は赤化の手先になつて居ると言つて攻撃なさる、が然しもう少し御自身のことをお考へになつたらどうか。實は支那はコミンテルンからよりも寧ろ日本の改造や中央公論から此の共產主義を勉強したのだ、斯う言つて居りました。(拍手)だから是は一寸苦言でありましたが、若し日本が本當に眞劍に支那に對して文化工作を致したいと思ふならば、先づお國の方の思想問題を解決して戴きたい。確



乎たる思想國策が確立して、さうして所謂自由主義的なものと、階級主義的なものが清算されて、新生日本精神に依つて國家が統一される曉に於ては、黙つて居つても日本と支那は提携が出来るから、どうか日本の思想國策を確立して貰ひたいと云ふ、極めて大膽率直な苦言を私に與へて呉れたのであります。私は憤慨するよりも、寧ろ深く考へさせられたのであります。今日國民精神總動員と云ふやうなものがありますが、是は非常に官僚的なものでありまして、殆ど内容に觸れて居りません。(拍手) 實はもつと眞面目に深く考へて、吾々は一體どう云ふ思想を清算すべきか、又どう云ふ思想を積極的に助長獎勵すべきかと云ふことを考へ直して見る必要があると思ひます。(拍手)

さう云ふ譯で此の座談會を通じまして支那に於ける所の日本の文化工作と云ふものは實は内地の問題である。内地の文化工作と云ひますか、内地の思想國策が確立してこそ、初めて支那に對して有效な文化工作が出来ると云ふことをはつきり認識したのであります。

### 北支文化工作の要諦は？

それから其の次に斯う云ふ話が出たのであります。支那と云ふものは先天的に日本を排撃するもの

ではない。現に日露戰爭當時に於ては、支那の國民は政府から庶民階級に至るまで、總て心を一にして日本を助けたのである。所が其の後になつて段々日本と支那とが離れてしまつたのは、そこに何か深い理由がなければならぬ。だから今日の日本が行ふべき文化工作と云ふべきものは、表面的な教科書の改正であるとか、或は形式的な文化宣傳よりも、もつと實際に即した深いものでなければならぬ。それには日本の立派な方々がどしどし支那にお出でになつて、吾々と膝突合はして話して戴きたい。それが何よりである。個人的な深い相互の理解と云ふものが、取りも直さず今日の北支工作の要諦であると云ふことを、繰返して申して居りました。よく支那通と云ふ人がありますが、さう云ふ人は支那に一邊も行つたことがなく、英語や獨逸語の本を讀んで、さうして支那問題を論じて居る人が多いのであります。斯う云ふやうな支那通こそ今日に於ては清算せらるべきものでありまして、若し支那の將來を眞面目に考へるならば、やはり現地に参りまして、さうして支那語も習ひ、支那服を着て、支那人と一緒になつて、さうして心置きなく語つて行くと云ふだけの心構へが必要であると思ひます。

### 我民族の道義使命遂行の段階



現地に参りまして、特に北京に参りまして各方面の方方と忌憚なく意見を交換して見たのであります。即ち支那側は勿論、西洋人側及び軍當局の方々とも色々意見を交換して見たのであります。實に色々なことを考へさせられたのであります。殊に軍當局の方の抱懐して居る思想と云ふものは非常に深いものであると云ふことを考へたのであります。英米諸國の抱懐して居るやうな、或は猜疑して居るやうな軍國主義的な、或は帝國主義的な考へは毛頭持つて居りません。やはり軍部の人には一番明確な認識を持つて居るのでありますが、此の度の事變は實に我が民族の道義使命遂行の具體的顯れであると云ふことに於ては、皆一致して居ります。是は政府が屢々聲明したやうに、此の度の事と云ふものは、南京政府が思想的には蘇聯に操られ、經濟的には英吉利の傀儡となつて、支那大衆の福祉を更に念願して居らない支那本來の傳統文化を忘れてしまつた南京政府を、徹底的に膺懲して之を改心せしめる、之を本來の支那たらしめて、是と深く提携して行くのであると云ふことが言はれて居りますが、是は即ち正に日本民族の使命の遂行なのであります。随つて此の事變に於ける戦と云ふものゝ本質が、容易に理解されない。從來戦争と言ひますと直ぐに領土の獲得であるとか、利権の設定であるとか、或は賠償金の支拂と云ふことを考へるのでありますが、此の度の戦に於てはさう云ふことが少しも言はれて居らないのであります。随つて吾々は先づ第一に日本本

來の戦争の理念と言ひますか、或は戦の觀念と云ふものを明かにしなければ、本事件の正しい姿は現はれて來ないと思ひます。

言ふ迄もなく日本の武は其の文字の示す如く戈を止めると云ふのでありまして、本當の意味の平和を持ち來す爲の一つの手段であります。方法であります。昔の言葉で言へば、まつろはぬものをまつろはしめると言ひますか、間違つた理想に感染して居るものをして、正しい理想に隨從せしめると云ふのが日本の戦争目的であります。随つて斯様な戦争目的と云ふものは歐羅巴人には中々理解されない。歐洲人は戦争をどう考へて居るかと云ふと、或る者は戦争本能の露骨なる表れであるとか、或は所謂資本主義諸國が未開のプロレタリア諸國を搾取する所の強制手段であると云ふやうに説いて居ります。随つて彼等は義戦、聖戦、文化戦の理論が分らないのでありますが、日本の場合を寧ろ聖戦と言ひますか、文化戦と言ひますか、或は世界觀戦と云つたやうなものでありまして日本の高い道義的な精神を遂行する爲の一つの具體的な方法として、今日の戦が行はれて居ると思ひます。斯う云ふ點が不幸にして支那人に徹底して居ないのであります。



私はもう時間がありませんので、直ちに北支經綸の指導原理と云ふ根本問題に觸れて見たいのであります。北京に約一週間居りまして、更に十三日天津に歸つて來たのであります。天津に歸りまして數日間宿屋に籠つて色々考へて見た。其の時に私の頭に臚氣ながら映じて來た一つの思想があるのであります。それを甚だ潜越であります。敢て北支經綸の指導原理と申したいのであります。それは一體どう云ふことであるかと言ひますと、斯う云ふことであります。一體東亞と云ふものは一つの全體的な運命共同體ではないか？ 先程も一寸申しましたが、日本にせよ滿洲國にせよ或は支那にせよ、何れも大きな共同體的な大家族の有機的な構成部分であつて、それ自身孤立的な一つの國家單位と云ふものぢやないのぢやないか。先程大久保中佐のお話にありましたやうに、西洋の文明と云ふものが東洋に入つて來た。殊に世界大戰の前後に於てデモクラティックな考へが非常に強く入つて來た結果として、日本と支那が何時の間にか其の考へに感染して、お互が獨立の國家、縁もゆかりもない孤立的な國家であると云ふ風に考へて來たのではないか。日本はやはり支那と云ふものを同胞的な、文化的に深く結ばれた同胞觀で考へずに、唯々經濟的の客體として見るやうになつた。隨つて或る時代に於ては日本の對支政策と云ふものは極めて露骨な經濟搾取政策に終始して居るのであります。又支那から見ますと云ふと、やはり支那は三民主義の影響に依りまして、

日本を敵視するのであります。三民主義は御承知の如く民族主義、ナシヨナリズムと、民權主義、デモクラシーと、民生主義、ソシヤリズムとの三つを系統なく集めたものに過ぎないのであります。が、其の中で重要なものは民族主義であります。

### 運命共同體としての東洋

民族主義は西洋流の國際觀に根ざしたものでありまして、國と國とは對立して居ると云ふ考へに根ざしたのであります。支那の國民政府の下に立つた三民主義の人々はやはり日本と云ふものを敵國と言ひますか、對立した相手と考へて之に對して排日的な行動を執つて來たのではないか。所が能く考へて見ると云ふと日支の關係は昔はさう云ふものではなかつた。遣唐使の阿部仲麿の如きは支那に行きまして支那の大官格の顯官に任ぜられました。支那の爲に貢獻をして居ります。又支那からは其の當時のインテリ階級が日本に参りまして、日本の文學、藝術、學問等と云ふものを研究し、彼等の大部分は日本に歸化してしまつて居るのであります。昔は東洋に於ては一つの天下を構成して居つた。今日の言葉で言へば運命共同體であります。所が先程も申しましたやうに、英吉利が東洋に來て以來、さう云ふ社會的な考へ方が力を失ひまして、西洋流の個人主義的な考へ、國家



もお互に對立すると云ふ考へが強く入つて來て居るのでありますが、今日に於きましては斯う云ふ考へ方を清算しなければならない。

そして再び東洋と云ふものは一元的な全體的な運命共同社會と云ふことを自覺することに依つて此の事變の結末を建設的に、創造的にすることが出来るのではないか、是が私の考へ方なのであります。即ち日本も支那も、共に自分の小さな國家の利益を考へる前に、東亞全體の健全な精神的並に物質的な向上發展を考へて行く、斯ふ云ふ心持の入れ替をするに依つて、初めて吾々の意圖する所の戰爭の目的が到達されると思ふのであります。

### 勝海舟の江戸城引渡し

歴史を繙いて見ますと云ふと、一番私共の心を打つのは江戸城引渡しの場面であります。即ち勤王側を代表した西郷隆盛が、幕府方の勝海舟と會合致しまして、所謂肚藝を演じて江戸城を引渡した。是が大規模の形に於て今日行はるべきものではないかと思ふのであります。即ち此の戦局が假にどん／＼發展致しまして、愈々支那が最後の悲鳴を擧げた場合には、南京或は北京に於て日支兩國の遠大なる經綸を持つた政治家が會合致しまして、さうして心置きなく意見を交換する。さうし

て是は日本側から寧ろ口を切るべきであると思ひますが、日本のさう云ふ政治家が、一つ從來の考へ方をお互に改めて行かうぢやないか、日本も此の際一つ從來の英米追従式な、動もすれば資本主義的な帝國主義に墮ちようとした從來の政策を清算克服して、さうして東洋と云ふ大きな運命共同社會の有力なる一員としての意識に目覺めて行かう。お前も從來のやうな排日的の態度を止めてやはり同じ東洋と云ふ大家族的な共同體のメンバーたる意識に立還らうぢやないか。さうして相提携して此の吾々に共通な東亞の天地を再建して行かうと云ふ、斯う云ふ話合ひをした時に支那の面子も立ちまして、初めて問題が圓滿に解決して行くのぢやないか。明治の維新も幸ひ江戸城引渡しに依りまして立派なる一元的な國際日本が現はれて來たのであります。鞏固な統一的な日本が現はれて來たやうに、やはり近き將來に於てさう云ふやうなことが北京に於て、或は南京に於て行はれることが一番望ましいのぢやないかと云ふ感を持つたのであります。

### 一元的全體としての東亞の再興

此の點に付きましてはもつと考へて見なければならぬのでありますが、兎に角さう云ふ飛躍的な創造的な考へ方を行ふことに依つて此の事變と云ふものが、我が民族使命遂行の線に副うて解決



されるのではないか。若しさう云ふ東亞聯邦といふやうなものが出来たと想像しますと、恐らく東京と云ふ所は、日本と云ふ其の東亞共同體の最も有力なる構成部分の首都であると同時に、東亞聯邦全體の首都であると云ふ機能を發揮するに至るのではないか。さうして東亞聯邦全體の軍事、經濟、外交、文化と云ふものの方針は、此の東亞聯邦の首都たる東京に於て決定せられて、それが各聯邦に手交されて行くのではないか。さうして支那とか滿洲國とかの各聯邦は何れも此の大綱に矛盾しない範圍に於て、非常に廣汎な自治を供與されて行く、さうなると東亞が一つの一元的な全體として再興することゝなりますから、今日のやうな氣まづい場面はなくなるものであります。

今日に於ては支那は支那なり歐米に排日的な宣傳をして居ります。又日本は歐米に参りまして支那の不法を言つて居ります。是は恐らく日本にも云分はありませう。日本の國民使節と云ふやうな人が言つて居ることは恐らく本當でありませう。然し大局から見ると――東亞運命共同體と云ふ大局から見ると、それ等の言葉は實に淺ましいこととあります。若し此處に東亞と云ふ全體的な共同社會が設立されるならば、東亞全體の意思は東京の意思を採つて歐洲の地に一元的に表明されるのであります。日支がお互に歐米に對して惡口を言ふならば、淺ましい嘆かましい状態になるのであります。斯様な考へ方は今日に於ては極めて尙早でありませう。恐らく反對もありませう

が、然し是だけの考へ方をして行かなければならないのではないか。若し斯様な深い文化的考へ方が、此の軍事行動と併行して行かないならば、私は、我が皇軍の忠勇無比な活動の根本と云ふものは餘程殺がれてしまふのではないかと考へる。殊に北支に参りまして戦争が大規模である。實に國運を賭した大きな戦争であると云ふことをまざくと感じたのであります。新聞などに現れて居るやうに、相當の惡戦であります。莫大な死傷者もあるのであります。種々な方々にもお目に掛つたのであります。軍事行動をするものと吾々が、本當に同じ心持で建設的な文化事業を行はない限り、戦場の露と消えて護國の鬼となられた我が同胞に對して、洵に濟まないのであります。

### 支那民衆解放戦への參與

色々申上げたい點がございますが、最早時間がありませんので是れで引下りますが、どうか此の度の事變と云ふものが單なる軍事的な行動だけでなく、もつと深いものを背後に持つて居ると云ふことを深く認識して戴きたいのであります。即ち此の度の事變と云ふものは、實に三千年の傳統を通じて、今日まで傳はつて來た民族使命の遂行である。即ちそれは新しい言葉で言ふならば、一つの思想戦であると云ふことを深く銘記しなければならぬのであります。さうしてそれには先づ考へ方



を變へて行く必要がある。自由主義的な、或は階級主義的な考へを變へて、民族主義的な日本精神  
本來の立場に立たなければ、此の民族使命は行はれないものであると云ふことを考へて戴きたいの  
であります。

今日北支に於て行はれて居る所の赤化と云ふものは、實は經濟的に英米流の搾取主義に關聯を持  
つて來るのであります。英吉利と云ふものは非常に利巧な國でありまして、直接表面に出ないので  
ありまして、國民政府を手先に使つて支那の農民を搾取して居ります。随つて北支に参りまして色  
々視察して見ますと、實に農民は哀れであります。兎に角現場を見て實に是は濟まないと云ふ氣に  
なる。何とかして日本が本當に道義的に目覺めて救はなければならぬ。北支の民衆の生活を高め  
てやる、さう云ふ意味に於て支那の民族解放戦に參與することに依つて、初めて日本の使命が遂行  
されると云ふことを痛切に感じたのであります。經濟政策に對しては國民が非常に警戒しなければ  
ならない。もし經濟政策が正しくない原理により北支に行はれるならば、我が皇軍の忠勇無比なる  
行動と云ふものは効果を持たぬものとなつてしまふのであります。さうして更に考へることは若し  
斯様な經濟搾取主義と云ふものが無くなれば、自然と赤化の原因も少なくなるのであります。露西  
亞のコミンテルンの赤化と云ふものは目下疲弊した農民に働き掛けられて居りまして、最近に於て

は相當成功を収めて居るのであります。即ち國民政府と英米の經濟搾取主義と云ふものがあればこ  
そ、初めて露西亞と云ふものが赤化政策を行ふ餘地があるのでありますから、若し日本が本當の王  
道的な政策を行ふならば、支那民衆の生活を向上して行くならば、英米流の經濟資本主義と同時に  
露西亞のコミンテルンの赤化主義はなくなつてしまふのであります。斯う云ふ立場に立つて日本  
が支那を本當の支那に還すと云ふことが、今日北支に於ける所の指導原理であると云ふことは深く  
信じまして降壇するものであります。(拍手)

(昭和十二年)



## 日本精神と新民主主義

### 一、支那事變の意義

我々は支那事變の勃發が痛恨すべき不祥事であつたことを一應認める。東洋の二大兄弟民族が互に干戈を抱いて戰場に相見えるといふこと位、遺憾なことではないであらう。今回の事變の發端に當つて日本政府が日支の正面衝突を極力回避したことは人の知るところである。所謂「不擴大の原則」を始とし、殆んど常識で考へられないほどの忍耐と讓歩とを以て圓滿な解決策へと奔走したのであつた。

しかし、我々はそれが世界の歴史的必然性の一つの歩みであり、東亞民族に課された不可避的な運命の展開であるといふ認識を新にしなければならなかつた。萬一、一時これを回避することが出

來たとしても再び倍加された慘禍を繰返すことは火を視るよりも隙であつた。しかも、その一時的彌縫の處置すらも放棄することを餘儀なくされるほど當面の事態が切迫してゐたのである。

何故であるか。諸多の原因が複合することによつて到處に對立しつゝあるところの勢力の相剋摩擦が東亞に於て發火點に達してゐたのである。簡単に要領を挙げれば、西洋列強の東洋支配の桎梏の永續化のための焦燥努力と、これに對抗する亞細亞民族解放の盟主としての日本の勃興、これが第一のクロスである。西洋列強と云つても英・蘇・佛・米等、即ち人民戰線に協力するところの諸國は所謂「持てる國」として、獨・伊等の所謂「持たざる國」を永久に貧困無力の狀態に停めて置いて自らの既成勢力を維持しようとする、獨・伊等に物質的にこれに對抗しようと思つても到底敵はない。そこで精神的に一層優秀卓越せる存在として自己を示すことによつてのみこれに對抗しこれを壓倒することが出来るといふ自覺からの全體主義の國民戰線を形成するに至つた。そして彼等は目下東洋に勢力を有すること少く、日本と衝突する患がないばかりか、却つて英・蘇・佛・米等に對抗して國民精神の旺盛な日本と提携することの遙かに有利なることを悟つたのである。即ち國民戰線と人民戰線、これが第二のクロスである。

國權恢復を目ざす支那の排外運動は久しいものであるが、支那の侵略及び搾取の元兇である西洋



列強は巧にこれを排日運動に轉換せしめるやうに努力し、一見國權恢復を許すが如き外觀上の讓歩を示して實はその實際上の政治的、經濟的鎖鑰を鞏固にする方途を策し着々成功した。國民政府はかゝる列強の傀儡と化し去つて、組織的な排日政策を採用し、兼ねてこれを國內統一及び國民黨獨裁の手段として利用し、殊に蔣介石政權の確立以來青年子弟の教育にまで抗日侮日の偽瞞の方針を徹底せしめるに至つた。同時に、人民戰線の中で最も積極性に富んでゐる蘇聯邦の赤色帝國主義は奇貨措く可しとなしてコミンテルンの指導下に共產主義を支那に植ゑつけ、これを併呑して世界赤化の道程となさんとするに至つた。國民黨政府はこれらの諸勢力の恐るべき所以を知らないわけではなかつたが、却つてこれに阿諛迎合して自己の閥族的黨派的獨裁の地位を固め私黨的軍隊を充實して被搾取の大衆を壓迫する手段としたのである。従つて蔣介石政權並びにこれを取捲く財閥的軍閥的諸勢力の増大と繁榮は一般大衆の生活水準の低下、貧困の永久化、生命財産の不安、道德の頹廢、等を條件とするものであつた。ここに第三のクロスがある。

かるが故に蔣介石政權を以て單に日本の敵であり皇軍の敵であると云ふものがあれば、これは皮相の見解である。國民黨及び共產黨の合作政府は實に第一に亞細亞の敵であり、第二に支那民衆の敵であり、第三に道德の敵である。

これまで支那大衆を導いてきた政權が此の如きものであつたといふことは致命的な不幸であつた。かやうにして支那は西洋諸國に對するよりも數倍若くは數十倍して我れを敵視し、我れも亦彼を蔑視するものが國民的習慣とまでなり、遂に今回の事變を招來したことは素より國民政府要人の迷妄的認識や英・蘇・佛・米等の煽動によること大なるは言ふまでもないが、我が邦にも責任無しと斷ずることが出來ないのである。

その重大なる一つの原因は我國の支那諸問題に對する政策が支那に權益を有する歐米諸國に對して餘りにも卑屈であつたといふことに在る。斯くして中國の要人は日本といふ國は歐米諸強國に對しては手も足も出すことが出來ない國である。従つて歐米諸列國の威力を藉りるならば容易に日本を壓迫することが出來るといふやうな感を起さしたものと思ふ。また事實滿洲事變までの日本の對支外交は餘りにも歐米諸國に遠慮して軟弱外交に墮落して居つたのである。この西洋崇拜に反比例して、支那人を侮蔑することが國民的習慣とまでなつたことは實に大なる間違であつたと言はなければならぬ。従て今日の急務はその對内對外國策の兩面に互つて歐米に對する無意味なる卑屈の態度を清算克服すると共に日本の固有文化及び更に廣く東洋精神文化に對する認識を深め、之を積極的に再興して行かなければならぬのである。實に今回の支那事變は支那に對する西歐



列強の帝國主義を克服することを以て一の重大なる任務としなければならないのである。今日我國は、西歐列強の思想に躍つて誤れる抗日策に没頭する國民黨政府、並びにこれと結託する共產諸勢力を膺懲するが爲とは云へ長年の排日教育によつて頭惱の昏迷錯亂せる青年子弟や強制的に驅り出された多くの善良なる中國民衆を死傷せしめ、我れも亦多大なる犠牲を拂ひつゝある。實に滿腔の悲憤！ 涕淚の滂沱たるを禁じ能はぬものがある。しかし我々は飽くまで聖戰の目的達成に勇往邁進してゆかなければならない。我々は蔣政權を膺懲すると共にその背後にあつて彼等を操縦しつゝある白人諸列強に對しても斷乎たる態度を執つて臨まなければならない。眞に我が國が正義の命ずるところに従ひ、肇國の大精神に従て蔣政權は勿論、是と同じく邪道に陥れる諸列強に對して敢然と反省を促す場合に於て、始めて支那の民衆は風を望んで我が國を道義的盟主として仰ぐに至るであらう。

## 二、新民會の誕生

幸ひにして皇軍の忠勇比類無き活動に依て國民政權の首都南京が陥落するに及び、北支の天地に新政權が呱呱の聲を揚げた。更にこれに續いて中支には維新政府が設立せられ、漸く支那は更生の

途上に向ひつゝある。

北支の新政權は三民主義と共產主義とを排撃して、東方の精神文化を指導原理として生れたるものであつて、それは即ち新民主義である。而して新政權と表裏一體となり民衆の教化を行ふべき使命を擔つて設立せられたのが新民會である。新民會は次の如き宣言を發して居る。

「戰禍全土ニ彌リ、社稷將ニ滅ントス、一ニ之レ國府ノ責ナリ。

私閥比周シテ國事ヲ專決スルコト十有餘年、稅政百出内外ニ其信ヲ失ス。猥リニ干戈ヲ交ヘ國土危殆ニ頻ス、コレ偏ニ黨部ノ責ナリ。昨是今貶、庶政軌ヲ逸シ、施策節度ナシ、徒ラニ容共媚外、國ヲ驅ツテ焦土ト化シ無辜幾千萬同胞ノ生命ヲ損害シ、幾百億ノ財帑ヲ消耗シ、中華五千年ノ文化ヲ湮滅スルモ恬トシテ悔ナキニ似タリ。

今ヤ蔣宋ノ門閥獨リ存シテ四億民生爰ニ危シ、コレ實ニ中國民衆蹶起ノ秋ナリ、而シテ邦土尙先憂ノ士ヲ留メテ即チ新政權ノ樹立ヲ見ル、吾人相奮ヒ提撕シ以テ新政權ニ協力シ、祖國ヲ危急ニ救ヒ民生ヲ安ンゼン。

是レ現代中國民衆共同ノ使命ナリ。宜シク衆議ヲ竭シ、民力ヲ傾盡シテ狂瀾ヲ既倒ニ回スベシ。夫レ國ハ道ヲ履ミテ昌ヘ、人ハ道ヲ得テ信和ス。先ヅ東方ノ文化道德ヲ高揚シ、先哲ノ遺訓ヲ



顯彰シ、進ンデ國共兩黨ノ齒想邪謂ヲ剿滅セン。主義ハ新民ニ則リ以テ民意ヲ暢達シ、地産ヲ開發シテ民生ヲ安ンゼザルベカラズ。本會ハ新政權トハ表裏一體ニシテ先ヅ之ヲ護持シ、反共戦線ノ闘士トナリ、民力ノ涵養ニ努メ更ニ比隣共榮ノ實現ニ邁進シ、以テ世界ノ大平和ニ貢獻スルトコロアラントス。

天下同憂ノ士來ツテ本會ニ加入セヨ。

右宣言ス

中華民國二十六年十二月二十四日

更に新民會は其の綱領として次の五箇條を擧げて居る。

- 一、新政權ヲ護持シ民意暢達ヲ圖ル
- 一、地産(産業)ヲ開發シ民生ヲ安ンズ
- 一、東方ノ文化道德ヲ宣揚光被ス
- 一、剿共滅黨ノ大轟ノ下ニ反共戦線ニ參加ス
- 一、友隣締盟ノ實現ニ邁進シ人類平和ニ貢獻ス

惟ふに新民主義は支那民族精神を體系化したる經典大學に出るものである。大學の冒頭に於てそ

の趣旨を要約し明明徳、新民、止至善と述べてある。而して新民主義の新民なる言葉は是に由來するものである。従て新民の深き意義を理解しなければならぬ。明徳を明にすることは政治の衝に當る者が所謂天人合一の修養を完了して哲人的政治家となることである。而して天人合一といふことを現代に即して解釋するならば、それは民族全體主義原理を體得することに外ならない。東洋に於ては天は人類の祖先として具體化されて居る。董仲舒はその著「春秋繁露」に於て「天は人の曾祖父なり」と述べて居る。又中庸に於ては「天の命する之を性と謂ふ」と述べて居る。性は生れた儘の心即ち良心を謂ふのである。元來東洋に於ては敬神即崇祖であつて、神は即ち祖先に外ならない。祖先は神として敬せられるのである。従て天人合一とか神人合一といふことは現代の人間が祖先の意思を或は祖先の文化的遺産を繼承して之を實現して行くことに外ならない。換言すれば天人合一とは祖先に依て形成せられたる民族精神に隨順して之を現代に實現せしめて行くことに外ならないと思ふ。

### 三、日本精神と新民主義

抑々我が民族の皇祖にまします天照大神は宇宙の森羅萬象を産出する御本源の生命としての母



性神であらせられる。即ち凡ての存在は皆その生命を天照大神に負ふものである。

天照大神は光明と智慧、清淨と貞節、優美と仁愛などの源泉であらせられる。大神が天岩戸に隠れたまふと天地は暗闇となり、姿を現したまふと、天地は再び明朗となる。荒々しい粗野な言動は大神の好ませたまはぬところである。鴻大無邊の神徳によつて一切を照明し萬生を愛撫化育したまふ至高の存在である。

江戸時代の封建制度の重壓に苦しんでゐた下層階級の民衆は身分的束縛のため充分な自由は許されなかつたが「拔参り」といふことがあつて、伊勢大神宮に参詣するため主家や近隣に無斷飛び出して行つても、法律も禁止せず社會も制裁しないことになつてゐた。「拔参り」は幕末の社會的不安の間にあつても虐げられたものゝ唯一の慰藉であり、安全辨であつた。それで俳人は畏多い話であるが、大神を「粹姉様」と稱し奉つてゐる。粹な即ち裁けた物分りの好い優しい女性として年若い弟や妹を庇護する永遠の女神として崇め奉つたのである。此處に我が民族世界觀の神髓が發見せられる。祖先を次第に遡り根源を次第に追究すれば全國民は同一の祖先に歸着し、全人類の同一の祖先に歸着し、全生物界は同一の根源に歸着し、宇宙萬有は同一の根源に歸着するといふのが我が民族の世界觀であつた。斯くの如く根源を同じくする萬有の一體的全體的存在が宇宙の實相

であるから、從て宇宙萬有同根一體の原理は宇宙の普遍眞理となるのである。この中心分派の民族世界觀が具體的に國體として結晶して居るのである。而してこの根本末梢の一體的民族體系は天壤無窮に生成發展すべきものであつて、其處に絶えざる宇宙生命の活動が直觀せられるのである。然るに不幸にして實際の世界はこの宇宙創造の原理に必ずしも一致して居ない。弱肉強食の無政府状態が支配し多くの者は恰も皆個々別々の存在であり、從て自己の利己的目的を到達するが爲に搾取抑壓鬭争殺戮して恬として恥ぢざるが如き状態を現出せしめて居る。是に於てか凡てのものが皆一元的宇宙大生命の多元的顯現であり、その意味に於て彼等は皆同胞であるといふ深き宇宙的自覺を與へ、以て彼等を教化して宇宙家族的體制を創設するにあらずんば到底眞の世界平和は實現せられないのである。是に於てか宇宙の根源生命そのものであらせらるゝ天照大神を皇祖と仰ぎ國祖と仰ぐ我が日本（ひのもと）はこの宇宙理想を實現すべき一大使命を與へられたのである。さればこそ我が國は神國と謂はれ、この宇宙の聖業を完ふすべき使命を負はされたのである。これが即ち天業の遂行に外ならない。

我が古典を繙いて見ると天神は伊邪那岐、伊邪那美の二神に對し、此の漂流<sup>タダヨ</sup>へる國を修理固成せよと宣り、天の沼矛を與へ給ふて居る。此處に「漂流<sup>タダヨ</sup>へる國を修理固成せよ」とは即ち宇宙の完成



を意味するのである。宇宙生命から離れた凡てのものをして皆宇宙生命そのものに歸一隨順せしめて、内面的に精神的に一大世界家族を構成せしむるの意味である。實に神國日本は宇宙真理の具現者で在らせらるゝ天照大神の大御心をその儘に實行しなければならぬ國家である。この宇宙生命が皇祖皇宗の御遺訓となつて三千年の國體を通じて今日にまでその儘に傳はつて居る。

人皇第一代の神武天皇は天ツ神の御子としての御信念と天業恢弘の御精神とによつて、遂に御東征の大業を完成し給ひ、都を大和の橿原の地に奠め給ふて肇國の大精神を示し給ふた、その大詔に於て、

夫れ大人の制を立つる、義必ず時に隨ふ。苟くも民に利あらば何ぞ聖造に妨はむ。且當に山林を披拂ひ、皇室を經營りて、恭みて寶位に臨み、以て元元を鎮むべし。上は即ち乾靈の國を授けたまふ徳に答へ、下は則ち皇孫の正を養ひたまひし心を弘めむ、然して後に六合を兼ねて以て都を開き、八紘を掩ひて宇と爲せむこと、亦可からずや。夫の畝傍山の東南橿原の地を觀れば、蓋し國の塊區か、治るべし。

と仰せられて居る。斯くて神武天皇は皇祖天照大神の御神勅に基いて天壤無窮の皇位に即かせ給ひ天下の萬民を正しく生成發展せしめんとすの愛民の大御心を示し給ふたのである。之によつて天皇は

上は皇祖天照大神がこの國土を授け給ふた御神徳に報ひ、下は瓊々杵の尊がこの國に降りまして醇朴な民を愛しみ育て給ふた御精神を弘めやうと爲し給ふたのである。而して國內盡くを皇化に浴せしめ天下即ち世界を擧げて一家のやうに大和し、相倚り相扶けて發展せしめようとの大御心をのべられたのである。昔我が國の國號を「大和」と稱したるのも深き意味の有ることである。大和は大調和であり、凡ての鬭争と對立との克服である。而して之が實に我が民族の道義的なる世界觀を極めて端的に表現したる言葉である。惟ふに大和なる言葉は易の彖傳に出るものの如くである。その言葉は次の如くである。

大なるかな、乾元、萬物資りて始む。乃ち天を統ぶ。雲行き雨施し、品物形を流く。大に終始を明にして大位時に成る時に六龍に乗じて、以て天を御す。乾道變化し、各々性命を正しくし、大和を保合して乃ち利貞なり。首として庶物に出でて、萬民咸く寧し。

斯くの如く日本の使命は道を離れて渾沌たる世界に彷徨ふ世界各民族に光明と希望とを與ふべき重大なる任務を有するものである。また中庸は易の原理を註釋して次の如くに述べてゐる。

唯天下の至誠、能く其の性を盡すことを爲す。能く其の性を盡せば即ち能く人の性を盡す。能く人の性を盡せば則ち能く物の性を盡す。能く物の性を盡せば、即ち以て天地の化育を賛くべ



し。以て天地の化育を賛く可ければ即ち以て天地と參すべし。

と述べて居る。斯くて歴代の天皇はこの高邁雄渾なる肇國の御精神を御繼承遊ばされて我が國家を統治し給ふたのである。明治天皇は明治二十六年二月十日の詔に於て「皇祖國を肇ムルノ初ニ當リ六合ヲ兼ネ八紘ヲ掩フノ詔アリ」と仰せられて居る。更に遡つて五箇條の御誓文と同時に賜はりたる維新の御宸翰に於ても、

朕茲ニ百官諸侯ト廣ク相誓ヒ列祖ノ御偉業ヲ繼述シ一身ノ艱難辛苦ヲ問ス親ヲ四方ヲ經營シ汝億兆ヲ安撫シ遂ニハ萬里ノ波濤ヲ拓開シ國威ヲ四方ニ宣布シ天下ヲ富嶽ノ安キニ置ン事ヲ欲スと仰せられて居る。更に 今上陛下が國際聯盟の離脱に當り渙發せられたる御詔書に於て同じく民族の大使命に言及し給ひ、

信ヲ國際ニ厚ウシテ大義ヲ宇内ニ顯揚スルハ朕ガ夙夜念トスルトコロナリ

と仰せられて居る。即ち是等の御詔勅を通じて拜察するに、道義を以て人類を切實なる良心的要求に合致するやう現在の世界秩序の不正缺陷を是正し、各民族の文化的個性を伸暢せしめ、彼等を援助指導して、各々その所を得せしめ、各民族間の鬭争反目状態を變じて世界家族的なる大調和の世界を實現せしむることが我が民族使命なのである。

今日我が國民の全部が就中外交及軍事の衝に當る者がこの崇高なる日本精神原理を體得するに非ずんば、到底今日の世界的非常時局を突破することが出来ないであらう。新民主義もまた此の如き日本精神の發動によつて援護助長されるのでなければ、實績をあげて發展することが出来ないであらう。

#### 四、儒教の新生命とその新民主義

以上を要約すれば、明德を明にするものは今日の現實に即しては我が日本を描いて他には無い。即ち日本こそは全體主義的民族主義に立つて、道に外れたる個人主義と共產主義とを克服せんとするものである。而して明德を明にしたるものは必然的に未だ個人主義若くは共產主義の低き境涯に沈淪するものに對して道義的に働きかけて彼等の明德も亦明にせずんば己まざるものである。これが即ち新民の深き意味に外ならない。その意味に於て新民は精神的教化に依て出現される。新民とは個人の利害或は階級の利益よりも、國家全體若くは民族全體の繁榮發展を考へなければならぬ全體主義的世界觀を徹底せしむることである。斯くして始めて國內の相刻對立が止揚せられて、總てのものは民族理想或は國家目的に向つて奉仕すべき義務が自覺されるのである。資本主も勞働者



も知識階級も、皆一元的なる民族の目的に向つて差別ながらに特長を發揮せしめつゝ貢獻をして行かなければならないのである。是に於てか所謂經濟開發或は經濟開發會社の設立に先つて國民全體の教化が重大なる意義を有つて來る。個人階級よりも國家民族が優先的に考慮されなければならない。一言にして云へば、明德を明にしたる日本の庇護に依て支那の新政權は生れ、支那の民は新にせられんとして居るのである。國民政府の指導原理たる三民主義はその理論の如何を問はず、事實上蔣宋門閥の利己的目的を貫徹するが爲の個人主義原理として運用せられ、その結果支那四億の民衆は非常な不幸な目に遭つたのである。更にその缺陷に乗じて侵入し來たれるコミンテルンの共產主義は、農村を疲弊せしめ、支那の傳統精神文化を破壊し、民衆を塗炭の苦みに陥れたのである。この意味に於て三民主義も共產主義も全く道に外れたるものである。この二つの主義主張を清算克服して全體主義的民族主義を内容とする孔孟の東方文化を再興し、以て物心兩方面より民を新にして行くことが新民主主義の重大任務となるのである。

抑々儒教は支那本國に於ては寧ろ封建諸階級の搾取的イデオロギーとして誤解せられ來りたるに反して、我國に於ては偉大なる効果を發揮し、我が日本精神の昂揚に貢獻すること頗る大なるものがあつた。彼の水戸學の如き、明治維新の原動力として大なる役割を演じたるものである。即ち今

日儒學を根幹とする東方精神文化の振興は當さに日本の行ふべきものと信ずる。既に封建的墳墓の奥深く葬り去られた支那儒教の形骸をそのまま擔ぎ廻つて一時を糊塗せんとするが如きものでは斷じて不可である。新鮮潑刺として復活せる現代的儒教、一切の文化と綜合融和する儒教精神でなければならぬ。それゆえにこそ新民主主義といふ新しい名稱が附せられたのである。この意味に於ても明明徳を行ふものは日本であり、これによつて新にせられたるものが支那なのである。換言すれば日本の力強き道義的指導の下に新政權の衝に當る支那政治家は個人主義的立場や階級主義的立場を飽くまで排撃して、支那民族全體の大調和的發展に全責任を持たなければならない。斷じて近世歐羅巴風の搾取や侵略を目的とすべきものではない。世界の各國家、各民族をして、それぞれの處を得しめ、その志を伸ばさしめ、相倚り相扶けて巖然たる一大世界家族を形成して生成發展せしめ以て萬國安寧となる肇國の御精神を實現することを要諦としなければならない。それがためには、先づ第一に深き仁愛の國策を實現して行かなければならない。即ち亞細亞の各民族が苦惱し貧困せるは日本の苦惱であり貧困である。

また亞細亞の各民族が幸福であり安寧であることは即ち日本が幸福であり安寧である事である。そして終には世界人類に對する一視同仁の精神の發露にまで昇華するのである。實際斯の如き八紘



一字の精神が世界に擴充せられてそれぞれの民族國家が各々その分を守り相提携し相協力してその文化的特性を發揮する時に眞に國際正義と兩立し得る世界の道義的平和が實現せられるのである。併し乍らこの宇宙絶對の眞理に適合する我が民族使命に叛逆し來たれる邪道の國家民族がある場合に於ては已むを得ずして彼等を正道に復へさむが爲に武力が行使されなければならないのである。併しながら我が國の武力は所謂神武であつて軍國主義帝國主義では斷じてないのである。易に於て「古の聰明叡知神武にして殺さざるものか、是を以て天の道を明かにし民を故を察す。是れ神物を興して以て民用に前だつ。聖人は是を以て齋戒し以てその徳を神明にす」(繫辭上傳)と述べてある。是に謂ふ神とは萬物を生成發展せしめる宇宙の原動力を意味する。亦易に於て「日新、之を盛徳と謂ひ、生々之を易といふ……陰陽測られざる之を神と謂ふ」(全)と述べてある。肇國の大詔を發せられたる人皇第一代を神武天皇と申上げること亦極めて意味深きことと拜察するのである。神武天皇は天業恢弘の御聖業を遂行せられるに當り

「吾必ず鋒刃の威を假らず、坐ながらにして天下を平げむ」

と仰せられ、眞の平和の御精神を示し給ふて居る。斯の如く我が武の眞精神は所謂まつろはぬ者をまつろはしむることであり、邪道に陥れるものをして正道に戻らしめ、誤まれる思想を追求するものをして正しき理想に隨順せしむることを謂ふのである。その順序としては先づ第一に極めておだやかに皇道を説いて、歸順すべき旨をお諭しになり、それでも尙ほ反抗し來たれる場合に於て初めて已むを得ず干戈を御用ゐ遊ばされたのである。今日皇軍の指導原理がこの意味に於ける武であることは言ふまでもない。

のをして正しき理想に隨順せしむることを謂ふのである。その順序としては先づ第一に極めておだやかに皇道を説いて、歸順すべき旨をお諭しになり、それでも尙ほ反抗し來たれる場合に於て初めて已むを得ず干戈を御用ゐ遊ばされたのである。今日皇軍の指導原理がこの意味に於ける武であることは言ふまでもない。

## 五、日本の責任と皇軍の新政權への協力

今回皇軍の活動は實に國民政府が東洋の道義精神を喪失し、ソ聯その他の諸外國の不當なる勢力の傀儡となり、排日抗日を事として更に反省せざりしが爲に已むを得ずして行はれたる義戦に外ならない。従て日本の意圖するところは支那の悪夢を醒まさせて、彼を正道に引戻し、蔣介石の似而非的民族主義から脱却した支那民族の眞の民族精神を自覺せしめて、その處を得せしめむとするにある。是れ即ち我が肇國の理想たる八紘一字の高邁なる精神の亞細亞大陸に對する光被に外ならないのであつて、支那四億の民衆を敵とするものでないことは呶々するを要しない。人民戦線と結託して東亞の平和を攪亂せんとする國民政府を撃たんとするものであつて、積極的には國民政府竝に是と密接なる連絡を取るコミンテルンの共産主義より支那の無辜の民衆を解放して各自をしてその處



を得せしめ、その志を伸ばさせようと欲するのである。是に東亞に對する我が國經綸の大義が発見せらるるのである。されば第七十二回帝國議會の開院式に賜はりたる勅語に於て

「帝國ト中華民國トノ提携協力ニ依リ東亞ノ安定ヲ確保シ以テ共榮ノ實ヲ舉クルハ是レ朕カ夙夜軫念措カサル所ナリ中華民國深ク帝國ノ眞意ヲ解セス濫ニ事ヲ構ヘ遂ニ今次ノ事變ヲ見ルニ至ル朕之ヲ憾トス今ヤ朕カ軍人ハ百艱ヲ排シテ其ノ忠勇ヲ致シツツアリ是レニ中華民國ノ反省ヲ促シ速ニ東亞ノ平和ヲ確立セムトスルニ外ナラス」と仰せられて居る。

是に於てか今回の聖戰の目的が極めて明瞭となる。それは支那の民衆を眞に救済して安心立命せしめ、日本の指導の下に西洋帝國主義支配下の爲に破壊せられたる東亞文明共同體を再建すべく相提携協力して行くことである。私黨私閥の貪婪なる利己主義に終始する蔣政權を討伐して徹底的に膺懲の實を擧げなければならない。而して蔣政權の討伐に従事しつゝあるものは實に皇軍である。崇高遠大なる東洋精神の下に起ちあがつた新政權も皇軍の保護援助の下に於てのみその存在を完うし得るのである。故に日本の對支國策の根本問題は東洋精神に依りて再興したる友邦の新政權を積極的に支持指導すべきものである。これがためには天壤無窮の日本國體に宿る歴史的現實的威力に

依てこれを支持指導するより外に途がない。實に日支の絶對的支持なくしては支那民族は今後如何なる國家形態の下に立つとも其將來は列國の擄取及び侵略に依て崩壊滅亡するの危險が多分にあるのである。従て支那の興亡の運命を決定するものは實に我が日本であるといふことを深く自覺しなければならぬのである。既に過去に於ても若し日本にしてなくば、支那の國土は西洋諸國の掠奪に委ねられ全く植民地してしまつたに違ひない。而してこの西洋勢力に對抗して亞細亞を確保し支那を救済したものは實に日本であつたのである。従つて當然の道から云へば、支那は最も日本を深く信頼し、又日本も同文同種の故に支那と能く親しんで居らなければならなかつた筈である。實に日本精神は一面に於て歴史的なる日本民族の傳統的生活原理であると共に他面に於ては之を古今に通じて謬らず之を中外に施して悖ざる人類普遍の原理の顯現であつて世界に廣く妥當すべき本質を有するものである。換言すれば具體的なる日本民族の生活を通じて普遍的にして且つ永遠的なる宇宙の生成發展の創造的大生命が躍動し來つたのである。從來日本精神とか或は日本主義とか云へばそれが我が國の特殊的產物であつて、他の國々には當嵌まらない偏狹なものであるかの如くに考へられて來たが、それは頗る皮相的なる考察であると云はなければならぬ。即ち純正なる日本精神は更に重要なる方面即ち普遍相を有するものであつて、今日の國際情勢に即して之を特に闡



明しなければならぬと思ふ。將來日支の新しき道義的國際關係を確立するが爲には、この日本精神の普遍相をハッキリと認識して、此上に確乎たる國策を樹立して行かなければならぬ。今日に於ては、問題は「どうであつたか」と云ふことではなく、「現にどうしつあるか」そして「これからどうするか」と云ふことに懸つてゐる。

今や日本民族は國の内外に向つて飛躍的なる創造發展を行ふべき千載一遇の好機に見舞はれてゐる。國內に於ける革新の機運が澎湃として溢れつゝあると共に、東洋を樞軸とする國際情勢は將に一大轉向を行はんとして居る。日本は此度の事變を眞に解決して東亞の平和を安定し、更に續いて不正なる現在の世界秩序を建直して崇高なる肇國の民族使命を實現して行かなければならぬ。

## 新民主主義の哲學的基礎

### 一

この度の重大なる時局に直面して、一般民衆は勿論、今迄殆んど無批判的に西歐イデオロギイに深く心酔して來た我國の所謂インテリ層、上層政治家層、實業家層、舊官僚層等は、今や己れの欲すると欲せざるとに拘らず、時代の強き運命的潮流に押流されて、我が根本的なる民族生命的原構造、即ち國體に對する存在論的認識を深め、この線に沿ふて自覺的に行動せざるを得ざるに至つたことは、誠に慶賀に堪えぬ次第である。畏くも 天皇は、萬物を公平無私に生成發展化育せしむる太陽的創造愛（それは生命的絶對的）をもつて、日本臣民をして各々皆その所を得せしめ、その個性・天分・素質・特徴を思ふ存分に伸暢發揮せしめつゝ、而かも差別ながらに多元的に相協力して



全體的なる調和的國家生活を實現し給ふのである（それ故に祭政一致の御政を以て國民を強く導き給ふのである）。而して斯の如き日本家族國家を完美し給ひたる後には、更に進んで弱肉強食、無政府状態が淺ましくも支配する現在の混沌たる世界に對して新しき國際秩序を與へ、各民族をして皆その個有の文化的個性を確保し、且つ伸張せしめ、而かも、彼等をして内面的に相倚り相結合して一大世界家族を創設せしむべく、宇宙さながらの天業經綸を行ひ給ふのである。實に太陽は我が日本のみを光被するものにあらずして、全世界を一視同仁に光被するものである。こゝに於てか我國の皇道は、一面傳統的なる我が民族精神をして發現すると共に、又同時に全世界に妥當すべき人類普遍原理として顯現すべきものである。今日、國民精神總動員を行ふに當つては、特にこの點をインテリ層に明瞭に認識せしめなければならぬ。

斯の如き皇道即ち 天皇道の御實踐に對して、日本臣民たる者は例外なく、皆その精神的竝に肉體的な能力を擧げて國家全體の御本身たる 天皇に歸一隨順して、民族的にして而かも全宇宙的なる御聖業に眞心を以て翼賛し奉らねばならないのである。これが臣道の精髓である。従つて、日本臣民の任務は明治以來西歐イデオロギーによつて歪められた我國を、「すめらみくに」の眞の姿に復せしめたる後に、更に近くより遠きに及ぼす東洋哲學の精神に従つて、先づ東亞大陸を物心の

兩方面より安定せしめ、續いて中央アジアを經由して歐米に向つて、不斷に民族的道義使命を遂行し給ふ 天皇の太陽的御經綸を最も有効に、最も純粹に實現せさせ奉るやう扶翼することではなげばならない。絶對的にして永遠的な大宇宙の理想を完美するが爲めに 天皇は臣民を導き、臣民は天皇に導かれて、而も心を一にし徳を一にして生成發展の創造的活動を行つて行くところに、動的に考察せられた我が國體の精華が存在するものと信ずる。

斯くの如く、日本臣民は「その正しき存在の在り方」に於いては、例外なく皇民意識を有たなければならぬものである。従つて悠久なる民族的理想目的の爲めには、有限なる個人的理想目的を隨順せしめて行かなければならない。この點から、個我相互の利己的對立を固執せんとする自由主義と、階級鬭争に依つて民族的統一を破壊し、且つ日本國民の性格を道徳的に破産せしめんとする共產主義とを、斷然排撃し克服して、全個融合の日本精神を、單なる觀念の域に止めしめず、之れを國家生活の總べての分野に力強く浸透せしめ、且つ具現せしめなければならぬ。個人主義は個々の自由放縱を主張して國家全體の道徳的なる調和統合を無視する。之れに反して共產主義は無産階





級獨裁を強制して、個人の創意と道徳的情操とを無視し、且つ個人活動の源泉たる財産私有を否認する。而して此の兩者を貫くものは對立的な功利的唯物思想であつて、人類精神生活が弛緩せるときに發生する病理的現象であると云はなければならぬ。然るに、眞の日本精神、即ち我が民族主義は、全個一體、融合の絶對道義原理であり、之れによりて各人の個性・天分が伸暢發揮せらるゝと共に、總べてのものが自發的に我が國家を體現し給ふ。天皇に歸一忠順することにより、綜合的なる國家的統一を實現せしむるものである。されば内部より外部に向つて顯現する深き日本精神はその内容に於て個人主義よりも、將た又共產主義よりも、更に深奥であり、又時間的に考へても最もモダンなものであつて、前二者よりも遙に現代の國民精神生活に適應するものと言はなければならぬ。實に日本精神は硬化し、形式化した現代生活を打開して潑刺たる創造的進展を促進せしむる生命的原理であり、之れが亦宇宙の絶對眞理そのものである。今日、全國民が自覺的に眞の日本精神を體現して、大和民族本來の道義的使命を、國の内外に強く顯現せしむることが、庶政一新の根本的問題であり、この先決條件が充足せらるゝに非ずんば、教育・政治・外交・國防・經濟・法律等の各分野に亘つての革新は、到底行はれ得るものでないと信ずる。斯の如き日本精神の立場から我國の外交を再認識し、これが方向をはつきりと確立することが、我等の最大關心事であらねばならぬ。

らねばならぬ。

### 三

從來、我國の外交には二つの行き方が存在した。第一の行き方は、所謂小乘主義的な外交の行き方である。これは國家百年の大局的考慮を度外して只管現實的な目前の利益を獲得せんとするものであつて、所謂經濟外交なるものは其の代表的なものであると云ふことが出来る。この行き方は内外の情勢に應じ、時に或は強硬政策を採り、或は反對に退嬰政策を採つて來たのであるが、その根底に伏在する思想は、何れも常に利己的發展慾であり、又功利的な權益の保護伸暢其者であつたと云へる。然るにこの種の利益追及の外交は、歐米の帝國主義外交を殆んど無批判的に借用し來つたものであつて、今日の外交常識から考へるならば、日本の從來の外交は歐米の外交と根本に於て何等の相違もなく、全く物質的であり、又功利的であつたと云つても敢て過言ではあるまい。

斯の如く、従前の日本の外交は大體に於て歐米流の帝國主義的發展慾を無批判的に踏襲して來た觀がある。我が日本は本來、白人の壓制下に苦しんで居る支那人、シヤム人、フィリッピン人、その他のアジア諸民族から唯一の力強い味方として、又運命的なる戦友として欽仰せらるべき立場に



あるべきにも拘らず、事實は却つて白人列強にも勝る脅威であるかの錯覺を興へ、日本と彼等の間には容易に越え難き溝渠と深刻なる猜疑反目を生ぜしめ、この状態を如何に處置するかにつき、日本自らが懊惱するが如き状態にまで立ち到つたのである。この根本的な心的立場を清算せざる限り、日本民族が滿洲から更に北支に進み、續いて他のアジア大陸に、又太平洋方面に發展膨脹すればする程、支那人其他のアジア諸民族を征服擄取するかの誤解を興へ、益々彼等の怨みを深め、彼等との關係を疎隔せしめて行く虞れがある。同時に其他の白人列強も亦、斯の如き日本に深き脅威を感じ、日本を世界恐怖の對象に供し、遂には日本をして世界を相手に戦はざるを得ないやうな立場にさへ陥れられる危険があるのではあるまいか。吾々は今日の重大なる時局を一大契機として、以上の如き非日本的な、非皇道的な、非大和民族的な、又霸道的な外交指導原理を斷乎として清算しなければならぬ。これが爲には先づ軍部及び外務當局が、この點をはつきりと自覺せられることを望んでやまないのである。

#### 四

第二の行き方は、所謂大乗的な外交の行き方であつて、八紘一字の我が民族的理想を基調として

現實的な小利害は之れを犠牲とするも、國家百年の經綸を目標とし、日本だけの利己的利益を追求する代りに、世界民族との共通の慶福を實現すべく努力し、結局に於て日本が世界の道義的盟主として仰がれるやうな皇道國策を遂行することである。滿洲建國も、對ソ準備も、日・獨・伊防共協定も、又今次の支那事變も、北支新政權に對する積極的援助も、更に英國に對する嚴乎たる態度も斯の如き國家百年の大經綸を遂行する爲めには、今日の現實的國民生活を或る程度犠牲にしても差支ないといふ日本主義的世界觀を基調としてのみ肯定せらるべきものである。現實に於ても今日の日本人はこの理想遂行の爲めに多大の犠牲を支拂ひ、更に將來に於ても尙ほ多くの犠牲を支拂はんとして、強き覺悟を固めて居るのである。従つて、日本の發展政策は悠久なる民族的理想を基調としてのみ、肯定せらるべきものである。而も此の日本の傳統的民族理想なるものは、人類進化の理法と、世界史的な必然的動向にびつたりと合致するものであると同時に、更に世界人類の良心の要求にも合致するものである。

更にこの大乗的な外交の行き方は、日本をして無限に發展せしむると共に、それが他の諸民族の脅威ともならず、又何等の犠牲ともならない行き方である。詳言すれば、日本の發展膨脹が單に異民族の犠牲、恐怖とならぬばかりか、更に進んで彼等の安寧、福祉を確保することとなり、従つて



日本の發展は人類一般の福祉を實現し、日本の發展そのものが日本人の良心的要求を満足せしむると同時に、更に結局に於ては、世界人類の良心的要求をも満足せしむる結果を招來するものである。

## 五

斯の如き外交指導原理は、日本民族的であると共に、總べての人類が之れに隨順せざるを得ない普遍的なる原理を具現したものである。而してこの原理は實に我が三千年の大和民族の血潮を貫流し來れる生命原理であつて、御歴代の御詔勅に於て「この漂へる國を修理固成せよ」、「八紘を掩ひて宇となす」、「萬里の波濤を拓開して天下を富嶽の安きに置く」、「信を國際に厚うして大義を宇内に顯揚す」と述べられて居るのは、即ち之れを意味するに外ならないのである。即ち道義を以て人類の切實なる良心的要求に合致するやう現在の世界秩序の不正缺陷を是正し、各民族の文化的個性を伸張せしめ、彼等を援助指導して、各々その所を得せしめ、各民族間の鬭争反目状態を變じて世界家族的な調和の世界を實現せしむることである。斯くしてこそ世界諸民族は次第に我が日本を以て世界の道德的盟主として仰ぎ見るべく、又世界良心の具現者として崇敬を拂ふに至るであらう。

我が日本國民、殊に外交、軍事の衝に當る者が、この根本的なる日本原理を體得するにあらずんば到底今日の非常時局を突破し得るものでない。斯くて、日本外交の本質が道義外交であり、斷じて搾取や侵略を目的とするものでないことがはつきりして來る。搾取や侵略や單なる權益の追求を目的とする帝國主義的な外交は、日本が發展すればする程、道義的には日本を危殆に陥れ、日本をして恰も人道の敵、平和の敵たるが如き印象をさへ與へる虞れがある。斯の如き外交は、道德國家たることを本質とする我が國體より見て、斷じて許さるべきものではない。

然るに不幸にして今日列強、殊に英・米・佛等の諸國をして日本が恰も支那に對して帝國主義的侵略を行ひつゝあるかの如き印象を抱かしめて居るのは誠に遺憾な事であつて、この點に就ては、政府がもつと眞剣に善處しなければならぬと思ふ。殊に眞の日本精神を辨へて居るとは人も我も思はないやうな所謂國民使節を、無批判的に歐米諸國に派遣して、やたらに辯解的な言辭を弄せしむることは、却つて有害無益な事であるから、これが人的統制を行ふことは焦眉の急である。海外に國民使節として派遣せらるべき者は、一應思想的試験に及第したものでなければならぬと思ふ。

既に述べたるが如く、この度の支那事變の本質は、日本的なる大乘主義的外交指導原理に立



つてのみ初めて理解せらるべきものであつて、小乗主義的思想に立つては到底把握し得ざる深き意義を有するものである。換言すれば、大和民族の道義的世界使命遂行の最も具體的なる現はれとして、今回の事變が発生したのである。即ち西洋的自由主義（對外的には帝國主義となる）の變形たる三民主義と、コミンテルンの共產主義とに歸依して、自己本來の民族的傳統から乖離して、本來の運命的戰友たる日本に對して排日、抗日の誤まれる國策を遂行し來れる南京國民政府を徹底的に膺懲して、支那民族を精神的に更生せしめ、彼等をして本來の文化的個性を取戻さしめ、その上に力強い東洋精神文化を再建せしめ、日支が新しく相提携して、東亞の安定を確保せしむると云ふのが、この度の事變の道義的目的なのである。

## 六

されば、總べての日本人にとつて絶對的指導原理としての精神的軌範力を有する御詔勅には「帝國ト中華民國トノ提携協力ニ依リ東亞ノ安定ヲ確保シ以テ共榮ノ實ヲ舉クルハ是レ朕カ夙夜軫念措カサル所ナリ、中華民國深ク帝國ノ眞意ヲ解セス濫ニ事ヲ構ヘ遂ニ今次ノ事變ヲ見ルニ至ル朕之ヲ憾トス今ヤ朕カ軍人ハ百艱ヲ排シテ其ノ忠勇ヲ致シツツアリ是レ一ニ中華民國ノ反省ヲ促シ速ニ東

亞ノ平和ヲ確立セムトスルニ外ナラス」と仰せられて居る。この度の事變は西歐列強が誤認するが如き領土の侵略戦でもなければ、又、單なる權益の擁護でもなければ、又、所謂自衛權の發動だけでもない。それは子を思ふ深き親心の純粹な發露であつて、日本民族は支那一般の無辜の大衆に對しては何等の敵意を有するものではない。唯だコミンテルンの策動に乗ぜられ、又、英國の老獪なるユダヤ的財閥に操られて、無智可憐の支那民衆をして、抗日・排日に躍らしめつゝある國民黨の南京政權を徹底的に膺懲して、彼等の眞の覺醒を促し、彼等をして眞の東洋的なる傳統・文化に立ち戻らしめて、日本と相提携せしむることに他ならないのである。この意味に於て、今回の事變は帝國主義的な、或は軍國主義的な領土侵略戦にあらずして、東洋精神に依つて基礎付けらるゝ聖戰であり、又義戰である。それは根本に於て最も高次段階の思想戰又は世界觀戰（Weltanschauungskampf）であり、日本民族に具現せられる精神的全個一體主義を以て、英米的なる功利的個人主義と、ソ聯に顯現する唯物的階級相剋主義とを克服することを目的とするものである。こゝに今回に於ける事變の哲學的意義が發見せられる。

幸ひに皇軍の向ふ所敵なく、北支一帯が安定せられると同時に、遂に國民政府の首都たる南京も陥落して、蔣政權は一地方軍閥の地位に陥没してしまつた。それは洵に御神慮が然らしめたとしか



思へないのであつて、我皇軍の神速な行動と、その忠誠無比な精神に對しては、各國皆驚嘆の眼を瞠つて居るのである。惟ふに斯の如きは單なる暴支膺懲と云ふが如き低き心的状態を以てしては到底把握し得ざる崇高なる道義的使命觀の具現化としてのみ考察せらるべきものである。

この秋に方りて、北支の明朗化する天地に東洋精神文化を指導原理とする新しき政權が力強く呱呱の聲を擧げたことは、實に世界歴史的な出來事として特筆大書すべきものと云はなければならぬ。これ全く我が民族道義的使命の力強き光被に外ならないのである。こゝに於てか、我が大和民族の道義的使命の本質竝に内容が如何なるものであるかと云ふことを學問的に一應考察して見る必要があると思ふ。

## 七

今日、一般に道義とか道德とか云ふ東洋精神文化の根本理念は、分つたやうであつて而も所謂インテリ層には未だはつきりとその深き意味が理解せられてゐない。今日の急務はこれらの東洋的な或は日本的な精神理念を Revitalize すること、即ち之れに新しき生命を吹き込んで躍動せしむることである。抑々道德又は道義と云ふ場合の「道」の原字は道である。而して之れを分析して證明

すると、 $\text{道}$ は $\text{イ}$ と同義であり、行の略字である。而して $\text{イ}$ は左足を踏出すことであり、 $\text{予}$ は右足を踏出すことであつて、結局 $\text{道}$ は運動又は時間を意味する。即ち東洋哲學流に言へば陽である。 $\text{多}$ の下にある止は靜止又は空間であつて陰に外ならない。かくの如く、 $\text{進}$ 、 $\text{入}$ は進み、入るの意であり、動靜若くは陰陽が交互して澁滞なく循環する大宇宙大自然運行の象である。次に首は人體の中に於て最も重要な部分であつてそこに神經中樞が位し、叡智が貯藏せらるゝ場所である。それより轉じて首は靈妙不思議なる生命力の理念となつて來る。されば結局「道」は或る靈妙不思議な宇宙の創造的大生命力即ち太極が春夏、或は晝の如き陽氣として發動膨脹し、しかも一定の時間を經過するとそれが此度は秋冬又は夜の如き陰氣として收縮凝固して行く。而も此の運行が無限に續いて行くことを現はしてゐる。之れは實に宇宙絶對眞理を意味するのである。孔夫子は大宇宙の原理たる道を考察して論語に於て次の如く贊嘆してゐる。

「天何をか言はんや。四時行はれ百物生ず。天何をか云はんや」

道はその陰陽の二氣を生命辨證法的に交互せしめて萬物の創造的進展を促進せしむるのである。生死の如きも、東洋に於ては矢張り陰陽の循環であつて、死は陰であり、臚ては陽の生として復活せらるべきものである。従つて東洋政治哲學は、同時に宗教的なる深遠さを含むものであつて、此



點から儒學の新しき研究が行はなければならない。次に東洋民族に共通なる世界觀に依れば、人間は本來その生命及び個性を天即ち大宇宙に負ふて居るところのものである。中庸に於ては「天命する之を性と謂ふ」と説いてゐる。又董仲舒はその著春秋繁露に於て「天は人の曾祖父なり」と云つて居る。従つて、大宇宙たる天の道は、それが縮圖とも云ふべき小宇宙たる人の道として當然人間の純粹意識の裡に働いて居なければならないのである。唯だ人間が本來の「正しき存在のあり方」にない場合には、人間の意識に宇宙の原理が顯現して來ないのである。即ち不幸にして人間の意識構造は動もすれば中を失つて一方に偏倚するやうに出來てゐるのであつて、或は私利私慾の爲めに、或は性格的缺陷の爲めに汚濁し昏迷し易い。併し乍ら、若しも人間が自己に潜在する明德を眞に明かにして偏倚せる低き心的立場を清算して性有りの儘の心に立ち歸るならば、大宇宙の生命原理即ち道がその儘に自己の淨められた意識即ち良心の中に働いて居ることを悟得し得るのであるかくの如く大宇宙と小宇宙とが密接不可分の存在論的關係 (das ontologische Verhältnis) を有し、天道が人道として顯現しなければならぬと云ふのが東洋の深遠なる「哲學的人間學」である。中庸に「誠は天の道なり、之を誠にするは人の道なり」と述べてあるのも此の意に外ならない。

易の繫辭傳に於ては「一度陰となり、一度陽となる、之を道といふ。之を繼ぐものは善なり。之

を成すものは性なり」と述べてある。詳言すれば「之を繼ぐものは善なり」とは、人間と云ふものは自己の生活原理を大宇宙の原理たる道から繼承するものであつて、之れにそのままに隨順し人工的作爲をせぬ場合には、ほんとの善が實現せられると云ふことを意味するのである。又「之を成すものは性なり」とは人間の意識と云ふものは、其の裡に道が顯現し得るやうに出來てゐるものであると云ふ意味である。性は本來の生れたまゝの心である。即ち良心であり純粹意識である。

## 八

扱て、天の道は陰と陽の調和的な創造的循環として働らくのであるが、人の道は仁と義との生命的統合作用として顯現しなければならないのである。されば、易の説卦傳に於いて「天の道を立て、陰と陽と曰ひ、地の道を立て、柔と剛と曰ひ、人の道を立て、仁と義と曰ふ」と述べてあるのである。換言すれば、大宇宙の道の陰陽は小宇宙としての人間の意識の深層場面ボイデンに於ては仁義として顯現するのである。即ち、陰の作用が純粹意識面に現はれたる場合には義となり、陽の作用が純粹意識面に現はれたる場合には仁となる。仁義は之れを日本的に言ふと「人情」と「義理」とである。既に述べたるが如く、一陰一陽の作用が力強く節せられる場合に中庸の善が實現せられ



るが如く、人間の意識に於ても發展膨脹して他の者をも自己の内に抱擁せんとする春夏の如き仁と他人と自己との間に正しき差別を確立せんとする秋冬的收縮作用を行ふ義とが、「時に中して」、即ち時間的に一定のリズムを畫いて矛盾なく繼起して生命辨證法的なる揚棄作用が行はるゝ場合に人間の眞の善の生活が實現せられるのである。實際に於ても人間が凡べての心的なわだかまりを棄て誠を以て純粹意識に立ち戻る時には、斯の如き道に合致した中庸の生活が展開するのである。これが所謂「中」の緊張した境地である。即ち、「中」とは生命力若くはヴァイタリティーを絶えず維持せしむる叡智的秘訣なのである、東洋の叡智 (die Weisheit la sagesse) といふのは、生命力が絶えず潑刺として創造作用を續けるやうに工夫することである。もし我々人間の生活が中(善)より離れ、陰か陽の何れかに偏き過ぎると、生命は弱り生活は形式化し硬化するのである。漢學といへば、直ぐ形式主義であつて不明朗極まるものと考へるのは大間違ひであつて、本來漢學の神髓は潑刺たる生命を永遠に保持せしむるところにある。されば、易に於ても「天行健なり。君子自彊不息」と云つて居るのである。

## 九

陰陽の天道即ち大宇宙の創造的生命の理法に従ひ打ち建てらるべき東洋政治學の根本原理は「指導者」と「被指導者」とが共通の道義目的實現に向つて立體的に相協力すべき原理である。詳言すれば春夏の陽氣を體現する王者が積極的に導き之れに對して秋冬の陰氣を帶びて消極的に之れに従ふ。人民が相協力して共通の目的たる宇宙的生成化育を遂行して行くことが東洋政治の行方であつて各人平等主義のデモクラシーと根本的にことなるものである。此の如き政治こそ一陰一陽の天道其のままの政治であつて、茲に小宇宙たる人間の生活と大宇宙の運行とがびつたり一致するのである。然るに自由平等主義の近代西歐社會に於ては、人道が天道から離れて、人間の生活は普遍的永遠なる基礎を失ひたるが爲めに勢ひ個人主義的方面へのみ進んだ。其の結果西歐社會は四分五裂となり、無数のイズムを發生せしめ、しかも此等のものが相互に對立鬭争するに到つた。若しも人間が東洋哲理にしたがつて、有限なる人道を普遍無限なる天道に合致せしめて行くならば、たとへ陽の個別化の傾向が發展して行くも、やがては之を統合化する相對的反對の陰が自ら發生することに依つて、社會の分裂的危機が避けられるのである。然るに不斷に生々創造する天道の規準を失ひたる人道が固執する結果、陽の個別化的の傾向は益々激化し、本來其れが有つてゐた生成發展の生命的躍進は全く失つて、退嬰的なる現狀維持主義に墮落してしまつた。之れが今日に於ける西歐



自由主義の行詰りである。こゝに於てか、西歐に於てはやむを得ず四分五裂の社會生活を收拾するがために、獨裁主義を以て人爲的に統合化の陰を發生せしめ、個人の自由を彈壓するの暴舉に出た之がソ聯の共產主義的な行き方である。しかし此のソ聯の行き方も同じく天道から離れた人道であつて、自己の裡に生成發展の力を藏してゐない。それは單なる秋冬の陰氣を硬化せしめたるものに過ずして、一陽來復の春氣を發生せしめ得ず、陰慘なる社會状態を齎らした。

此處に於てか其の後に現はれた民族主義的なファツシオとナチスの全體主義世界觀は、從來の西洋的イデオロギーの根本的缺陷に目醒め民族傳統生活の裡に具現せられて來た天道（生命發展の原理）に人道を隨順せしめ、之れによりて新しき創造生活を展開せしむるに至つた。かくの如くファツシズムとナチズムの民族的世界觀は不完全ながら東洋精神文化の方向に進みつゝある。さればこそ日・獨・伊防共協定も成立したのである。實に人道が天道に合致する時はじめて極りなき生成發展の世界が繼起する。自由主義的な個別化の作用と共產主義的な機械的統制化の作用とが對立矛盾せず、却つて相補正調節しヨリ高次綜合の生命創造生活が展開される。之が即ち道の生活である。此の意味に於て今日の西洋文明はダンテの唱へた様に「道を失つた文明」であつて、眞の東洋精神文化の光被によつて救濟せらるべきものである。

今日世界は急角度に轉廻しつゝある。陽的で商工業本位的、都會的、遠心的、自由主義的、個別化的、理性的、外面的、男性的、法治主義的、概念的なる第十九世紀のイデオロギーが刻々として陰的なる農業本位的、地方的、求心的、統制主義的、綜合的、情操的、内面的、女性的（ものを生みだす母胎）、道德主義的、實質的なるものの方に推移しつゝある。これはあたかも春夏が秋冬に推移するが如く、或は晝が過ぎて夜となるが如き極めて自然なる大宇宙の循行である。然るに大宇宙の運行と人間生活とを切りはなして考へる個人中心主義者は、あたかも陽的なる第十九世紀的イデオロギーが永久の道理なるが如く錯覺して飽く迄も自己の現状維持的立場を擁護せんと欲する。此の如き人々は歴史展開の運命的必然性に對する無理解を暴露するものであつて到底没落を免れぬものである。

歴史は繰返すと云はれてゐるが、今日の問題は本質的に考察して孟子時代に於ける思想問題と殆んど變りがない。當時流行した思想は楊子の個人主義と墨子の精神的な共產主義であつた。前者は自己と他者とを區別せしむる義のみを徒らに誇張して、自己と他者とを根底に於て大きく結び付ける仁を無視した。之れに反して後者は兼愛説を唱へ自分の父と他人の父とを同一視して抽象的なる平等主義を主張した。これは一見仁を説くものゝ如くであるが、實際には仁の根本的要素たる



義を無視せる結果、一種の精神的共產主義に墮落したるものである。此處に於てか孟子は從來仁のみを説いて來た孔子教を、時代の要求に應じ新たに仁義として之れを闡明しなければならなかつた。即ち孔子教は仁義調和の生命辨證法とも云ふべきものであつて、陽の仁と陰の義とを時に中せしめて生命力を不斷に緊張せしむる綜合的人間生活原理である。現代に於ける思想問題は個人主義と共產主義とを克服して全體的なる民族主義を振興せしむることである。之れは實に孟子時代に彷彿たる所である。

帝國大學の改革を中心とする文教刷新の問題の如きも此の線に沿ふて敢行せられねばならない。此の場合には 明治天皇の侍講元田永孚先生が明治十九年聖諭記に於て述べられたる所を参考すべきである。即ち元田先生は

「國學漢學の固陋なるは從來教育の宜敷きを得ざるに因る。其忠孝道德の主本に於ては和漢の固有なり。今西洋教育の方法に由て其課程を設け、東洋哲學中に道德の精微を究めるに至るの學科を置き、忠孝廉恥の近きより進んで經國安民の遠大を知得することを努めてこそ眞の日本帝國大學と稱すべきなり。今の設けの如くしては聖諭の如く、名醫は多人數成就するも政事は執ることはなるまじく、法學にて君徳の輔佐も充分ならず、理科・植物・工科等にて其の

藝に達したりとも君臣の道も國體の重きも腦髓に之無き人物日本國中に充滿しても、此を以て日本帝國大學の教育とは云ふべからざるなり。自今以往、聖諭に因つて和漢修身の學科を更張せんには、其道に志ある物集、島田等の如き聊かも國學に僻せず漢學に泥まず西洋の方法に因つて、教科を設け、時に適應して忠孝道德の進歩を生徒に教導せんこと何の難きことあらん、其氣風の及ぶ所、必ず國學漢學者中に奮發して、國用に供する者出で來るべき也」と述べてゐる。此處に我々は今日に於ける大學教育刷新の指針のみならず、又日本諸學及び東洋精神文化振興の道を發見するのである。漢學の如きは從來の如き舊式な教授法を一新して現代生活に適應し得るが如き潑刺たるものとしなければならぬ。

さて、西歐ことにドイツの最近の哲學傾向は著しく東洋精神的になつてきた。例へば、現象學を創始したフツセールの如きは、人間の純粹意識 (reines Bewusstsein) の原構造を分析して、ノエマ・ノエシスの構造と云つて居るが、ノエマは働らきかけられる意識の場面であり、ノエシスは働き掛ける意識の作用である。之れを東洋哲學の立場から考察すれば、ノエマは陰であり、ノエシスは



陽である。唯だ猶太人的なフツセル達は煩瑣な難解な言葉を以て東洋的なこの創造的眞理を闡明せんとするものである。日本の新進哲學者と稱する人々はフツセル達の説明を半信半疑の態度で鵜呑みにして之れを講義などして居るのであつて實に見識がないのである。斯の如く支那哲學に於ては、道が觀念的に闡明せられ、又道の循行と人間生活との有機關係が哲學的に説明せられて居るに過ぎぬが、我國に於てはこれが最も具體的な民族生命の根本的現象として顯現してゐる。

即ち我國に於ては道は「靈血」又は「御血」の意味であつて、精神的に或は理性的に統制される血液、若くは「民族的本能」、もしくは簡単に神聖なる血液と云ふ意味に外ならない。我が國の古典に依れば、天若くは大宇宙は天御中主神として顯現して居る。この絶對的眞理神を具現せられた御神體が太陽さながらの天照大神である。而して天照大神の直接の御後裔が 天皇であらせられる。而して日本人は皆直接間接に皇室より發現せるものであるから、結局、日本人と云ふものは、之れを根源生命的に考へるならば、何れも天を象徴して、かく申上げる天御中主神より發現するものである。而もこれが單なる概念でなく、天御中主神は現在の日本人とまざ／＼と直接に同じ血液。によりて繋がれて居る大和民族の祖先神であらせられる。即ち天御中主神の御血液がその儘吾々の血液として今日現はれて居るのである。さればこそ、日本に於ては、道は靈血即ち神聖なる血液と

して吾々に傳はつて居るのである。これが「惟神の道」の深き意味である。

而して我國に於ける「みち」は「むすび」即ち「蒸す靈」又は「生す日」の創造的働きを行ふものである。道に陰陽の働きがあるが如く、「むすび」でも膨脹個別化を司る高皇產靈神の御働きと收縮統合化を司る神皇產靈神の御働きとが「結ばれ」て其の結果「産靈」が起り新なる生命が創造される。我國に於ては、道は觀念でなく具體的な太陽の辨證法的生成發展の原生命作用として顯現する。而して太陽の原生命力を具現し給ふのが長くも 天皇で在らせられて、道さながらに、文武一體の御政治を行はせらるゝのである。文は陽氣であり武は陰氣である。宮中に於ける三殿、即ち賢所、神殿及び皇靈殿は(一)太陽神としての天照大神の御本質(二)次に天照大神の御本質たる日より發現する産靈の營む陰陽の作用即ち、高皇產靈神と神皇產靈神の相對二元作用、更に(三)皇祖皇宗の遺訓に外ならざる此の「むすび」即ち大宇宙生命原理を如實に體現して統治し給へる歴代天皇をそれ／＼象徴するものと拜察するのである。

斯の如く我が民族生命原理としての道は卑近なる個人主義的功利原理或は階級主義的唯物原理の



みを指導原理とするインテリ層には、到底把握し居ざる深き意義を有するものである。

こゝに興味あることは、人體の原構造が生理的に見ても大宇宙の動的構造と同じであると云ふ皇漢醫學者の考へ方である。即ち、人體をめぐる血液の運行を見るに、その中心的源泉たる心臓より血液が送り出づる場合は、春夏の陽の働きと同じであつて、それが次第に弛緩して心臓に歸る場合は秋冬の陰の作用と同じである。斯くて血液は心臓を樞軸として發展と收縮との交互的運行を續け次第に人體が物心一如に成長して行くのである。これは恰も大宇宙に於ける道が陰陽の交互作用として働き、その間に於て萬物が生成化育して行くのと同じである。又此の觀點からしても「みち」は御血である所以が理解せられるであらう。

されば、部分的な對症的治療のみをことゝして來た從來の西洋式分析醫學に對して、身體全體の血液の運行を旺盛ならしむることによつて、全體的療養を行はしむる東洋醫學の立場が、再認識されなければならない。

ナチス新興ドイツの高邁なる民族世界觀は、從來の如き「民主主義」か「獨裁主義」かと云ふが如き二元主義的な公式西洋イデオロギーを克服し、この二者を辨證法的に統合して新に王道的なる指導者主義なるものを創造したのである。これは實質的に見て東洋精神文化の流を汲むものであつ

てナチスの諸思想は吾々の特別なる研究に値ひするものである。最近雜誌「タート」十月號に、ユリウス・ハルトマンなる人が、「人間と四季の巡り」(Mensch und Jahreslauf)と云ふ論文を書いて居る。これは人生と四季との間に有機的な存在論的關係があることを指摘するもので、極めて示唆に富むものである。彼は次の如く述べて居る。「最近になつて人々は再び一方に於て四季と晴雨と氣候と、他方に於ては人間の病氣、殊に疫病の流行との間に存在する有機的關係に對して大きな關心を注ぐやうになつた。この點に就ては詳細な統計的資料を提供することが出来る。これは從來の如き個人主義的觀察方法の克服を意味するのである。今や人々は個人を再び自然現象の全體性の中に當て嵌めようと試みて居る。ヨーロッパに於ける出産率は二月に於て最も大である。これはその前の年の五月に受胎したことを意味するのである。即ち陽春五月に於ては人間の生命的本能が最も強く發動し、その結果人間の反省意識作用が微弱となる結果、こゝに性的衝動が強化され生殖作用が行はれるのである。又之れに反して冬季に於ては人間の内省が起り、深き思索生活が展開せられるのである。斯くて春に於ては生への躍動(der Lebensdrang)が行はれ、冬に於ては死への憧憬(der Todesdrang)が感ぜられるのである」と述べて居る。



此の感じ方と東洋人の感じ方は非常に近い。董仲舒は一種の「情操的人間學」を體系化した。彼に従へば、天の感情とも云ふべき涼暖寒暑は人の感情たる喜怒哀樂と有機的なる根本關係を有するものである。詳言すれば暖は喜氣として現はれ春に當る。涼は怒氣となつて現はれ秋に當る。暑は樂氣となつて現はれ夏に當る。寒は哀氣となつて現はれ冬に當る。斯の如き四季は天と人とが共に有するものである。故に喜怒哀樂の感情は之れを節すべきものであつて、決して之れを止むべからざるものである。之れを節する場合が「順」であつて、之れを止める場合が「亂」である。董仲舒の情操的人間學は生命力の極めて自然な運行を強ひて抑壓する場合には血なまぐさい事件が発生すべきことを警告してゐるのであつて、それは深遠なる思想である。

今日の人類は天道を忘れて人道のみを強調する結果、社會生活の圓滿なる進化が行はれず、動もすれば凡てが行詰り形式化する。其處で極端なる怒氣が爆發して亂が起り易いのである。我國に於ても形式的な法治主義が行過ぎて日本的むすびの生成發展が阻害せられた結果五・一五事件や二・二六事件の如きものを誘發したのではあるまいか。現在世界に戰爭抗爭が行はれてゐるのも、現

存の國際秩序や利益の追求に偏して、宇宙の生々進化に合はせぬ爲めである。若しも陰陽が無礙に交流するならば戰爭はあり得ない筈である之れが即ち和である。されば中庸に於て「喜怒哀樂の未だ發せざる之を中と云ふ、發して而して皆節に中る之を和と謂ふ。中は天下の大本なり、和は天下の達道なり。中和を致せば天地位し萬物育す」と述べてある。

之れが東洋哲學に於ける平和の根本理念である。元來平和の「平」は陽炎がゆらくと地上に昇る象であつてのどかなる氣分を表はす。次に和の扁即ち禾は穂の略字であつて豊かに實つた穀物の穂が地上に傾いてゐる象である。又作りの口は人間の口（人口）であつて、充分に穀物を喰べて經濟生活が安定するの意である。つまり衣食足りて禮節を知り得る状態にあるのである。其處で彼等を有効に教化し得るのである。かく平和は觀念論でなく物心は一如の實質を有する。

陰陽は離れてはならない。天地は分れてはならない。哲理と經濟と、教と食とは一致しなければならぬ。然るに西洋自由主義者の唱へる平和即ち所謂 Peace は一の抽象的な偽善的な概念に過ぎない。即ち此の種の平和は英佛の如き強大國が世界の天産資源を獨占して、自分だけが高度の經濟生活を享樂し他の優秀にして生活力に富む民族の膨脹發達を阻害し、抑壓し、彼等に對しては充分なる食さへ拒まんとする横着な利己的觀念なのである。さればこそ「持たぬもの」が「持つもの」を



打倒せんとする國際水平運動が起るのである。

此の點から不純なる西歐の平和觀念を克服し、其の基礎に立つ國際聯盟、不戰條約、九ヶ國條約は勿論、更に西洋流國際法そのものを嚴肅に批判すべきである。

一三三

然し乍ら茲に興味あることは個人主義思想が旺盛を極めて居るフランスに於てさへも東洋精神文化の研究は相當に進んで居ることである。例へば『アジアの統一性』(l'Unité de l'Asie)の著者、アン・ドレ・デュボスクは「ヨーロッパの智的統一性」(l'Unité intellectuelle)に對して東洋の「精神的統一性」(l'Unité spirituelle)を對立せしめて居る。彼は今日に於ける世界の文化的危機が人間の人格的深さを無視した人間の規格統制化(Standardisation)に胚胎せるものであることを指摘し、人間は抽象概念化されてその深き宇宙的意義が失はれてしまつたと説いてゐる。茲に於てか歐洲は新しき人間學を打ち立てなければならぬ。歐洲人は自然と人間とを對立せしむるのに對して、東洋人は人間が大宇宙に融合する。ヨーロッパ人は、支那人は宗教を有たない民族であると主張する。成程、宗教を以て「超越的な世界への信仰」であると定義するならば、支那人はその意味に於ての宗

教を有つて居ないかもしれぬ。併し乍ら、若し宗教と云ふものを「普遍的なるもの、永遠的なるもの」を追究するものであるといふ意味に解釋するならば、支那人は確かに宗教的である。支那通の學者、マルセル・グラネーの説く所に依れば、支那民族の哲學は人間と世界とを結付ける活動的な連帶哲學である。同じく有名な支那學者のアンリー・マスベロの言葉を藉りるならば「道は秩序にして同時に力である」(Le Tao est ordre et même temps puissance)。而してそれを把握した者に對して道は平和と權威とを與へるのである。さればこそ孔子は「朝に道を聞けば夕に死すとも可なり」とさへ言つて居るのである。東洋人は常に吾々西洋人の文明が唯物的であつて、彼等の文明こそは精神的であると説いて居る。斯くて、彼等の所謂物質文明に對抗する爲に、アジア人はアジアに歸つて結合しなければならぬと云ふ考方が強まりつゝある。こゝにアジアの統一性が次第に現はれつゝあるのである。『白人諸國の黄昏』(Le crépuscule des nations blanches)の著者、モーラン・ミューレは「今日のアジアには統一性が存在する。唯、それは一人の統率者を必要とするだけである」と説いてゐる。而して此の統率者は結局日本を意味してゐるものと想像される。

イタリーの有名なる文明批評家グリエルモ・フェレロは「探検と植民事業と移民と世界的宗教の普及と戦争と貿易と外交と鐵道と電信と飛行機とラヂオ等による世界的一般化の傾向から、一つの



『理想的文明』が生れることを説いて居るが、これは淺薄な考へ方である。成程斯の如き一般的傾向は世界を劃一化 (uniformiser) したかもしれないが、決して、それは世界を結びつける (unifier) ものではない。今日、明かに東洋は、物質主義化し個人主義化した西洋に對抗して自己の精神的統一性を益々鮮かにしつゝある。人間と世界との間には活動的連帶性が存在してゐると云ふ神秘的な考へ方 (l'idée mystique d'une solidarité active entre l'homme et le monde) はアジア人の頭に深く宿つてゐる。尙ほデエボスクは、現代日本に就て、次の如く述べて居る。「日本は黄色人種の爲に、西洋文明の取るべきものは之れを取り、棄つべきものは之れを棄てんとして居る。併しながら、その政治道德的なる原理は皇道 (KODO) であつてそれは道の潑刺たる啓示に外ならない。即ち皇道は不斷に宇宙不滅の原則と絶えず調和を保つて行動し世界に於ける平和と道義とを永遠に確立せんと念願するものである。従つて、それは所謂、帝國主義でもなければ、又、單なる經濟的膨脹でもない」と述べて居る。

## 一四

斯の如く、西洋に於ても東洋の大宇宙、小宇宙相關の生命哲理が眞面目に研究せられ始めた。こ

の點からも、著しく形式化し硬化して生命を失ひ、徒に訓詁考證のみに走つた我國の漢學の傾向竝に情操を排除して動もすれば無味乾燥なる歸納的方法を採用せんとするシノロギーの西洋的支那學研究方法を清算して、獨特の潑刺たる日本的な漢學の研究方法を新に確立し、東洋精神文化の近代的體系化を圖らなければならない。

其處で本論に立戻りて論ずるのであるが、天の道が人間の指導原理として發現したものが即ち、『道德』である。道德の徳の原字は惠である。即ちそれは十目、の見たるところ極めて明かであつて隅(「」は隅)まで光り輝き暗いところが一つもない太陽の如き、宇宙の絶對的な創造眞理を心の中に宿すと云ふことである。後世に至り惠に動を表現するイが加はり徳と云ふ字が出來たのである。詳言すれば、斯の如き宇宙生成發展の輝かしい創造眞理を自己の意識の中に働かしむる人間は、必然的に他のものにも精神的に働き掛けて彼等にも自己と同じやうに宇宙の眞理を體得せしめようと欲するのである。抑々東洋に於ける仁は人が二人並べる象<sup>すがた</sup>である。即ち東洋の愛は生成發展の創造愛を自己の意識に宿したものが、未だ個人主義の低き境涯に沈淪して居る者に働き掛けて、彼をも眞人間たらしむることである。従つて東洋精神は必然的に個人主義にあらずして、精神的全體主義である。又徳は得の意味であつて、天の道が人の道として得られたところのものである。朱子の註



に「徳之爲言得也。得<sub>ニ</sub>於心<sub>ニ</sub>而不<sub>レ</sub>失也」とある。

従つて、道德生活をするに云ふことは、唯、陰氣に閉ぢ籠つて形式主義を守り、消極的なる生活のみを營むことではなくして、反省的收縮的なる陰と明朗的發展的なる陽とが絶えず辨證法的に統合せられて潑刺たる中庸の創造生活が不斷に展開せられることなのである。これが即ち『時中』であつて、それには深奥なる哲理的意義が含まれて居るのである。日本に於ては、道は抽象的な理念として發展せず、太陽そのものゝ生命力として發揮せられて來たものである。太陽神、天照大神の御後裔としての天皇に忠誠を盡し、天皇に歸一隨順することに依つて、日本臣民の徳が自ら涵養せられるのである。而して之れを詳細に教へ給ふたのが教育勅語に外ならない。この意味に於て、陛下は光源としての御機能を發揮せられ、臣民はこれから放射せられる光線の如き存在である。

一五

次に「道義」とは如何なることを意味するであらうか、道義の義は宜即ち「よろしく」の意味であつて、總べてのものが自己の個性を確保し伸暢すると同時に、相互の間に差別を確立し、その間

に存在する相侵すべからざる秩序を存在論的に認識することを言ふ。大和民族の道義的使命とは、「道」そのものをまざまざと具現する太陽の宇宙生命力を體現し給ふ。天皇が萬物の上に光被せられて、積極的には各々その固有の天分を完成せしむる即ち宜しきを得せしむる——例へば、動物界に就て言へば、犬は犬としての個性を十分に發揮する、猫は猫としての個性を十分に發揮する、人間は人間としての天分を十分に發揮する。植物に就て言へば、松は松なりに、竹は竹なりに、梅は梅なりにその個性をはつきりと伸ばす——と同時に、消極的にはこれらの伸暢する個性の間に差別ながらも大調和が保たれて、對立的な鬭争が起らぬやうに、常に動的統制を行つて、多元が一元に歸するやうになし給ふことである。政は正なり（一に止まる。即ち凡べてが一大を意味する天に求心するの意）とは之れである。これが日本の民族的使命に外ならない。これが「皇孫正を養ふの心を弘む」の意である。英國流の世界的自由主義は、個々のものの素質個性を伸ばすことには相當役立つかも知れないけれども、個々のものを全體的に統轄する道德的原理が缺けて居るのである。之れに反して、ソ聯の世界的機械統一全體主義は、獨裁的に全體性が強制されるかも知れないが、個々の民族の文化的個性はすつかり破壊されて、生命のない殺伐な劃一的世界機構が出來上るだけである。然るに日本が表現する世界的なる全個一體主義こそは、全く中庸の大宇宙的原理そのまゝのも



のであつて、之れに依つて各民族が自己の文化的個性を發展完美せしむると共に、而も自發的に大きな動的な世界的統一性を實現せんと欲するものである。この意味に於て、現實に日本精神は近き將來に於て全人類の普遍原理として顯現すべきものである。恐らく、大國隆正の豫言せる如く日本は世界を精神的に統一することゝなるであらう。

尙ほ日本の民族理想を象徴的に説明して居るものは易の象傳である。その言葉は次の如くである。「大なるかな、乾元、萬物資りて始む。乃ち天を統ぶ。雲行き雨施し、品物形を流く。大に終始を明にして六位時に成る。時に六龍に乗じて、以て天を御す。乾道變化し、各々性命を正しくし、大和を保合して乃ち利貞なり。首として、庶物に出でて、萬國咸く寧し」。こゝにある大和が日本の國號の「やまと」にあてはめられたものと想像せられる。今日日本こそは世界に於て眞に道に即して行動し得る唯一の國家であつて、道を離れて混沌たる世界に彷徨ふ世界各民族に光明と希望とを與ふべき重大なる任務を果さねばならぬ。中庸は我國の天皇道の註釋として援用せらるべきものである。即ち次の如く述べてゐる「唯天下の至誠、能く其の性を盡すことを爲す。能く其の性を盡せば則ち能く人の性を盡す。能く人の性を盡せば則ち能く物の性を盡す。能く物の性を盡せば、則ち以て天地の化育を賛くべし。以て天地の化育を賛く可ければ則ち以て天地と參すべし」。天地と參すと

は天地人の三才即ち哲理、經濟、政治に通じて眞の王者となることである。實に東洋の政治は一元的遠久的なる天即ち普遍原理を體得する聖哲が、利己主義に捉はれて四分五裂の淺ましき状態に在る人民に力強く働きかけ（時には武力を行使す）、彼等にも普遍原理を體得せしめてやることである。而して此の場合には先づ人民の經濟生活の保證より始まり教化に終るのである。

## 一六

以上述べたる深遠なる東洋哲理を政治學的體系として整理したるものが經典『大學』である。大學はその冒頭に於て「大學の道は明德を明にするに在り。民を親にするに在り。至善に止まるに在り」と述べて居る。これが所謂、大學の三綱領と稱するものである。朱子は親を新と讀むべきものと主張した。従つて朱子に従へば大學の三綱領は、明德新民止至善となる。此の意味の大學は自由主義思想を教へ込む現代の大學とことなり天地人の三才、即ち哲學と政治と生産との原理に通じて居る王者が、天の徳を體して哲人政治を行ひ、未だ道德生活に入つてゐない人民を教化すると共に、彼等に地産の食料を保證し彼等を物心兩方面に亘り自覺せしめ、彼等にも明德を明にしてやることを目的としたものである。これが本當の仁の働き方である。之れを現代的に解釋するならば「明德を



明にする」とは、爲政者が先づ第一に個人主義的なる立場（例へば從來の政黨的立場、即ち我黨主義）、第二には階級主義的マルクス主義的なる立場（例へば社會大衆黨の如き立場）を清算克服して民族的な、全體主義的立場に自己を置くことである。

次に、「民を新にする」とは、まだ個人主義や自由主義や社會主義やマルクス主義や官僚獨裁主義等の偏狹な立場に捉はれて居る者に對し、精神的に強く働き掛けて、彼等をも民族的全體意識に目覺めしむることである。斯くてこそ彼等の心持が全く新になりて、そこに生命的な創造生活が始まるのである。新と云ふ文字は深き象形的意義を有してゐる。その扁は立木とも解せられるし、又繁茂してゐる木とも解される。その作は斧の略字であつて、茂り過ぎて却つて健全なる成長が妨げられてゐる木の華や枝を切りとるのである。従つて、新は生命力が阻止せられてゐるものに一撃を加へて之を振起せしむることである。又新には切りたての木と云ふ意味もある。これから薪と云ふ字が出てくる。尙ほ木は伸び行く生命のシンボルとしての *Lebensbaum* であることは云ふまでもない。維新は「これ新なり」と讀む。大和言葉では新は『あらた』であり、それは『あらためる』（改）、或は『あらみたま』（荒魂）、或は『あらし』（嵐）等と深き關係を有する。

最後に、「至善に止まる」とは、如何なる個人主義的資本主義的なる誘惑が來ようが、或は階級主義的なる怨の心持が起つたとしても、それにはすこしも捉はれないで、何時でも民族的な全體的道義意識に安住して政治を行ふと云ふ意味である。

## 一七

この大學の道は實に東洋の政治に當る者が是非とも體得しなければならぬものであつて、政治家の心掛次第に依つては、創造的氣分を失ひ退嬰主義に墮した人民の精神生活を、全く新にすることが出来る。周書の康誥に「新民を作す」とあるのもこれである。斯くて、人民は舊來の惡習を除き去つて、新生涯に入ることが出来る。又詩經に「その命は維れ新なり」と云ふのも之れを意味して居る。今日、我國に於て『昭和維新』と云はれて居るのも之れに外ならない。昭和の由つて來る「百姓昭明、萬邦協和」も同じであつて、百姓昭明は「明明徳」に當り、「萬邦協和」は國際政治に於ける新民に當る。即ち、日本が道德的なる模範的理想國家として完美し、これが人類の精神的燈明臺となつて、この周圍にアジアを始め世界の諸民族が自然に集り次第に教化せられて結局お互に相親しむやうになることを謂ふのである。大學は明明徳の過程を詳細に述べて居る。それは、格物、致知、誠意、正心、修身の順序を以て行はれる。



そこで、「格物致知」と云ふのは何であるかと云へば、それは宇宙存在そのものの根本原理を究め、自己の本質を宇宙に負ふてゐる人間の智と云ふものを哲學的に闡明することであつて、これが東洋哲學の精髓である。もつと詳しく言へば、易の「一陰一陽之を道と云ふ、之を繼ぐものは善なり。之れを成すものは性なり」と云ふ根本的な宇宙哲理を學的に把握することに外ならない。即ち『天の道』は當然『人の道』として顯現してをらねばならぬと云ふ哲學的原理を究明するのである。然るに、實際に於ける人間生活を考察すると、必ずしも人道は天道に隨順して居ない。そこで、非常な疑問が起つて、色々思索をして見ると、それは人間の意識が色々な片寄つた考へ方、例へば、個人主義的な立場や階級主義的な立場に依つて暗くされて居るからであると云ふことが分つて来る。斯くて、これらの片寄れる思想を清算克服して、「意を誠にする」と、即ち純粹な良心に立ち歸ると、「心が正しくなり」初めて、我々の意識の作用が宇宙の大原理たる道の作用に合致するやうになる、その結果、仁と義とが無理なく辨證法的に統合せられて善の中庸生活が行はれ「身が修まる」のである。以上が明明徳の過程である。

次に斯の如くして身の修まつた王者的人物、即ち天の道が自己の意識の中に於て如實に働いて居る人物は、已むに已まれない仁の心持から眞心を以て被治者に働き掛け、彼等をも自分と同じやうな高き精神的境涯に引上げようと欲する。その順序は「齊家治國平天下」の順序で行はれる。「齊家」と云ふのは自己の家族に働き掛けて、彼等を新たにするのである。即ち親としては子を慈む。是れが經の性命を發揮する所以である。次に夫としては妻を愛する是れが緯の性命の發揮である。經緯の性命を十文字に發揮して内より外に光被するものである。さて家が新になつた後は、更に國全體に働き掛けて國民を道義的に新にするのである。之れが「治國」である。最後に「平天下」は世界全體であつて、世界に働き掛けて各民族を道義的に教化して、彼等を新にしてやるのである。以上格物より平天下までの過程を大學の八條目と云ふ。斯の如く自分の精神的生活を内面から漸次に外方に發展せしめて行くところに東洋精神文化の大なる特徴がある。今日の西洋文明は形式的な法治主義的現状維持主義であつて、そこに深き精神的な動きがない。孫文もその三民主義の中に於て、甚だ斷片的ではあるが、大學のことに言及して居る。即ち、彼は『我が中國人は歐米諸國を近來非常に進歩したかのやうに思つて居るが、彼の新文化なるものは我等の政治哲學の完全なるに如かず、中國には更に一段高い系統的な政治哲學がある。然るに、まだ外國の大政治家も之れを發見



し得ないからして、その立派なものであることを唱道したことを聞かぬ。即ち、大學に言ふ「格物・致知・誠意・正心・修身・齊家・治國・平天下」がこれである。一個人の内容を完成することより始まり、個人を内部から發揚して外に及ぼし、之れを擴充し、天下に推到して止むと云ふ。斯様な精微な展開的理論は、外國の如何なる政治哲學にも見當らない。これは我等の政治哲學の知識の中の獨有的寶物であるから必ず保存すべきものである。我等の祖先はこの道德的原理を實踐躬行して來たのであるが、中國人は民族精神を失つて以來、この精神をも失つてしまつたから、普通の人が常に之れを言つても、それは唯だ口頭禪にしか過ぎない。その意義を解し、その妙味を探つて了得しようとしなさい」と述べて居る。然るに南京政府の要人達はこの三民主義の東洋文化的な精髓を忘れて、たゞ徒らに西洋化した三民主義の部分のみを指導原理として、排外的國家主義者に墮落してしまつたのである。

## 一九

以上に説ける所に依つても我が民族の道義的使命が如何なるものであるかと云ふ事が明になつたことと思ふ。即ち、日本は自ら王者的國家として明明徳を行ふ立場にあるのであつて、それは、世

界の各民族を新にすることを自己の崇高なる使命となすものである。而して、その順序は近きより遠きに及ぼすものであつて、先づ東亞大陸に於てこれが行はれなければならない。斯くて今日北支に於て新しき中國の政權が生れたのであつて、洵に意義深きことと云はなければならない。この新政權は着々として形を整へ、御聖旨に述べられてある「眞の提携」を行ふべき準備を行ひつゝある。去る十二月二十三日北京に於て、中華新政權を背後より護持すべき民衆の教化團體が結成せられた。これは「新民會」と稱せられるものであつて、此の名稱は東洋政治の理想たる「明明徳、新民」に由來するものである。即ち新民會の指導原理は新民主主義と名付けられ、之れが同時に新政權の指導原理となつた。即ち之れに依つて東洋精神的なる新しき政治教育が行はれんとして居るのである。日本も又新民會と密接に提携して其の任務遂行に協力すべきである。此度北支より重大なる決意を以て來朝し去る十二月七日より十一日迄五日間に亘り文部省大會議室に於て非常な感激裡に開催された歴史的な東亞文化振興協議會の席上宋介氏は中國側委員を代表して日本側委員に挨拶し「日支兩國は共同して東方文化を再建すべきであります。現在東洋の文化は大體から申すと即ち日支兩國の文化であります。遡つて考ふるに漢魏の時代より日支兩國の文化は既に密接なる關係を發生し、唐宋以降になりました更に渾然一體を爲して居るのであります。儒教佛教等は盛んに兩國の間に行



はれ、哲學、藝術、其他各種の文物制度は兩國とも大體同じであります。其後歐洲の風潮が駭々乎として東漸して参りまして、中國の新派人物は大抵東方の文化を蔑視し、孔孟の禮教を破壊し、遂に全體的に歐洲化を主張するやうになりました。故に現在日支兩國の同志は速かに提携努力して東亞の文化の厄運に遭遇することゝなりました。故に現在日支兩國の同志は速かに提携努力して東亞の文化を振興するを要するのであります。東亞の文化を發揚すれば東亞の民族は自然雄を世界に唱へることが出来るであります。歐米の物質文明は發達してをりますが、而もその社會の内部には多くの没落的象徴があります。將來彼等は必ず東方の文化に依頼して救済を求めると存じます」と述べてゐる、中華民國新民會は十二月二十四日午前を期して臨時政府行政委員長王克敏氏列席の下に、北京懷仁堂に於て華々しく發會式を舉行了。本會は新民主主義を指導原理とする民衆團體であつて、政府と表裏一體のものである。而して日・滿・支の共榮を顯現し、剿共滅黨の徹底を期し、世界平和に貢獻するを以て目的とする。又、本會は新政府の施政方針を體し、これが政治的實現を徹底すべき補助機關として政府以外の地位にあつて民衆の指導教化、訓諫を圖り、上から施す政府の政治に對して、民衆を調和せしめんとする新しき政治觀念の上に築かれたる民衆教化團體である。斯の如く、新民會及び新政權の指導原理たる新民主主義は南京國民政府の三民主義及びコミンテルンの共產

主義と全く本質を異にするものであつて、實に東洋精神文化の神髓が現代的なる表現を取つて現はれたものに外ならない。更に新民主主義を體現して、施政の衝に當るべき中國新政府の幹部を養成する機關として、北京に於て「新民學院」なるものが設立せられた。これは新しき官吏養成所として華々しきスタートを切らんとしてゐる。こゝに於て教育を受けたる者が新政府の樞要なる地位に就いて、明明徳、新民の政治を行はんとするのである。

尙ほ、新民會の綱領として次のものが掲げられて居る。(一)新政權を護得し、民意暢達を圖る。(二)産業(地産)を開發し、民生を安んず。(三)東方の文化道徳を宣揚光被す。(四)剿共滅黨の大轟の下に反共戦線に参加する。(五)友隣締盟の實現に邁進し、人類平和に貢獻す。以上。茲に注意すべきは新民主主義を如何に英釋すべきかの問題である。ジャバン・アドヴァタイザー紙は之れを *new people's principle* と譯してゐるが、之れは間違ひであつて *people rejuvenation principle* とでも譯すべきものである。

斯の如くして東洋精神文化の黎明が地平線上に現はれた。「光は東より」と云ふ豫言はまさに實



現されんとしてゐる。東洋は自己の傳統的精神に目覺めて、自覺的な生活を行はなければならぬ。日本も支那も滿洲國も、シヤムも東洋と云ふ一元的な運命的共同體の有機的な構成部分としての全體意識を深めなければならぬ。應ては大規模なる東亞聯盟の如きものが設立せられるであらう。何れにせよ、新民主主義の哲理的基礎は、上に述べたる所に依つて明瞭になつたことゝ信ずる。而して、北支に於て新民主主義が實踐せられると云ふことは、同時に日本自身が眞の日本精神に立ち戻つて、日本全體を新にすると云ふ問題と深き關聯性を有つものである、支那のみに對して東洋精神に還れと叫びながら、日本自身が自由主義や個人主義や社會主義やマルクス主義を清算し切れないうで、その殘滓を嘗めて居ると云ふことは主客顛倒であつて、この際大規模なる國民精神運動を展開して、日本を眞の皇國の姿に取戻さなければならぬ。新民主主義は東洋的政治哲學原理であると共に、當然全世界にも妥當すべきものである。従つて、この際北支新政權は新民主主義の如何なるものたるかを世界に向つて宣揚し、光被すべきであると思ふ。又、之れを眞心を以て實踐することによつて西洋流資本主義の變態的發現に過ぎざる南京政府と同時に、赤化共產主義の本體たるソ聯のコミンテルンも次第に克服されることゝなるであらう。斯くて南京の没落と共に新政權は當然支那全體の政權として確立せらるべきものであり、この支那の新政權と皇國の眞の姿に立ち還つた日本と

が心から相提携することに依つて御聖旨が眞に實現せられるに至るであらう。而して、これは當然世界的なる一大革新であつて、必然的に老大にして既に生成發展の力を失ひて形骸を留むるに過ぎざる英帝國の自然的崩壊を招來すべく、更にソ聯の内部的解體をも惹起すべく、斯くて八紘一宇の大和民族の理想が如實に遂行せらるべきを約束せらるゝであらう。



## 東亞民族運命共同體再建の急務

### 北支より歸りて

私は去る十月二日早朝、羽田からダグラス機に乗つて、あさみどりの大空を飛翔し、一路北支に向つた。初めの豫定では、東京から天津迄一氣に飛ぶ筈であつたけれども、大雨の爲に大連天津間の飛行が不可能となつた爲、止むを得ず大連から陸行する外なかつた。羽田・大連間の飛行に要する時間は九時間であつて、超特急「つばめ」で東京から神戸に行く時間で、日本と東亞大陸とが連結されるのである。今更乍ら航空術の異常なる發達に依る距離の短縮に驚かされた。そしてこれに就て色々な事を感じたのである。若しコミンテルンが支那を赤化した暁には、その影響は瞬く間に日本内地に及ぶに違ないと云ふ事である。全く、飛行機の發達と思想傳播との有機的關係を、ハッ

キリと認識しなければならぬ。それから有形無形の距離の飛躍的短縮に依つて、日本も滿洲國も支那もシヤムも、たゞバラ／＼の孤立國家單位として對立すべきものではなく、皆集つて、全體的な東洋運命共同社會を、有機的に構成して居るものであると云ふ事が認識せられる。

二日の午後三時に大連に着いて少憩。その夜の汽車で奉天山海關を經由し、四日の早朝に始めて天津東站停車場に着いた。飛行機で行けば大連・天津間僅かに一時間なのに、汽車で行けば二晩を車中で過すと云ふ事を考へると馬鹿々々しい位である、停車場の前にある支那の電話局は、空爆の爲にすっかり廢墟と化し、當時の凄慘な戦の有様が思ひやられるが、租界に入るとすっかり秩序が恢復し、表面上何等の不安がない。軍の特務部の眞方少佐（現中佐）をお訪ねして、北支に於ける軍指導の文化工作に就て色々とお話を承り、豫定表を作つて見た。

天津の見學視察は簡単に済ませて、六日の朝の汽車で北京に向つた。平常ならば二時間位で行く處を、九時乃至十時間もかゝるのである。郎坊や豊臺の驛に停ると、事變當時の戦の痕跡が、アリ／＼と残つて居る。またブラットフォームには砂囊が堆く積み上げられて、そこには銃痕のあとがなま／＼と残つて居る。

然し北京の城内に足を踏み入れると、模様はすっかり變つて、兎も角表面は、昭和五年頃に私が



留學したその當時と少しも變りなく、クツキリと晴れ渡つた青空の下に、東洋文化の聖都としての優雅な品位を昔乍らに保つて居る北海公園の白塔山に登つて見ると、一望の下に北京の全市が收められる。黄色い、瑠璃色の瓦が燦然として人の眼を射る皇居紫禁城を中心として、壯大な建築物が美しい線を描いて展開されて居る。そしてその隙間々々を、緑色のアカシヤや柳の木が埋めて居る。新しい支那通として知られて居る村上知行氏の言はれた様に、北京はお伽噺の森の街とも言つた處で、眞下に見える湖水！それを圍繞する樹木の壯觀は、東洋的な繪巻物その儘である。

私はしみじみと考へさせられた。此度の事變の最終目的は日支提携共同に依る新しき東洋文化の建設と東亞の政治的安定との實現である。この崇高な理念に導かれて、皇軍が迅速果敢なる行動を取つたればこそ、北京の東洋文化はいみじくも擁護せられ、確保せられて來たのではあるまいか。若しコミンテルン指導の共產軍が北京を占領したものと假定したならばその結果がどんなものであるかと云ふ事は極めて容易に想像され、總ては破壊せられ、掠奪せられ、唯荒寥たる廢墟の姿が残つたであらう。この意味に於て、北支に於ける我軍行動は、深き文化的意義を有するのである。實際に現地に於ける軍當局者と會つて見ると、嚴肅な敬虔な理想主義者の肌合の人々が多く、その純眞な心持には誰でもすつかり打たれて了ふ。排日侮日の一種の精神教育を永く受けて來た支那イ

ンテリ層は、深刻に日本を敵視して居る事は事實である。然し彼等と雖も日本人の眞面目な心持に觸れるに隨つて、極めて徐々ではあるけれどもその心理状態を變へ始めて居る様である。

「誠は天の道也。これを誠にするは人の道也」と云ふ中庸の言葉は、現在の支那人にも矢張りよく諒解されるらしい。日本が北支に於て文化工作を行ふ前には、先づこの誠の心持に依つて個人主義や階級主義の唯物的な考へ方や、對立的なイデオロギーを生産してかゝることが先決問題であるこの點から言つて、皇軍の指導原理は所謂デモクラシーの英米人達が、勝手氣儘に想定して居る様な低劣な軍國主義、帝國主義等とは本質的に異なるものである。即ちそれは眞の平和を實現するが爲に、惡逆無道の者を膺懲して、これを正道に戻すと云ふ東洋本來の武の精神を基調として居るものであつて、この道義的精神と近代的な科學戰とが結びつけられて、前者が後者を行使して行くところに、皇軍の世界無比なる強みが存在して居るのである。

事變以來、北支——殊に北京に於ける排日的な大學教授や學生は、皆南方に逃げて了つて、各大學は殆ど空家同然となつて居る。北京には南京政府の息が直接にかゝつて居る北京大學、北平大學師範大學、清華大學、北平藝術專科學校の他に澤山の私立大學が存在して居た。例へば、私立民國學院、輔仁大學、中法大學、朝陽學院、私立鐵路專科學校、中國學院、華北學院、交通大學、燕京



大學等である。これ等の中の或ものは、外國人の經營するものであり、殊にローマ法王朝から資金を仰ぎ、主としてドイツ人教授の經營して居る輔仁大學と、英米系の燕京大學とは、大規模な近代的組織の大學である。目下のところ、この二大學のみが授業を續けて居るが、これとても資金難に悩み、氣息奄々たる有様である。今日に於ける北支文化工作の主なるスローガンは、反共產主義、反國民黨、三民主義、反資本主義獨占、農村經濟の確立、東方文化の復興等であるが、その中でも根本的なる問題は疑もなく、北支經綸の指導原理として、今まで無視されて來た、東洋精神文化を、現代の必要に應じて再認識し、再確立する事である。これが爲にはどうしても東洋精神文化の本據たる北京に於て模範的な東洋文教大學を創設し、これを中心として新時代の指導者を養成して行かなければならないのである。從來北京に於ける諸大學、就中北平大學は、殆ど皆赤化分子の巢窟であつて、極端な排日侮日思想の温床であつた。そこで三民主義よりもコミンテルンの共產主義の方が遙かに人氣があり、苟くも新人と稱する人々は、マルクス主義がほんとうに把握出來て居やうが居まいがそんな事はどうでもよく、兎も角共產主義者を以て任じて居たのである。隨てこれ等の不健全なる思想を清算克服して、古今に通じて謬らない東洋精神文化原理を指導原理とする新しい大學を建設し、これに依て支那文化のルネッサンスを促進すべき日本の責任は、實に重大なるものと言はなければならない。

のと言はなければならない。

この度の事變は、單なる武力戰ではなく、寧ろその本質に於て思想戰であり、世界觀戰である以上、軍當局もこの事を深く認識して、直接間接に北支の文化工作に心をくだいて居る。現地に行つて見て始めて、廣義國防の眞義がハッキリと理解された。今日の戰爭に於ては、軍備、政治經濟、文化思想の綜合的融和に依てのみ事が決せられるものであり、又戰鬥員と非戰鬥員との間に明確なる線を劃する事も出來ない。自由主義諸國に於ては、政治と文化とを區別して、文化は一切政治とか國防とかには關係してはならないと云ふ様に考へて居るが、斯くの如き思想は今日の實際に即して放棄されなければならない。日本にも斯様な文化概念を指導原理として居る國際文化團體が存在して居るが、今日の國民精神總動員の立場から再組織されなければならないと思ふ。

又外務省の文化事業部の如きも、この新しい見地から建直さなければならぬと思ふ。私は、今更、弱い立場にある外務省を非難しようとする氣は少しもない。唯外務當局が眞面目に反省して、事務的でない、もつと創造的なもつと熱意のある、さうして支那の心の琴線にピッタリと觸れる様な文化的な仕事をして貰ひ度いのである。元來外務省文化事業部は、日本が率先して自發的にやつたものではなく、寧ろ英米諸國の文化事業に追従してやり始めたものゝ様に記憶して居る。隨つて



やり方が著しく自由主義的であり東洋精神文化の根本の線に沿うて行はれなかつた事は事實である。文化事業部の經營する諸學院の如きも、餘りにも西洋流な研究方法に追従して、内聖外王の生きた東洋哲理の研究實踐を輕視して來たのではあるまいか。今日西洋に於けるシノロギーなるものは、ヤバノロギーと共に嚴密なる批判の矢面に立たなければならぬ。更に文化事業部の如きものは、寧ろ外務省の手から離して、これを文部省の教學局の手に移す可きものではあるまいか。文化は決して事業ではないのである。文化は生き生きとした精神的活動でなければならぬ。この點も、識者の深く考慮せねばならぬところである。今日吾々の如く文化に携はる者は、その官たる私たるを問はず、皆、崇高なる民族使命を深く自覺して、飛躍的な創造を行はなければならぬ。

これを要するに、北京諸大學に於ける三民主義と共產主義とを學理的に再検討し、これが根本的結果を指摘すると共に、積極的には東洋精神文化を近代的に體系化し、基礎づけ、これを以てその新しき指導原理としなければならぬ。これが爲には、日本に於けるその方面の學術總動員を行つて、これが實現に努力邁進して行かなければならぬと思ふ。この事は少し繰返しになるが、この度の事變の目的と深い關聯性を有するのである。實際今回の支那事變は、眞の日本精神と、これが顯現たる道義的的民族使命をハッキリと把握する事に依てのみ、その目的がハッキリと認識されたの

である。即ち我國の武力行使は、東洋共同社會的意識を喪失して只管抗日に狂奔して來た南京政府を、徹底的に膺懲する事を目的として居る所謂まつろはぬ者をまつろはしめる爲の文化的聖戰なのである。

斯くの如き高次段階範疇の打開の理念は、鬭争本能の露骨なる發揮が戰爭であるとか、或は行き詰つた資本主義の、外國搾取に對する行政手段が戰爭であるとか主張して居る現代の一般的な歐米人には、到底理解出來ぬ所であらう。

政府も屢々中外に聲明して居る様に、日本は決してこの事變に依つて支那の領土を侵略したり、或は利權を獲得したり、或は賠償金を支拂はせようとして居るのではない。權益とか利益とか云ふ形而下的なるものを超越した、もつと高い道義的目的が皇軍を動かして居るのである。隨て海外宣布の衝に當る外務省の如きも、この點をハッキリしなければならぬのである。然るに動もすれば彼等は、現在の事變が、國際法上に於ける所謂自衛權の發動以上のものではないとか、或は支那に於ける日本の特殊權益の擁護が最後の目的であるとか、或は、持たざる者が持つ者に對する國際的水平運動の端的なる現れであるとか云ふ様に説明ばかりして居る。成程英米諸國などは、この説明の仕方が一番分り易いかも知れない。けれども然し、道義立國であり、又八紘一字を民族使命とする



我國の絶對至高の立場の闡明とは矛盾して來る。寧ろこの際には、一時の誤解を忍んでも、思ひ切つて日本民族使命の核心に觸れて、國際宣布を行つた方がよいと思ふ。又、さうしなければこの度の事變の大義名分は決して明かにせられないのである。私は北京滯在中、軍の當局者に對しては勿論、その他支那の要人や大學教授に出来るだけ接觸して、この點を明かにして置いた。

十日の夕方、北京大美樓に於て、事變後最初の支那要人學者との座談會を開催した。當夜列席された支那側の代表者は、北京大學教授の周作人、同錢稻孫、燕京大學教授柯政和、華北大學教授張一夢、同張我軍、同袁健民氏等であつた。事變の最中であつた爲に、初めの中は一座は白けて居たが、私から思ひ切つて、日本の眞意を彼等に説明した結果、段々に心と心が通じ、終ひには極めて和やかな心持のいゝ座談會になつた。私は卒直に彼等に語つたのである。

『日本の思想界に於ては、一方に於て自由主義若くはリベリズムの懐古的思潮が尙相當強く流れ、他方に於ては潜行的ではあるがマルクス主義的な思想が絶滅されては居ない。然し何と言つても今日日本の思想界をリードして居るものは、新しく構成されたる日本精神であり、更に東洋の精神文化である。今日に於ける緊急の問題は、東洋精神文化を英米佛に發現する自由主義合理文明と、

蘇聯に於て實際化された階級主義鬭争文明と比較考量して、その現代的意義をしつかりと把握し、これを國家生活の各方面に於て如實に具現して行く事である。私の考では、自由主義は成程個人の精神的並に物質的向上を意圖する點に於て顯著なる特徴を有し、又その國民に於て大きな長所を有するものであるけれども、各個人を結びつける一つの道義的な原理を缺く點に於て非常な缺陷を持つて居る。さればこそ現實に於ても、西洋の自由主義文明は、社會生活を不安ならしめ、弱肉強食の社會的反目對立を招來した。精神的にも經濟的にも、強いものはどしどし成功して行くが、弱いものは人から少しも相手にされず、所謂無産大衆の立場に蹴落されて行く、さればこそこの不合理を克服すべく、社會主義、マルクス主義の主張が生れて來たのである。この二つを籠めた意味に於けるマルクス主義なるものは、その理論が如何なるにせよ、現實に於ては自由主義の正反對な反動思想として現れて居る。即ち自由主義に於ては、個々のものが生きる代りに、全體を統一する原理が缺けて居る様に、マルクス主義の下に於ては、全體を機械的に強制的に統一する獨裁的國家機構が設けられる代りに、個々のものゝ創意發案の自由行動が蹂躪され、抑壓されて了ふ。この意味に於て、マルクス主義は自由主義的支配主義の一つの反動に過ぎないと言へる。

所が吾々の主張する近代的な東洋精神文化即ち全體主義は、自由主義の優秀なる點と、階級主義



が狙つて居る點とを内に含みつゝ、然もその兩者の缺陷を補正して餘りある大調和的綜合精神なのである。

詳言するならば、個々の人間的單位が、皆その天分個性を充分に發揮して創造的行動をなし得ると共に、同時に彼等が、内面的に相結んで、一つの絶對的權威に服する事に依つて自ら全體の統一を確立して行くのである。斯くの如く、内容的に言つて、吾々の東洋的精神全體原理は、自由主義及びマルクス主義よりも高次段階であり、より進歩的であると共に又時間的に言つて、彼等よりも更に新しく、モダンである。

元來日支兩國民は、この崇高なる東洋精神を共通に持つて來たのであるが、西洋近代文明が、日に進むに及んで何時の間にかこの高き傳統から離れて了つたのである。今日は、日本の有識者と支那の有識者とが、心から提携して、この貴き祖先の文化的遺産を再建しなければならぬのである。

實際西洋に於ても、自由主義的な文明と共產主義的な文明は、激しい批評の對象となつて居る。私はこの春、久し振りでイギリスを訪れ、新帝ジョージ六世陛下の戴冠式に參列したのであるが、イギリスが如何にも精神的に衰頹の徴を現して居る事を見てとつて、感慨を深くしたのである。そ

して英國人達は、今迄自分達の指導原理であり、又これが世界全人類の指導原理であると自信して來た自由主義から、漸く没落の境に入つたと云ふ事を、暗示的にもせよ、兎に角自覺し始めて居る様である。隨て私が東洋精神文化に就て話をすると、非常な興味と熱心とを以て傾聴してくれたのである。兎に角日本の思想界に於ては、舊來の自由主義系、及び共產主義系の學者は失望し、焦躁を感じて居るが、心ある新進の學者は、東洋精神文化の源に遡つて、温故知新を行ひ、以て日本を精神的に確立し、續いてこれを東亞大陸に及ぼさむとして居る。即ち共產黨のマルクス主義や、國民黨の三民主義から離れて、新たに東洋精神文化の源流に遡らむとして居る新興支那と力強く結んで東洋運命共同體を再建したいと望んで居るのである。

私の考では、東洋と云ふものは一つの不可分のな、有機的な運命共同社會であると思ふ。さうして、日本も支那も滿洲も、更に進んではシヤムの如きも、この運命共同體と云ふ全體の構成部分に過ぎないものと思ふ。これは地理的にも風土的にも經濟的にも文化的にも、あらゆる角度から説明せられ得るものと思ふ。隨てこれから日本も支那も、各々自己が一元的なる運命共同體の有機的部分としての自覺を含まなければならぬ。換言すれば、自分達の國の利益の事だけを考へる場合に、先づ東亞全體の健全なる發達と向上とを心から念願しなければならぬのである。昔は無自覺乍ら



斯くの如き共同社會的意識が働いて居た。例へば日本から起つた遣唐使安倍仲麿の如きは、支那に留學して居る中に文教の重要な地位につき、支那の爲に眞心を盡して働いたのである。又支那からは、多くの當時のインテリが日本に渡來して、日本の藝術文化工藝等を新興したるのみならず、彼等の多くは日本に歸化して了つたのである。今日はこの事實を意識的に再認識して、東洋運命共同體を再建せねばならない。これが、我々の直面する文化工作の要諦である。

さて皆様に對しては釋迦に說法であるが、社會の形態には二つある事は、御承知の如くである。その一つは孤立單位としての個人が先づ存在し、これ等のものが相集つて一つの利益社會を構成して居る場合である。他の一つは、過去より現在に及び、更に未來に向つて永遠に存続すべき運命的な共同社會が先づ存在して、然る後にその中に生活して居る個人がその構成部分として認識される場合である。

前者は西洋諸國に於て發達したる社會觀念であつて、これが國際政治の場面に顯現すると、所謂インターナショナルリズムになる。國際聯盟の據て立つ指導原理もこれである。即ち各國家は、何れも、所謂絶對主權を行使して對立して居るのであるが、それでは圓滿な協調が出来ないから、彼等相互の利益の許す限りに於て相團結して、利益的な國際社會を造つて居る。この考へ方が何時の間

にか東洋にも入り込んで來て、支那と日本を強く影響したのである。詰り支那も日本も、昔の運命的な關聯性を忘れて、相互に孤立な國家として對立する様になつた。即ち、日本は支那を文化的な同胞と考へずに、これを經濟的な容體として眺め、功利的な政策を行ひがちであつた。これに對して支那もこれに對抗して、遂には抗日的な政策をとるに至つたのではあるまいか。今日はこれに對して思ひ切つて聖戰して、第二の社會觀念に目覺めしめねばならぬ。

即ち第二のものは、先づ全體的な共同社會が存在し、第二義的に於て個人の存在が認められるのであるが、これを國際的に擴充して言ふならば、先づ過去から現在に及び、更に未來に向つて不撓に存在して行く東亞と云ふ大きな家族的な運命共同體が認識せられ、その次にその有機的な構成部分として、日本、支那、滿洲國等が認識されるのである、この事變を通じて、日本の識者と支那の識者とが心から理解し合ひ、個人的な國際觀念を止揚して、一大飛躍的創造を行ひ、共同社會的な東亞を再建しなければならぬ。これ迄は皆様方にもハッキリと御諒解がつくと思ふのであるが、これ以上が實は問題になるのである。

利益社會に於ては、各個人が皆平等の資格で對立して居るのであるが、共同社會に於ける各個人は、形式的なる平等の立場ではなく上下立體の道義的秩序を認めなければならぬのである。隨つ



て東亞と云ふ大きな全體的運命共同社會に於ても、自らこの種の立體的な秩序が認められざるを得ないであらう。即ちそこには、家長的な立場をとるものと、家族的な立場をとるものとが考へ得られる。而して家長的な立場をとるものは、権力ではなく、權威を以て家族的なるものに接し、又家族的なるものは眞心を籠めて、家長的なものが遂行する道義的使命の實現に翼輔して行くと云ふ建前である。随つて家長は、権力を以て自分を家長と認む可しと命令するのではなく、その深い創造的な愛が家族に滲透する結果、自ら家長として認められて行かねばならないのである。

そこで甚だ失禮乍ら、再建せらるべきアジア共同社會に於て、日本は家長的な役割を演じて行き度いと云ふ誠意を持ち、又その實力を備へて居ると思ふ。これが爲には、日本自身が深く反省して、過去に不純なものがあつたとしたならば、これを思ひ切つて清算して行かなければならない。さうして眞に日本が精神的に、世界觀的に本來の日本として確立せられたる場合に、更にこの精神を東亞大陸に光被して、支那にも働きかけて行き度いのである。

今日、日本の年號は昭和と云ふが、これは東洋の經典『書經』の言葉「百姓昭明、萬邦協和」に出づるものであつて、百姓昭明とは、日本が道義國家として完備する事であり、萬邦協和とは、この精神を以て先づ第一に東亞全體を精神的に安定せしめ、次いで世界全體に迄その道義的力を及

ぼすと云ふ意味である。この度の支那事變も、實はこの昭和の原理に依て行はれたるものであつて邪道に陥つた南京政府を膺懲して、支那を本來の王道的支那たらしめむとするのである。東洋の經典『大學』を繙けば、直ちに理解されるのである。「大學之道在明明德。在新民。在止於至善」と書いてあるが、これを現代的に實踐する事なのである。

願くば日本が王者的な民族として明德を明かにしたいのである。即ちこれが百姓昭明なのである。詳言すれば、日本が資本主義的な搾取主義の意識と、更に國際的な階級闘争主義に過ぎないコミンテルン共産主義とを清算克服して、自己を精神的に深く掘り下げ、遂に東亞共同全體意識に目醒める事が即ち現代的に考へられた明明徳である。

次にまだ、自由主義的資本主義や、階級的マルクス主義の低い精神状態に沈淪して居る南京政府の如きものに強く働きかけて、これも亦東洋共同運命社會の構成部分であると云ふ深い存在意識に自覺せしめる事が、取りも直さず「新民」の深き意味である。

次に、この高き文化的使命を行ふ場合に、種々な誘惑に出會す。例へば英米等の自由主義資本主義諸國は、手をかへ品をかへて日本の深い對支行動に利を以て干涉して來るであらう。或は階級主義の蘇聯の如きは、日本を以て平和の破壊者なりと斷じ、陰險なるコミンテルンを使用して内部攪



亂に出づるであらう。斯くの如き場合に於ても、日本は毅然として自己の高き立場を守り、少しも動ぜず、敢然として最後迄自己の使命を追求して行く事が、とりも直さず「止至善」の意味であらう。この點は日支兩國に共通した道義意識であるから、あなた方支那の有識者にはハッキリ御理解が出来る事と思ふ。否今日に於ては儒學なるものは支那に於て殆ど力なく、却つて日本に於てのみその生命力を強烈に保つて居るのではあるまいか。この點から言つても、日本が北支の文化工作の指導をして、支那を、眞の支那たらしめる事は日本の使命ではないかと思ふ。勿論これが爲には、北支の天地に於て英國流の植民地政策を行つてはならない。英國の極東政策は、その正體に於て經濟搾取主義であつて、東洋諸民族の開放を妨げるのみならず、又實に日本民族と支那民族との離間中傷に終始して居る。今日、日支は共に防共運動と共に對英認識の一新を圖らなければならぬ。南京政府の如く、支那の英國植民地化の進展を以て、支那は統一國家として完成されたものであると考へ、經濟的にも文化的にも復興の本舞臺に移行したと見る事は、重大なる錯覺である。

この私の意見に對して、列席の支那諸學者は心から賛成をしてくれた。但しそれが實行方法に就ては種々意見を異にしたのである。

兎にも角にも、北支文化工作の根本問題は、東洋運命共同體の共通的指導原理を確立する事であると思ふ。私の想像を無限に飛躍させて行くならば、必ず遠き將來に於て一つの東亞聯邦の如きものが生れるであらう。而してその曉には、東京は日本と云ふ重要な構成部分の首都であると同時に、東亞聯邦全體の首都として重要な機能を發揮するであらう。即ち東亞聯邦全體に關する軍事外交、經濟、財政、文化、教育等の大綱は、東京に於て決定せられ、これが東亞全體に適應せられるであらう。而して支那、滿洲國、シヤム等の構成部分は、この大方針に牴觸せざる範圍に於て、廣汎なる、精神的文化的自治を共有して行くであらう。而して東亞が、他の世界の部分——例へば歐洲とか米大陸と交渉する場合には、今迄の様に、支那や日本が別々に行動するのではなく、東京政府の意志が、東亞全體の意志として發表せられるであらう。

今日支那は、歐米に對して排日的な宣傳を盛に行つて居る。又日本は歐米に對して支那が怪しからなると云ふ事を宣布して居る。これは大局から見て、實に淺ましい事であつて、日支兩國は、本來の姿に還つて、斯くの如き兄弟喧嘩を止めなければならぬ。

私は北京に十二日の晩迄滞在し、十三日の夜遅く、再び天津に戻つた。天津には尙數日間滞在し



て、見學視察の要領を纏め、軍當局と色々な意見を交換し、更に種々の文化施設を視察した後で、十八日唐沽發の長江丸に乗り込み、二十二日の早朝、神戸に着いた。以上に依て、甚だ蕪雜ではあるが北支に於ける文化工作の狙ひ所が何であるかと云ふ事が判明するであらう。

## 新民主主義と日支關係の更新

去る一月十六日に帝國政府は中外に對して歴史的的重大聲明を發表した。その中に於て「帝國政府は爾後國民政府を相手とせず。帝國と眞に提携するに足る新興支那政權の成立發展を期待し、是れと兩國の國交を調整して更生新支那の建設に協力せんとす」と述べたる後に「政府は國民が此重大なる任務遂行のため一層の發奮を冀望して止まず」と結んでゐる。之に對應し、昨年十二月十四日北京に樹立された中華民國臨時政府を代表して湯爾和氏が正心誠意日本と相提携して東洋文化の再建に努力邁進すべき旨を聲明した。

斯の如くして全く新しい日支の國際關係が発生せんとしてゐる。詳言すれば一方に於て個人主義



と階級主義とを清算克服して、眞の皇道精神を以つて立上つた日本と他方に於ては西洋民主主義の殘骸ともいふべき蔣介石國民黨の三民主義と、コンテミルン指導原理の共產主義とを放棄して健全なる東洋精神文化の傳統に立返つた新しい支那とが、東亞民族共同體建設といふ高い理想に燃えてがつちりと手を組み合せて全く新しい提携協力を行ふべき基礎が出来上つたのである。御勅語に於て「帝國ト中華民國トノ提携協力ニ依リ東亞ノ安定ヲ確保シ以ツテ共榮ノ實ヲ揚クルハ是レ朕カ夙夜軫念措カサル所ナリ」と仰せられてゐるが其の御聖旨がいよく實現の途につく事となつた。日支事件は政府が度々宣言した様に、決して支那に對する侵略戦ではない。それは蔣介石抗日政權が日本に反對する諸列強にをどらされて、徒に感情的に日本に對して挑戦して來たのに對して、我々が止むを得ざる方法として行つた支那民族反省のための武力行使である。故に抗日支那の首都南京が陥落しても事件は終局に達し得ないのである。即ち事件を終結せしむるがためには支那民族自身が深く反省して、自發的に抗日を止め積極的に日本と協力提携し、又之に對して日本も從來の小乘的な行が、りを全部捨て、道義的民族使命遂行の崇い立場から眞心を以つて反省した支那と手を携へ、東洋精神に基いた新しい國際的協力組織を確立して行かなければならないのである。

即ち日支事變は單なる武力のみを以つてしては解決し得ざるものであり、どうしても明確なる自

覺の下に日支共同の大規模な文化工作が行はねばならぬ。此の點から觀て北京に成立した臨時中國政府と眞に日本精神を自覺した我國とが深く結びついて提携してゆく事が、右に述べた東亞文化工作の具體的な先決條件となるのである。

而して之が爲には先づ支那新政府が我が國體の本質とそれに基礎づけられた新しき内外の政治指導原理をハッキリと認識せねばならぬと同時に、又日本も將來全支那の政權として確立せらるべき北支新政權の政治指導原理となつた新民主主義がいかなるものであるかといふ事をはつきりと認識しておかねばならぬ。之は實に廣い意味に於ける國民精神總動員の任務でもある。北支新政權の主なる組織機構は今のところ第一には政府であり、第二には政府と表裏一體となつて民衆教化の任に當る新民會と、第三には新政府の第一線に立つて活躍すべき官吏を養成するが爲に設立せられたる新民學院である。而して是等の物を貫く共通の指導原理こそは新民主主義である。

新民といふ言葉は東洋政治哲學を體系化した經典大學に出づるものである。大學はその冒頭に於て「大學の道は明德を明らかにするにあり、民を新にするにあり、至善に止まるにあり」と述べてある。斯の如く新民とは民をあらたにするといふ意味である。もつと具體的に説明するならば新政權を擔當する政治家は明德を明らかにしたものでなければならぬ。「明德を明らかにする」とは、



天人合一の政治家となる事である。即ち哲人政治家としての修養を完成する事である。宇宙の森羅萬象が何れもその個性天分を充分に伸ばしつつ、而もその間に侵すべからざる一大調和の秩序が顯現してゐるやうに、此の地上の政治に於ても全ての者が皆各々其天分素質個性を自由に發揮し得ると共に、而も彼等が何等の強制を受くることなく内面的に自發的に相集つて調和的なる家族的國家生活を實現して行くやうに指導してゆくのが哲人政治家の道義的任務である。

されば斯の如き哲人政治家は、先づ第一に個人主義的であり利己主義的であつた國民黨の三民主義の立場と第二には階級主義的マルクス主義的なるコミンテルンの共產主義の立場を斷然清算克服して、支那民族全體の物心兩方面の健全なる發達向上を實現すべく全責任を負はねばならぬ。換言すれば、一部に片寄つて對立的となり鬭争的となつた個人主義的リベリズムと階級主義的マルクス主義の偏狭なる立場を止揚し、全體的大調和的なる支那民族主義に立つ孔子教の高邁至高の精神を現代に顯現せしむる事である。

此の意味の東洋政治哲學は奇しくも今日ドイツとイタリーに於て指導者主義の名の下に新しき形をとつて現はれつゝある。ファッシズム殊にナチズムはソ聯、英米等が宣傳してゐるが如き霸道的獨裁主義では無く、精神的要素を多分に含んだ東洋的なる哲人政治家の指導主義である。さればこそ

日獨伊防共協定も成立したのである。然るに未だ我國識者の一般はコミンテルンの巧妙なる宣傳に乗せられファッシオと云へば直ちに暴力的獨裁主義の意味にとつてゐるが之は非常なる間違ひであり友邦であり盟邦である伊太利に對しても遺憾なことである。今日からはファッシオ反對といふが如き言葉の代りにむしろソヴィエツト恐怖政治反對と云ふやうに是非直してゆかねばならぬ。勿論我國體がファッシオには無い至高の理念たることは云ふまでもない。國體の理念によつてファッシオとナチスを指導することが日本の任務である。何れにしても明德を明らかにするとは、宇宙の道、即ち永遠の動的生成發展の眞理を自己に體現して宇宙さながらの大調和慈愛の政治を地上に實踐し得べき哲人政治家となる修養の過程を述べたものである。従つて此の場合に於ては政教は一致する。政治は天意即ち宇宙哲理を經國濟民の具體的國策として具現せしむることである。斯の如き徳治主義は法律に依る行爲に過ぎぬ所謂法治主義とは全く本質を異にするものである。

自由主義的國家機構の下に於ては道德と法律とは截然區別せられ、政治は機械的若しくは事務的なる法律實施を目的とする單なる行政に過ぎぬものとなる。

斯の如き法治主義は動もすれば人民の道義心を麻痺せしめ、經濟萬能の功利主義を生み出し易い。人間に對する判斷も質を無視して量のみを重きを置、資産の高であるとか事務的才幹であるとかい



ふことのみを尊重して高貴なる精神思想とか或は優雅な藝術的教養の如きものは殆んど之を顧みない。今日の急務は斯の如き意味の形式的なる法治主義を根本から改めて全てのものに對し純眞なる精神的指導原理をあたへ、之に依つて彼等の功利的個人主義的な人生觀世界觀を變へてゆく事である。之が徳治主義である。論語には、次の様に述べてある。「子曰く、之を道びくに政を以つてし之を齊ふるに刑を以つてせば民免れて恥づる事なし。之を道びくに徳を以つてし、之を齊ふるに禮を以つてすれば恥づる事ありて且つ格す」此處に之を道びくに政を以てするとは今日の言葉で云へば法治主義のことである。即ち政府が法律命令を以つて行政をしてゆく事である。さうして之に背くものには刑罰を加へる。斯の如き場合に於ては人民は自分の良心に恥ぢて過なきやうに氣をつけようとはせず、却つてどんな悪い事をしても法律さへ免れさへすれば構はないといふ氣持になり易い。即ち現代の言葉で云へば萬事心臓でゆけといふやり口となる。次に之を道びくに徳を以つてするとは即ち明德を明らかにした哲人政治家が徳治主義の政治を行ふことである。つまり行政手段で政治をやらす人格本位の政治をするのである。

刑は外面的な法の制裁であるが、禮は内面的な自己良心の制裁であつて、深く恥ぢて自己を改めることである。勿論實際政治であるから刑罰も必要であるが、それは従であつて主は徳禮でなくて

はならぬといふことを説いてゐるものと思ふ。

## 二

以上に依つて大體「明德を明らかにする」といふ意味がハッキリしたと思ふ。

次が民を新にするといふ事であり、之が新民主主義（新民主主義）のよつて生れて來た源である。詳言すれば明德を明らかにした哲人政治家が尙個人主義や、自由主義、利己主義や、社會主義、共產主義、或は獨裁主義等の對立的の片寄つた主義、主張、立場にとらはれて、お互ひに鬭争したり不道德的なる行動をしてゐる人民に力強く働きかけて彼等を教化し、彼等の心の奥底に眠つてゐる明德即民族全體意識を明らかにせしめてやつて彼等をも自己と同じやうな高い道義的レベルに引き揚げてやる事である。

支那の實際について云ふならばインテリ層の如きは主として日本の過去の思想界學界の悪影響を受け大抵リベラリズムやマルキシズムにかぶれ善良なる民衆の損害に於て利己的な態度をとり、或は破壊的行動に出でて來たのである。そこで彼等に對して深き民族的反省をあたへ支那の健全なる傳統精神に立歸らしめ正しき哲人政治家の指導の下に新しき東亞建設のために眞心を以つて盡力せ



しむることが要請せられるのである。斯の如く「民を新にする」とは人民の人生觀世界觀を根本的に改める事である。従つて東洋文化は之を精神文化と謂はれるのである。抑々新といふ文字の篇は立木となつてゐるが、それは枝葉が繁茂してゐる木を象はしてゐる。即ち枝葉が茂り過ぎたために却つて木全體の生命の發展が阻害せられてゐる場合を暗示してゐるのである。

新の作りの斥は斧の略字である。即ち茂り過ぎた木の枝や葉を斧で切り拂ひ阻害されてゐた木の生命を再び躍動せしめてスク／＼と成長せしめてゆく事である。明治維新とか昭和維新とか云ふ場合の新も同じ意味であり、維新は「これ新なり」と讀むのである。我が國語に於てもあたらしいとかあらたなりといふのはあらたまる即ち改造であるとか、荒々しいといふことと深い關聯性を有つてゐる。斯の如く新民とか維新とか云ふ事は一つの革新的政治を斷行する事であるが、西歐流の革命殊に共產主義革命とは全く異なる。前者は弱り始めた傳統的なる民族生命に一撃をあたへて、之を力強く振興せしむる事であるに反し、後者は傳統的なる民族精神を根こそぎ破壊して機構的に生成發展の力を缺く獨裁的經濟組織を確立しようとするものである。前者は建設的であり後者は破壊的である。

さて哲人政治家が民を新にする場合には徳治主義と相並んで生産主義を行はねばならない。

哲人政治家は古來「王」と呼ばれたものである。王と云ふ文字は天と人と地を意味する横の三大宇宙要素を縦に貫いてゐる哲人を象徴してゐる。即ち王は天則ち精神と地則ち物質とを自己の裡に綜合調和した大調和の人物である。従つてその政治は自から物心一如となる。されば東洋の政治哲學は人間の精神のみを取扱つて經濟生活を顧みないカント流宗教的觀念理想論にも片寄らず又同時に所謂唯物史觀に捉はれて人間精神を無視し、徒らに經濟機構の革命のみを圖らんとする物質主義的社會主義とも異なるものである。哲人政治家は先づ土地を開發し産業を振興し民の生活を安定せしめねばならぬ。北京新民會中央指導部長繆斌氏の著述「新民主主義」と云ふパンフレットの中にも生産主義の事が詳しく書いてある。即ち新民主主義に基づく經濟組織は資本主義の如き分配の壟斷であつてもならない。それは自由なる人民が皆一致共同して機械を使用し積極的に生産を行ひ支那民族全體の發展のために貢獻してゆくのである。而して之が爲には第一に極端に疲弊せる支那の農村を振興せねばならぬ。之が所謂工業の農村化問題であり、農村を電化し且つ農村に近代的生产技術を教へ、又精巧なる機械を供給して自給自足せしめる現在の文明は所謂都會文明であつて腦溢血に罹つた人間のやうなものである。頭に許り血が上つて身體にあたる農村は貧血して畸形状態に陥つてゐる。そこで結局支那の政治家は先づ生産の基本となる民族的産業資本を蓄積してゆかねばならぬ



現在では諸外國殊に英國系の金融資本が南京政權と結びついて、支那の農民層を搾取して法外の利潤を獲得してゐる。其の爲に貧農は容易に共產主義の赤化の手に乗りコミンテルンの支那に於ける抗日的策動を容易ならしめて來たのである。そこで新政權の哲人政治家は一方に於て國際金融資本の壓迫から免れると共に、他方に於ては防共戰線を確立強化して自國の産業殊に農業の技術的革新を行つてその生産を大ならしめ民族の經濟力の自立を計らねばならぬ。之がためには、日本が進んで支那を援助すべきである。對支の經濟工作は先づ支那民衆の經濟生活を向上せしむる事から始まるべきであつて、最初から支那を搾取して甘い汁を吸ふといふやうなさもしい考を起してはならぬ。斯くの如きは資本主義帝國主義であつて日支の提携協力といふ御聖旨に反する。いづれにせよ哲人政治家は一般民衆の經濟生活を安定せしめたる後に於て教化を行ひ、彼等を道に従はしめるやうにせねばならぬ。「衣食足つて禮節を知る」とか「恒産なきものは恒心なし」といふが如きは之を云ふのである。新民會の綱領に於て産業を開發し民心を安んじ東方の文化道徳を宣揚光被す、と述べてある。東洋政治は實に哲學、政治、經濟三位一體の綜合的調和原理に立つものであつて、世界人類に均しく妥當すべきものである。之が所謂新民史觀であり、マルクスの唯物史觀を克服するものである。今一度繰返して述べるが大學には「明德を明らかにし、民を新にし、至善に止る」と書

いてある。そこで最後の「至善に止る」とは何のであるか。一言にして云へば全體的調和的綜合の至高の立場を堅持して、個人主義や階級主義の片倚つた對立的な立場に墮落せぬ様に精神的緊張を續けてゆく事である。

即ち哲人政治家は常に道に離れぬやうにせねばならぬといふ事である。之が所謂中庸である。庸は常である。「君子は中庸」小人は「中庸に反す」と云ふのは此意味である。個人主義者、共產主義者、自由主義者は此の意味に於ける小人であつて、精神的なる民族全體主義世界觀に生きんとする哲人政治家が即ち君子である。さて大學は東洋政治の施行のプロセスを詳細に説明してゐる。先づ明德を明らかにするためには格物、致知、誠意、正心、修身の過程を通らなければならぬ。格物致知は宇宙の眞理即ち道を究明する事であり、概言すれば深い學問である。誠意、正心、修身は深き學問を應用して、自己の意識を掘り下げて良心を發揮せしむる事であり、一言にして言へば德行である。尙學問と德行とを合せて『修己』といふ。次に新民は齊家・治國・平天下の順序で行はねばならぬ。之が所謂『治人』である。先程紹介した繆斌氏のパンフレットは之に親郷を加へてゐる。之は老子の道徳經の中にある言葉であつて、大學には洩れてゐる。親郷とは故郷を愛する事であり、それは地方の道義的自治として具體化される。之が所謂鄉村自治である。



いづれにせよ齊家親郷治國平天下の順序で新民が行はれ「邇ちかきより遠とほき」に及び内部より外方に  
向つて發展すべきものである。これ恰かも地中より芽生えたる若木が次第に成長發展して大木とな  
るが如きである。そこで新民の第一過程たる齊家が特に重要な意味をもつ。更に詳細に云へば明  
徳を明らかにして修身のプロセスを経て王者哲人政治家となつたものは、先づ家に於て模範的政治  
を行はねばならぬ。それは即ち人倫を正すといふ事である。父子兄弟夫婦がその立體的道義秩序を  
確立し一家全體の調和を實現するのである。「父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ」は之を云ふのであ  
る。新民主義のパンフレットは次の如く説明してゐる。「齊家の道は東洋家族主義の法則である。  
西洋思想には齊家の道がなく、従つて家族主義がない。故に西洋では功利思想の個人主義が發展し  
家族共存共榮の義務を認めない。又男女平等論が唱へられ、男女の權利は同じでなくてはならぬと  
説いてゐる。然し乍ら之は天理に反し、又人性に反する。天が男女を産むに當つてはその性を別に  
してゐる。而して各々が、その固有の徳を持つてゐる。

男性は陽で女性は陰である。男の徳は剛であり女の徳は柔である而して男女は對立すべきもので  
無く、お互ひに融和補正せねばならぬ。斯くて「陰陽合徳」(易繫辭下傳)と云ひ又「剛柔相推而變化」(同  
上傳)と云ひ、又「君子之道、造ハジム端ツ乎夫婦ニ。及ニ其至ルニ也。祭ナリ乎天地ニ」(書經)といふのである。之は即ち

天然人生の不易の法則である。男女がその天賦に従ひその性を盡すことが眞の平等である。されば  
男は主として外に出て働き、女は主として内に在つて家を守らねばならぬ。若し女子が外に出て男  
子の仕事を擔任する事になれば、それは天理に違反する事になり、勢ひ國家は亂れざるを得ない。

蔣介石夫人宋美齡を始め宋家三姉妹が南京國民黨政府の實際政治に參與したために此の度の如き  
不幸なる日支事件が発生するやうになつたのである。つまり蔣介石は齊家の道を行はず、従つて哲  
人政治家たる資格を持たぬものである。

### 三

以上に述べたる如く齊家の道を一言にして云へば、孝悌である。孝は縦の家族主義であり、悌は  
横の家族主義である。孝は老と子との合成文字であり、上より見れば親が子を抱く象であり、下よ  
り見れば子が親に従ふ象である。而して孝を擴充すれば祖先崇拜となり遂に萬物を生んだ天に達  
す。「本を忘れず」とは之を云ふ。此處に祖先を祭る祭祀が起る。一家には一家の祭祀が有り、一  
族には一族の祭祀があり、一國には一國の祭祀があり天下には天下の祭祀がある。天下の祭祀を通  
じて天地が萬物の父母であるといふ事を知る事が出來、又同時に四海の内皆兄弟である眞理が認識



されるのである。以上が所謂祭政一致である。數千年を経た今日に於ても中國の家族主義は少しも變つてゐない。中國民衆の數は四億に達するけれども、その姓氏は數百に過ぎない。然も各々の姓氏は皆宗譜、即ち系圖を保持してゐる。要するに孝悌は家族親愛の精神であつて、之を近きより遠きに及ぼすことによりて王道政治が行はれる。そこで齊家が擴充されて親郷となる。親郷は人格者に依る郷の自治政治である。従つてそれは今日支那で行はれてゐるやうな法治主義の地方長官や警察政治とは異なるものである。後者は徒らに法令を施行して人民を壓迫するものであり、官憲と人民の關係は壓迫被壓迫の關係となつてゐる。然し之は哲人政治主義に反する。元來地方自治の本義は「化民成俗」であり且「徳行道藝」の教を重んずる事である。地方官は師でなければならぬ。即ち政教は一致すべきである。

次に親郷は治國の過程に移行する。即ち地方の自治に成功したる哲人政治家は容易に國家を治め得るのである。前述したる如く、治國の道に於ては政と教と養とが一致せねばならぬ。養は人民の恒産と恒業とを保證し人民の生活を安定せしむる事である。書經大禹謨に「徳惟善政、政在養民、水火金土穀惟修、正徳利用厚生惟和」とあるのは此の意味である。厚生は養生である。厚生省の仕事なども體育許りでなく倉廩實ちて禮節を知る所までゆかねばならぬ。繰返して云へば政は徳

治主義として教は禮治主義として、養は生産主義として實現せられねばならぬ。之が新民主主義に於ける治國の道である。

此處に於て注意すべき事は東洋に於ける政の理念である。論語に「政は正なり」と述べてある。従つて政はものを正しくする事である。間違つてゐるものを正しく直くする事である。然しながら此場合に於ては二つの方法が考へられる。先づ原則としては教を以つて徳化してゆく平和的方法である。然し乍ら惡逆無道のものに對しては已むを得ず力即武を用ひ彼等を反省せしめて道に歸らしめねばならぬ。此處に文武兩道の政治が要請されねばならぬ。政と云ふ字の作りの文は鞭を象徴するものであつて、若しどうしても正しくならぬものがある場合には力を振つて之を正す事があり得る事を暗示してゐる。次に正はその文字の示す如く一と止るとの合成語である。「一」は一と大から構成されてゐる天の意味であり、従つて正は全てのものが、普遍的天意を體現してゐる哲人政治家に忠誠を捧げその教に隨順して自己も又天意を體得して多即一の生活を爲し、個人主義や共產主義を揚棄することである。従つて東洋に於ける戦又は武は「義戦」であつて、惡逆無道のもの正道に立ち歸らせる場合に於てのみ許されるのである。故に侵略征服擄取を目的とする西歐流の軍國主義や帝國主義とは全く異なるものである。



我が皇軍は支那に於て、斯の如き義戦を行ひつゝあるのである。されば東洋精神文化の健全なる傳統に立ち歸つた支那の新政權當局者は、當然我が軍事行動の深き意味を了解するものと信ずる。出來るならば日本政府と新政府とが世界に對して、嚴肅なる共同宣言を發表し九ヶ國條約を破棄し皇軍の行動が侵略に非ずして東洋平和の安定確立を目的とする崇高なる目的を遂行するものであるといふ事を全世界に向つて闡明する事が頗る望ましい。最近に於ける英米、殊に米國の新聞雜誌を通讀してみると、日本は實に野蠻な民族で支那を侵略し罪の無い支那民衆を殺戮してゐるから人道と平和との名において、日本に經濟封鎖を行ひ困らせてやらねばならぬといふ趣意の言論が壓倒的である。従つて日本は誰にも遠慮せず力強く新政權を支持し、援助し、日支が協力して事實上の東亞民族共同體を建設し、支那人をして歐米諸國に對し日本の眞意は實に國際正義と調和する眞の恒久平和確立であるといふ事を聲明せしむべきである。さうなれば日本に對する列強の疑念も反感も自然と消滅し無意味なる建艦競争等も起らなくなるであらう。更に一步進んで東洋の方から逆に西洋に働きかけ、我々こそは眞の世界平和擁護の道義代表者であつて、お前達は口でこそ平和とか人道とか唱へても實際には人類の良心に反する現在の國際秩序を飽く迄維持して自己の特權的地位を擁護せんとする不道德の者であるといふ事を指摘すべきである。此の意味に於て、此の度の日支事

變は世界の思想的又は世界觀的な大變動を誘發すべきものである。此の如く治國は平天下に迄到る。

茲に平天下とは全世界の平和を確立する事である。全世界の觀點から云へば或る特種の強大國家が徳も無いのに廣大なる土地を獨占してゐる事は極めて不當である。世界の土地は民族の天分素質殊に其有徳性に従つて適當に配分せられねばならぬ。「夫れ天に私覆無く、地に私載無し」とは之を云ふ。現在領土及び資源の分配問題が世界政治の重大問題となつてゐるが、之が解決の基準は、「大學」に述べてある。即ち「此故に君子は先づ徳を慎む。徳あれば此に人有り。人有れば此に土あり。土有れば此に財あり。財あれば此に用あり」と云ふ言葉が之である。一言にして云へば「徳は本なり、財は末なり」と云ふ事である。従つて有徳なるものは個人の場合でも國家の場合でも當然土地を所有する事が出来る。斯の如き國家は土地を充分に開發し産を興し自國の利益のみならず世界人類のために、之を善用せんと欲するのである。有徳といふ事は他人又は他民族の生命を尊重し、之を育成する事である。されば「大徳を生と曰ふ」といふ易の言葉が出て來るのである。此の立場から各國が皆利己的に自己の絶對的主權を主張し、相對立し、纔かに利害の相一致する點に於てのみ表面的平和關係を結ばんとする西歐流國際主義と、之を律する法治的國際法とを清算克服



して道義に立脚する東洋國際法を創定せねばならない。

之が爲には先づ日本と滿洲と北支の新政權とが精神的に道義的に相提携して東亞民族共同體を建設すべきである。更に進んでは印度その他の東洋諸國をも之に参加せしめ大亞細亞民族共同體を再建せねばならぬ。斯くてアジアを中心として東洋精神文化が次第に歐米にも光被せられ、その結果「道に外れた」自由主義と共產主義が次第に是正せられ、遂に萬邦が協和するに到るであらう。之が四海同胞であり、又八紘一字である。かくて平天下が實現せられる。之は多即一の新しき國際協力組織であり、國際聯盟に代るべきものである。以上に述べたるが如く我が日本精神と新民主主義とは多くの點に於て本質的に一致するものである。我々は今日東亞を再建し、世界に向つて天業を力強く遂行してゆかねばならぬ。従つて我々の新民主主義に對する深き理解が要求せられるのである。

今や時代は急激のテンポを以て變りつゝある。從來帝國大學その他の大學法科に於て講ぜられて來た西歐流の國際法、殊にケルゼン流の國際法はその實用性を失ひつゝある。之に代つて東洋的なる道義國際法が體系化され、新に大學の重要なる講座とならねばならぬ。今迄長く眠つて來た觀のある文部省の國民精神文化研究所も時代の必要に促されて面目を一新し内閣情報部とタイアップしていよいよ本格的に日本學及び東洋學の學的體系化とその實施とに乗り出さんとしてゐる。いくら

大學教授を檢舉しても彼等の自由主義的學問に代るべき日本學の體系が樹立されなければ、大學は到底眞に改造されない。實際日支の深き精神的提携親善を行ふためには、新しく生れんとする東亞國際關係を律すべき新しき指導原理が要求される。間もなく對支事務局なるものが設立されるとの事であるが、若しそれが單なるお役所又は事務局に終るならば非常な不幸であつて、どうしても思想家、學者肌の政治家的人物を首班におかねばならぬ。又外務省も同省調査部の刊行せる『日本固有の外交指導原理』に遵つて、もつと明確なる自覺のもとに日支國際關係の更生整調に力強く働きかけて行かねばならぬと思ふ。



## 北支文化工作の諸問題

### 日支心の一致が必要

北京へ直行。三月二十二日夜東京を出發して朝鮮を經由、二十五日の朝早く奉天に到着し、それから北寧線に乗換へ山海關を眞夜中に通過し、翌朝天津に着いた。どの列車も支那行の内地人の旅客で一杯で二等などは座席なく立通しの人があつた位であつた。民族の發展力といはうか、膨脹力といはうか、さういふものを目のあたりに見せつけられたやうな氣がしてならなかつた。

軍の特務部では相當に嚴格な統制を施して、あまり望ましくない連中の渡來を防壓せんとしてゐるけれども、探險心と企業心に張切つてゐる人々が、内地からはみ出して來るのを、どうすることも出來ないらしい。

春がまだ淺いので、滿洲、北支の天地はまだ荒涼とした冬枯れの景色が廣がつてゐたが、仔細に眺めると路傍の柳にはヒツ色の芽が吹き、どこともなく雲雀の歌がひゞいて來る。殊に北京に近づくと従つて景色が和やかとなり、老梅と覺しきものが、農家の庭に咲き亂れてゐた。全く五月の候に入れば、春光遅々として花紅柳緑の情景が至る所に展開し、遊子の心を慰めるのである。

四晩を汽車の中で暮らし漸く二十六日の正午に北京に着いたものである。驛頭には日支の友人が出迎へてくれて萬事世話してくれたので非常な混雜にも拘らずすぐに宿舎に落着くことが出來た。北京は去年の十月（前述、昭和十二年）行つた當時にくらべて著しく活氣を呈し、支那人の顔色にも不安の影がなく、新政權の事業も徐々ながらもその緒についてゐるやうな感じを受けた。日本人向の宿屋と飲食店が急に増加し、自動車の数が目に見えてふえた。

私は先づ北支新政權と表裏一體をなして民衆の教化と救濟とに當つてゐる新民會の本部を訪問した。新民會は滿洲國の協和會に相當するものであり、新興ドイツの政治指導を行ひつゝあるナチス黨の如き本質を有するものであると思ふ。會長は將來新政權の元首たるべき者がこれを占めることゝなつてゐるので、現在の處は空席である。副會長には學習院の出身でかつて滿洲國の實業大臣をつとめた張燕卿氏がこれに當つてゐる。その下に會の最高幹部として中央指導部委員が存在してゐ



る。

これ等の委員が同時に新民會各部の部長を兼任する。たとへば委員小澤開策氏は總務部長であつて會全體の樞機を握り、極めて重要な地位について居られる。

同氏は滿洲國建國の功勞者であり、また協和會の創始者でもある。その後北支に赴任され、軍特務部から文化工作を總括的に委囑されてゐる茂川少佐と共に民衆の間に深く入り込んで日支の思想的提携協力に盡瘁された人である。

次に委員繆斌氏は中央指導部長の職にある、同氏は日本において文武の關係を研究して歸國し、武徳論といふ興味深き著書を公けにした。また同氏が最近書いた新民主主義といふパンフレットは、その内容が、極めて示唆に富み、新民主主義研究者が一讀すべきものである。それから委員の宋介氏は、教化部長として、大いに活躍してゐる。同氏は昨年十二月初旬、文部省大會議室において五日間開かれた。新東亞建設に一新紀元を劃せる東亞文化振興協議會に参加した中國代表の一人で、歸國早々この重職に就いたのである。

本年の二月頃誰であるかはつきり記憶してゐないが、昨年北支から來た支那文教使節がインチキナ人々でもあるかの如き不見識極まる説を發表したものがあつた。しかしこれは何かためにする處があつて書いたものとしか受取れない。

何となれば一行六名の人は今日何れも北支新政權の下に重要な社會的地位を占めてゐるからである。王謨氏の如きは去る三月廿六日北京師範大學の院長即ち日本でいへば總長に任命せられた。私が北京に着いた前日に王院長は大學職員一同に對して極めて適切なる訓示を與へたことが新聞に大きく出てゐた。柯政和氏は新民會中央指導部の委員であると同時に、師範大學の總務長としてその實權を握つてゐる。その他林天樞氏も、齊樹芸氏も、武鴻橋氏も皆要職につくことゝなつてゐる。私が北京に來たことを知つて彼等は百年の知己にでも會つたやうな温かい氣持で心から迎へてくれた。何といつても支那に對する文化工作は、中國人の心の琴線に觸れて彼等の共感を呼覺すことから始まらねばならぬ。

從來の如く日本側が獨善主義的に、勝手なプログラムを作り上げこれを支那側に押しつけるのは駄目である。勿論日本側が指導的立場を執つて、善いことは遠慮なく積極的に行ふべきであるがその以前に双方の心持が一致してゐなければほんたうの効果は擧らない。

これがいはゆる道義的提携の基礎なのである、この點から見ても昨年十二月の日支學者の文化協議會は双方の自發的要求から行はれたものとして全く畫期的なものであつた。



## 新民會の綱領解説

少し話が横道に外れたのであるが、新民會は今から極めて重要な役割を演じなければならない。先づ第一の任務は、新政權の指導原理である新民主主義<sup>シンミンチヤウイ</sup>を政治、經濟、教育その他すべての新國家生活の分野に滲透せしめ徹底せしむる事である。圖らずも私は今回新民會の思想方面をお助けする意味において中央指導部委員の末席を汚すことゝなつた。小澤總務部長の談によると今後は新民會がすべての文化工作、思想工作の總元締となり、その主義方針に反するものは許容しないといふ原則が確立された。新民會の綱領は五條から成立つてゐる、宋介教化部長が、その解説をしてゐる。

先づ第一は『新政權を獲得し以て民意の暢達を圖る』といふのである。即ち青天白日旗を打倒して新たに五色の旗を掲げた新政權は先づ黨を以て國をぬすんだのみならず、つひにソ聯は容共の舉に出た國民黨政權を否認し、友邦日本の援助によつて自己の地位を確立したのである。

新民會は、この新政權が王道の再確認たる新民主主義の線に沿うて健全なる發展を遂げ、今まで不當に壓迫されて來た人民、殊に農民層を尊重し、彼等をして皆その所を得せしめるように指導し護持して行かなければならない。國民黨はいはゆる一黨專政であり、口で民權主義をとなへてゐるが

その實蔣介石一族の個人主義的專政政治であつた、またこれと結託した共產黨は單なる階級專政主義に過ぎない。

第二は『産業を開發し以て民生を安んず』と述べてある。國民黨が政權を壟斷して以來軍閥がしきりに内亂を起し、その結果農村は破壊せられ、農民は飢餓に瀕した。更に歐米の機械工業が東漸するに及んで、支那傳來の手工業が没落し、失業者が續出した。これに加ふるに租税は益々増加ししかも政治上並に軍事上の浪費は際限のないものとなつた。その結果は中國民衆生活の貧窮となつて現れた。こゝにおいてか新民會は、新政權と表裏一體の關係を保つて北支の豊富なる天産を開發し、中國民衆の生活を安定せしめんと欲するものである。

これがためには第一に外資を利用して經濟的合作を圖り、第二に友邦日本の人材を登用して技術の改良を圖り、第三には鐵路、港灣を建設して運輸の暢便を圖り、第四には政治と社會生活とを刷新して組織的なる建設事業を行はねばならない。小澤總務部長の説く所によれば當分新民會は民生の安定、殊に今度の事變によつて多大の被害を受けた地方農民の救済と指導に全力を集中するとの事である。實際において近代的武器の廣用による戦争の慘害は豫想以外に大なるものがあつて、その再建事業は容易ならざる努力を必要とするものである。地方の救済に並行して北京市の都市計畫



が着々として進められてゐる。詳言すれば従來の城壁にかこまれた北京舊市街は支那固有文化を代表する都市としてそのまま保存せしむると共に、更に城外の西山近くに近代的新市街を建設して進歩的なる施設を行はんとするものである。これは最も有意義なる具體的文化工作の一つであり、日支共榮の御聖旨に副ふものであると思ふ。

鐵路港灣の問題についても盛んに新しい計畫が行はれてゐる。山西その他の天産資源を開發するがためにはこの地方と海とを結びつける鐵道の敷設が絶對的に必要である。また北支の最も重要な商業都市天津は、白河の押出す泥土にさまたげられて海との圓滑なる聯絡が遮斷されてゐる。そこで新に大清河の河口に築港しようといふ計畫がある。これが出來ると天津は自然とさびれ今まで殷賑を極めた外國の租界も衰微を免れない。かくなれば西洋勢力は次第に驅逐せられ、その結果日支の眞の提携協力が促進せられるであらう。

第三は『東方の文化道德を發揚する』ことである、こゝに東方の文化道德とは、大體において孔子教を指してゐる。それは中庸調和のいはゆる精神文化であつて、自己を立てると共に他人をも立てることを主眼とする。仁といふ根本道德理念は人が二人並べる象であつて個人主義と全く異なる。

孔子教は實に政治、社會、道德、經濟を一つに結ぶ綜合的原理である。しかも孔子教は大學の「明明徳、新民、止於至善」の三綱に要約される。しかして新民主主義は實にこの新民に由來するものである。換言すれば、それは内聖外王の道である。聖人としての内面的教養を積んだ天人合一の大人物が、王者としての外面的政治を行ふことである。

これが明徳を明らかにするといふことである。もとより新民主主義は中國新政權及び新民會の指導原理であるから、明徳を明らかにするものは支那の哲人政治家でなければならぬ筈である。つまりかくの如き中國の王者は自由主義の擬裝に過ぎない三民主義と更にそれを温床として發生した共產主義の偏倚せる立場を揚棄して民族全體主義の至善至高の立場に安住し、すべてのものをしてその所を得せしめねばならない。

歐米のデモクラシーの如きは結局多數が少數を壓迫する政治形態であり、各人が皆その所を得て王者に歸一する東洋本來の政治形態に比してはるかに劣れるものである。

處がこゝに重大なる問題が存在する。それは、日本と支那との文化關係が同時に明明徳と新民との關係になつてゐることである。即ち日の國である日本こそは輝かしき明徳を明らかにしたものであり、天皇の御稜威によつて今や支那は精神的に更生せられんとしてゐるのである。これが即ち新民に外ならない。この點は新民主主義の研究解釋に當り忘れてならぬ點である。昭和の出所である



「百姓昭明萬邦協和」も明明徳新民と同意義である。なほ將來新政權の官吏となるべきものを養成する新民學院においては先づ第一に新民主主義のイデオロギーを教へ込むこととなつてゐる。既に第一回の卒業生約六十名は最近日本を訪れて見學する處があつた。

第四は『剿共滅黨の旗幟の下に反共戦線に参加する』ことである。そもく東洋精神文化と唯物的共產主義とは根本的に到底相調和し得ない。宋介氏の言によれば共產黨は「恨的哲學」を出發點となすものであつて、和平と親善とを圖らんとする孔孟の教あるひは佛敎と相矛盾する、實に中國共產黨は、郷村を廢墟となし、禮敎を破壊し、倫常を毀滅した。コミンテルンの赤色帝國主義は、日支間に衝突を發生せしめて漁夫の利を得むとするものである。こゝにおいてか新生支那は日本並にその盟邦獨伊と共に反共戦線を結成しなければならぬ。

私がこの度寺平大尉より親しく聞いた所によれば、北京廣安門事件の前後において共產黨はあらゆる策謀をめぐらし、日支兩軍を戦闘に誘導せんとたくらんだのである。たとへば相對峙する日支兩軍陣地の中間に爆竹を仕掛け日本軍に對してはあたかも支那軍が發砲したるの如き印象を與へると共に、また支那軍に對してもあたかも日本軍が先に發砲したるが如き感じを與へ兩虎相共に戦はしめんと欲したものである。

さて西安事件後は、モスコの指令に従ひ、國共合作が行はれ統一的抗日人民戦線が結成されたこゝにおいてかどうしても剿共滅黨を實現しなければならぬ。これに關聯して注目すべき現象は北京における對回教文化工作である。茂川少佐の下に活躍する新進氣鋭の小池定雄氏を最高顧問とする中國回教總聯合會こそはその中核である。回教徒は宗教的信念にすこぶ篤く、従つて無神論を振りかざす共產主義と絶對に相容れない。

第五は『友隣との締盟實現を促進し以て人類の和平に貢獻する』といふのである。こゝに友隣締盟とはいはゆる日、滿、支三國の文化的並に經濟的ブロックを意味するものと考へられる。しかしブロックといふ言葉は如何にも機械的であり物質的であるから、むしろ東亞運命共同體の建設といつた方がより適切であると思ふ。即ち三國は西洋的の個我的立場を捨て、いづれもより高次段階の東亞ゲマンシャフトの有機的構成部分であるといふ深き存在意識に目覺めなければならぬ。現在不幸にして支那の知識階級は依然として我が大陸經綸を以て侵略主義と同視し、日本は支那を第二のインドとなすものであるといふやうに考へてゐる。この誤れる彼等の民族意識を清算すると共に更に彼等を共產主義の惡意的魅力から解放せんがためには、より高貴なる建設的イデオロギーが要求される。即ちそれは東亞運命共同體再建への提携協力を目的とする全體主義イデオロギーであ



る。このイデオロギーを度外視した經濟工作は何等深き根帯を張り得ないであらう。實に支那及び廣く東亞に對する今日の文化工作は平面的自由主義的なるいはゆる文化事業ではなくして熾烈深刻なる立體的創造的なる思想戦でなければならぬ。

以上によつて新民會の綱領を説明し得たと思ふ。しかしてその事業の敢行こそは北支文化工作諸問題の解決となるのである。最後に一言すべきは昨年十二月の東亞文化振興協議會において決議された民間の日支文化提携機關たる東亞文教會が近く北京において發會式をあげる段取となつたことである。

## 東亞盟邦結成のイデオロギー

我々は日支事變一週年を迎へて深き感慨を覺えざるを得ない。此の秋に東亞と世界の相關々係を深く認識して我々の確乎たる精神的指針をより鮮明たらしむることは急務中の急務である。

最近、世界の國際政治の場面において、特に注目すべき現象は、第十九世紀的なる個人主義イデオロギーの國際的顯現に過ぎない所謂獨立主義國家の概念が次第にその勢力を失墜し、これに代つて超國家的な政治グループが形成されつゝある事である。

その最も代表的なものは、英本國を感情的紐帶とし、南阿・加奈陀・印度・オーストラリア・ニュージーランド等の各自治領を結合せしめて出來上つてゐる廣汎なる英帝國である。ブリタニシ・エンパイア アングロ・サク



ソソ民族の此の一大國際政治機構は、昨夏ロンドンに於いて行はれた新帝ジョージ六世の戴冠式を契機として精神的に更に強化せられた。殊に國防問題に關しては、英本國は尨大なる軍事豫算を編成して漸く國際的に不安を感じ始めてゐる各自治領へ、確固たる保障を與へる事を約したのである。然も日支事變の勃發によつて、我が國の決定的政治勢力が、全東亞の國際政治の舞臺に大きくクロズ・アップされて以來英帝國の國防完備への努力には一層の拍車がかけられた感がある。

次に、ソ滿國境を界して直接わが政治勢力範圍と接觸するソ聯邦は、實に全世界陸地の六分の一を占むる巨大なる地域的ブロックであつて、その裡に大ロシア、白ロシア、ウクライナ、ジョルジア等幾多の國家的要素を包含してゐる。廣漠たる領域を通じて共產主義が指導原理として一元的に確立せられその下に國防と經濟とが共同的に確保せられてゐるのである。第七回コミンテルン世界大會の決議によつて國際的人民戦線が結成せられると共に、ソ聯の國防方針は頗る積極的となり、西に於いてはスペイン、東に於いては支那を通じて、全世界赤化運動への系統的攻勢を開始したのである。最近ソ聯邦内部に於いて凄慘なる内訌が續發して以來、また日獨伊防共協定の成立によつて絶大なる無言の國際的壓迫を受くるに及んでコミンテルンの活動は頭初の如き積極性を示してはゐないけれども、その勢力は尙侮り難きものがあり、防共戦線の擴大強化は實に日本にとつてのみならず世界政治の最大關心事の一つとなつてゐる。

更に海を隔て、米大陸へ眼を轉ずるならば、其處に於いても同様の傾向が現はれつゝあることを見逃すわけにはゆかない。ルーズヴェルトが政權を掌握して以來、國際的並びに經濟的見地より、南北兩亞米利加を合體して所謂汎アメリカを實現せんとする氣運が濃厚となりつゝある。もとよりラテン系の南米諸國は、政治的にもまた文化的にもアングロ・サクソン系の北米に對して快くは思つてゐないけれども、さりとして國防及び經濟の見地からは南北兩米の連帶的協力には何等反對すべき理由をもたない。米大陸のこの傾向が東洋に於ける日本の凄まじい興隆と、歐洲に於ける獨伊の飛躍的擡頭によつて促されたものである事は疑ひ得ないところである。最近に於ける米海軍の大擴張案の如きも世界的政治の新動向の觀點よりこれを考察するに非ざればその眞意を把握し得ないと思ふ。

最後に、比較的狹隘なる天地に數個の強國が相對峙して鬭争し常に世界の政治的不安を醸成し來つた歐洲に於いてすら、絶對主權を説く舊來の國家學説を以てしては到底解明し得ざる事實が現れて來た。即ちその最も顯著なるものは、英佛を政治的重心とする現状維持的人民戦線國家群の結成である。それは所謂デモクラシーを共同の指導原理となし、事實上その傀儡に過ぎざる國際聯盟を



利用して飽くまで自己の既得利益を維持せんと欲してゐる一群である。これに對抗して出現せるものは民族全體主義を標榜する獨伊を樞軸とする現狀打開的國民戰線國家群である。もとより之等の歐洲國家集團は、他の國際ブロックに比較して共同性が左程に鞏固ではないけれども、尠くとも國防の點に就いては超國家性を愈々鮮明になしつゝある。例へば所謂、ベルリン・ローマ樞軸は現在の段階に於いてすら一元的なる一大國防單位であつて、一方ソ聯に對抗すると共に、他方、英・米佛等のリベラリズム・イデオロギーに向つて敢然と挑戰を續けてゐる。

以上に述べたるが如く、歐米に於いては超國家的政治ブロックが次第に成長し、彼等の間に於ける對立相剋が明日の世界の運命を決定するが如くに見えてゐる。

二

然るに、翻つて東亞の國際情勢を顧てみるに、それが依然として未組織無統制のまゝに放置せられ、一面は北より伸びるソ聯赤色侵略主義の蹂躪に任せられるとともに、他面南よりひた押しに迫り來る英佛の資本的帝國主義の擗取に甘んじつゝある實狀を看取して今更ながら愕然たらざるを得ないのである。

元來亞細亞は、大和民族の優れたる豫言者岡倉天心が喝破したるが如く、一の統一であり運命的全體性を有すべきものである。我々は亞細亞の三大文化國たる日本、支那、印度が高邁尊貴の精神主義を共通するものであり、従つて全亞細亞は分裂すべからざる一大調和の運命共同體であることを彼等の聖賢の遺訓を通じて悟得してゐる。地理的にも亦氣象的にも亞細亞の一體性は新たに再認識せられねばならない。印度洋を吹き荒ぶモンスーンと、長江流域に發生する氣壓の變化と、我が國に於ける四季の變化とが如何に密接不可分の關係を有するものであるかと云ふ事は今更ながら説くまでもないことである。

我々が過去の文化史を繙くときに、如何に我が國固有の神道文化が、印度の佛教文化と支那の儒教とによつて深化せられ、豊富にせられたかと云ふ事をしみじみ感ぜしめられるのである。かくの如く東亞は歴史的にも現實的にも明かに不可分的なる超國家的共同體である可き筈なのである。

然るに、西力東漸以來、亞細亞は常に受身であつて、次第に白人帝國主義の蠶食併吞するところとなり、その結果會つて存在せるその文化的統一性は無殘にも破壊されてしまつたのである。幸ひ日本の蹶起によつて始めて東亞の歐米に對する防衛的體制が出来かゝつたのである。實に日本が國際政治の檜舞臺に雄々しくも登場し來たつて不純なる東漸西歐勢力の進攻を防遏し得た事は世界史



的重大性を有するものである。即ち日本は單に自國だけを防衛したのではなくて、身を以て全亞細亞を不幸なる侵略から防衛擁護したものであつた。若し日本が存在しなかつたと假定したならば、既に支那は完全に歐米列強の爲に分割せられて仕舞つたであらうし、また分割せられないとしても列強の共同管理は免れ得ないところであつた。

明治維新より日露戦争の直後にかけて、我が國の指導者達は、概してかくの如き全東亞的經綸論の持主であつた。明治天皇は皇祖皇宗の遺訓を奉ぜられて「修理固成」の神勅を明治維新の指導原理として再確立し給ふたのであるが、彼等は此の御聖旨の忠實なる遵奉者であつた。當時、列強は明治天皇の大宇宙さながらの世界的御經綸に對して心より敬意を表し、旭日の勢ひを以て勃興し來たれる我が國の颯爽たる姿に驚愕の眼を瞠つたのである。

然るに不幸にして維新の元勳の後繼者となつた人々は、殆んど皆近代西洋の法治主義的合理主義の教育を受けたものであつて、雄渾を極めた明治維新の大理想を理解すべく餘りにも小さき事務家型の人物であつた。殆んど無制限に滔々として西歐から流入して來た個人主義、自由主義、法治主義議會主義、社會主義、共產主義の非日本的イデオロギーによつて救ひ難く混迷せられた彼等は、何時の間にか天人合一神人合一の深遠にして立體的なる東洋の人生觀、世界觀を把握し得なくなつ

てしまつた。彼等は安價なる合理主義と主觀的なる人道主義とに逃避して深奥なる生命の生成の實相に觸れることを恐れたのである。

その結果所謂インテリゲンチアは、永遠なる生命主義に根底を有する我が民族の道義的使命に對する直感力を失ひ、亦宇宙の絶對中心を表現せらるゝ天皇に對する絶對的信仰に對してすら私議するに至つた。かくて個人主義と唯物主義とが勢力を振ひ、これに反して血液の本能的直觀に發する民族主義と、精神を優位とする傳統的精神とが次第に姿を隠して行つた。それと同時に同質の精神文化と共通の血脈的人種的因縁によつて運命的に結ばれて來た東亞諸民族に對する親和感が次第々々に薄れて行つた。例へば昔時に於ける日支の關係は、無意識ながら密接なる文化的連帶關係であつて、兩國は切つても切れぬ間柄であつた。如何に我が國の文物制度が支那朝鮮の歸化人に負ふてゐるかと云ふ事は、云ふまでもないことである。然るに我が國が西洋文明を遮二無二攝容して歐米並みの所謂強國の班に列することを何よりの名譽であると心得て以來、知識層は傳統的人種的並びに精神的連帶性を無視して、亞細亞の諸民族を全く文化系統の異りたる劣等民族の如く錯覺して蔑視するに至つた。我々には此の嘆かはしき現象を通じて生命的内容と傳統と歴史性と民族世界觀とを抽象して、唯形式的にももの評價を敢てする自由主義文明が如何に世界を混亂に陥



れまた優れたる精神文化を破壊せんとするものであると云ふ事實を見せつけられるのである。すめ、  
らみくにの光輝ある傳統を裡に藏しつつも、表面的には資本主義を法治主義と機械主義と合理主義  
と政黨政治主義とによつて不當に歪められて來た日本は、次第に亞細亞の諸民族を以て自己の運命  
的同胞と考へない様になつてしまつた。

西歐の唯物的イデオロギー、殊にアングロ・サクソンの實利主義に心酔した當時の指導者達は、  
亞細亞の諸國、就中支那をもつて單なる經濟的搾取もしくは軍事的攻略の客體であるかの如くに考  
へたのであつた。彼等は一面に於いては英米等に對して頗る卑屈なる阿諛的態度をとりつゝも、他  
面日支相互の文化的精神的連帶感情を強ひて無視して、支那に對して頗る傲岸不遜なる態度をとり  
たる事は實に淺ましき限りであつた。かくの如くなりあがりであり、非亞細亞的なる者の態度は  
亞細亞諸國を精神的に我々から乖離せしめてしまつた。本來ならば亞細亞諸民族は當然日本を彼等  
の精神的盟主と仰いで、その下に歸一して彼等の解放を求めなければならなかつたにも拘らず、事  
實は不幸にして、日本をもつてむしろ西洋諸國よりも恐る可き東亞の侵略者なりと斷するが如き態  
度を示したのである。しかも我が國の指導者層——殊にインテリゲンチアは依然としてその政治的  
經濟的並びに文化的關心を歐米に集中して、東亞に對しては殆んど無頓著であるかの如き觀を呈し

て來たのであつた。

### 三

然しながら、如何に我が表面的指導層の傾向が西洋化にあつたにせよ、我が國家全體の動きと存  
在とが、潜在意識的に全東亞の動きと離れ難く結びついてゐたことも儼然たる事實であつた。しか  
もこの儼然たる事實が、聽てインテリゲンチアの皮相なる浮動性に復讐することとなつたのであ  
る。

それは、國內問題としては血盟團事件、五・一五事件、二・二六事件等の凄慘なる事件となつて  
表面化すると共に、國際的には滿洲事變の勃發としてはつきりした姿を現はしたのである。滿洲事  
變は一方滿洲國を出現せしむると共に、他方國際聯盟からの脱退を敢行せしめた。

この二大事實は我が國の思想文化を急角度に轉換せしめ、それまで下積となつて鬱血して來た日  
本精神と東洋文化との反撥的擡頭を促したのである。それと同時に、今迄インテリの金科玉條とな  
つて來た個人主義、自由主義、社會主義、共產主義等が嚴肅なる批判をうけて全面的に撤退し始め  
たのである。その勢ひの赴くところ、遂に國家法人説と天皇機關説の敗退となり、國體明徴と文化



刷新の問題が革新政策の中核として取りあげられるに至つた。かくて日本精神と皇道原理とは全國民の歸趨すべき思想的王座を占むべき運びとなつた、これと同時に、東洋諸國に對する民族的關心が深まつて來たのである。日滿議定書による兩國國防の一文化と、日滿經濟ブロックの傾向はその最も顯著なる現れである。

全く日本と滿洲國とは、外面上別個の二國家でありながら内面的には心を一にし徳を一にする一元的協同體なのである。かくの如き新しき政治機構は、從來の舊き西歐的國家學說に據つては到底説明し得ないものである。それはたゞ八紘一宇、修理固成の皇道國際政治原理によつてのみ明らかにならねばならぬものである。獨伊との間に結ばれた防共協定がこの傾向を助長した事も疑ひもない。今や日本は、西歐の東漸勢力によつて破壊された東亞の再建を双肩に擔ふて活潑なる一步を踏み出したのである。併し乍ら遺憾な事には、知識指導層の大部分は、依然として我が民族使命の大義に徹せず、日本精神運動に對してむしろ對抗的な立場をとつてゐるのではあるまいか。而して斯くの如き傾向は政黨、軍部、官僚の間の相剋摩擦を増大せしめ、諸外國に對しても、國內の思想的統一が舉國一致を妨害してゐるが如き印象を與へたのである。その間、日本の自覺的指導によつて東亞の全體性が復興せられ、それによりて自己の侵略が不可能となるべきを洞察した英・佛・ソ等

は排日を國策とする蔣介石國民黨政府を煽動援助して彼等を愈々つけあがらしめたのである。此の一大混亂の眞中に、突如としてこの度の事變が勃發したのである。

この度の事變は、實に幾多の重大なる契機を孕むものであるが、その最も重要なものは日本の全亞細亞再組織に對する大責任を自覺的に喚起したことである。運命的にみて素より今次の事變は滿洲事變の繼續である。併しその意義は更に深く深刻なるものであつて、日本民族の存在は一にそれに懸つてゐるのである。また東亞全體の運命も一にそれにかゝつてゐるのである。アジアは一元的に組織せられねばならぬ。之が板垣陸相の所謂「長期建設」である。今や國民は舉國一致の體制に於いてその關心の焦點を歐米より東亞に向け直さなければならぬ。東亞運命共同體の再認識と再組織とは最も根本的な國策とならなければならぬ。日本と東亞大陸とが不可分一體であること云ふ事は、最早議論の領域を逸脱してまざくとした事實となつたのである。日本は今日東亞から一步も手を引く事は出來ない。百萬の皇軍の赫々たる威勳を如何に効果あらしめるかと云ふことと東洋再建の問題とは之を切り離して考へられぬ。東洋政治學の言葉を借りて云へば「治國」の過程は「平天下」の過程にまで飛躍してしまつたのである。日本はどれ程苦しい立場に置かれても、亞細亞を再組織してこれに新しき建設的進歩的秩序を與へ、東洋の諸民族を解放して彼等を安心立



命せしむる使命を果さねばならぬ。この遠大なる目的遂行の爲めにこそ内閣は強化されねばならぬし、精神物資總動員による戦時體制が確立せられねばならぬのである。

昨年北支に生れた中華民國臨時政府と、並びにこれと表裏の關係に立つ新民會こそは、我が遠大なる東亞經綸遂行の橋渡しとなるべき重大なる役割を演ずるものである。

#### 四

今日、眼前に刻一刻と發生しつゝある日支の新しき關係は、事變前に於ける對立的功利的關係とは自然本質を異にする大調和的道義關係である。それはとりもなほさず「修理固成」の御神勅の實踐によりて發生せる關係に他ならないのである。事實上日滿の精神的並びに經濟的連帶性は更に中國に擴充せられたのである。かくて亞細亞の超國家的政治機構が力強く次第／＼に實現されんとしつゝあるのである。

北支の新政權及び新民會を貫く共同の指導原理は即ち新民主義である。

新民と云ふ言葉は、經典「大學」に出づるものである。「大學」の冒頭に「明々徳新民止於至善」と述べてある。従つて明々徳と新民とは内面的に有機的關係を有するものである。この場合、明々徳を

行ふものは我が日本である。而してその光被的働きかけによつて、これ迄國民黨の三民主義とコミンテルンの共產主義の爲に邪道に墮してゐた支那國民が始めて正道に引き戻され、その結果精神的に更生せんとしてゐるのである。これが即ち新民に他ならない。されば日本は當然更生支那に對して精神的指導を行はなければならない立場にある。併し乍らこの指導は宇宙の創造愛にもとづく眞の權威に即す可きであつて、官僚獨善的なる權力によるべきではない。

従つて將來支那は、日本を徒らに敵視するが如き非東洋的國家主義思想を一擲して全亞細亞の連帶的立場に自己を高めねばならぬ。日本もまた、偏狹なる偽國家主義を清算して全亞細亞的な立場に飛躍しなければならぬ。かくてこそ日本と支那とは、搾取被搾取、或は征服被征服の對立功利的立場を克服して相互に離れ難く結びつけられた東亞の運命的戰友となるのである。此の深き東洋的情操を涵養して後にこそ初めて東亞盟邦も建設し得るのである。

されば、この道義情操は政治的協力と經濟的開發に先行せねばならぬ。

恰も歐米に於ける超國家的グループが、一般的に國防、經濟及イデオロギーを共同となすが如く新に生れんとする東亞の運命的政治ブロックに於いても、この三者は共同性を所有せねばならぬ。さし當り全亞細亞政治機構の有機的部分は、日滿支蒙の四ヶ國となると考へられる。これ等のもの



を通じて思想・国防・經濟の一元化が企劃されねばならぬ。現在表面化してゐる問題は國防である。例へば假りに日本が英本國と戦端を開いた場合には、同時に加奈陀・オーストラリア・ニュージールランド等の英自治領を敵としなければならぬ様に、近き將來に於いては日本を敵とする西歐の國家は同時に滿支蒙を敵としなければならぬのである。

これが東亞運命共同體の國防問題である。この場合、共同の假想敵として考察せらるべきものは、先づ第一にコミンテルンを操るソ聯であり、第二は、經濟的に財政的に蔣政權の支柱となつてゐる英國であると思ふ。而して現在の段階に於ては、これらの強大なる共同の假想敵をはつきりと認識する場合に於いて、始めて東亞は力強き團結として形成されるのである。以上が東亞運命共同體の消極的任務である。次にその積極的任務に就いて語らねばならぬ。

積極的任務の問題は、勿論經濟ブロックに關するものであるが、これは今日ステツデイに實現の過程を辿りつゝある。而して日滿の經濟相互依存は當然日滿支の相互依存にまで擴大せらるゝのである。既に北支に於いては王克敏を會長とする日華經濟協議會が北支産業開發の大原則を確立したのである。即ち、北支に於いて増産せらるべき棉花その他の農業的資源を日本工業の原料とし、その代價として日本の工業生産品を輸入して相互依存の關係を樹立し、鑛業的資源に就いては兩國の資

本によりての開拓を計り、各種産業に對しては兩國の經濟的相剋及び當業者間の競争による資本の浪費を排除し、且日支合辦組織によつて相當の資本及び經營上の緊密なる連繫を實現すると共に第三國資本の誘入に努めると云ふのがその骨子となつてゐる。

而してこの傾向は事變が長期戦となるにつれて益々濃厚とならざるを得ない。内地に於ける物資節約が切實となればなる程、日滿支の經濟一體性は益々強調されねばならぬのである。かくの如く經濟の共同性は東亞運命共同體の再建に當つて重要な要素となるべきは云ふを俟たないが、それにも増して重大なる問題は、東亞全體を貫く指導原理或はイデオロギーの問題である。これこそ新しき意味に於ける文化工作の實體をなすものである。

## 五

從來我が國が行つて來つた對支文化工作は、所謂文化事業と稱せられるものであつて、極めて平面的且自由主義的なるビジネスであつた。即ち支那留學生に給費したり、或は北京、上海等に研究若しくは中等程度の學校を經營する等の事であつて、これは主として英米等の自由主義國家の後塵を拜したものと云ふべく、我が國の獨創に出づるものは極めて尠なかつたのである。自由主義政治